

# わたしの<sup>せいしよ</sup>聖書が<sup>いちばん</sup>一番！ <sup>かん</sup>10巻

<sup>かんき</sup>歡喜につつまれた<sup>にゆうじょう</sup>入場～  
<sup>しゆ</sup>主はよみがえられた！

～<sup>ふくいんしよ</sup>マタイによる福音書 <sup>しやう</sup>21章 - <sup>ふくいんしよ</sup>マタイによる福音書 <sup>しやう</sup>28章～







## もくじ

だい しょう	かんき	にゆうじょう	1	
第1章	歓喜	につつまれた入場	1	
だい しょう	しんでん	きよ	さま	8
第2章	神殿	をふたたびお清め	になったイエス様	8
だい しょう	さいご	しんでんほうもん	15	
第3章	最後の	神殿訪問	15	
だい しょう	さいりん	ぜんちょう	23	
第4章	再臨	の前兆	23	
だい しょう	さいご	かた	ばなし	31
第5章	最後に	語られたたとえ話	31	
だい しょう	さいご	さま	もち	38
第6章	イエス様	のために用いる	タラント	38
だい しょう	さいご	ばん	45	
第7章	最後の	晩さん	45	
だい しょう	ゲッセマネ	53		
第8章	ゲッセマネ	53		
だい しょう	ひにん	61		
第9章	ペテロの	否認	61	
だい しょう	うらぎ	ゆうざいはんけつ	68	
第10章	裏切り	と有罪判決	68	
だい しょう	さいこう	おく	もの	76
第11章	最高の	贈り物	76	
だい しょう	し	いのち	85	
第12章	死から	命へ	85	
だい しょう	しゅ	89		
第13章	主は	よみがえられた!	89	





# だい しょう 第1章 かんき にゅうじょう 歓喜につつまれた入場



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

「ダビデの子に、ホサナ。主の御名によってきたる者に、祝福あれ。」  
マタイ 21:9

### にちようび 日曜日

パ<sup>びと</sup>リサイ人シモンが、イエ<sup>さま</sup>ス様のために開いた宴会<sup>ひら えんかい</sup>の翌日<sup>よくじつ</sup>は、日曜日<sup>にちようび</sup>でした。もしあなたがその日<sup>ひ</sup>にベタニヤにいたならば、興奮<sup>こうふん</sup>した大勢<sup>おおぜい</sup>の群衆<sup>ぐんしゅう</sup>が、エルサレム<sup>エルサレム</sup>への道<sup>みち</sup>を歩いて行くの<sup>い</sup>を見た<sup>み</sup>でしょう。

その日<sup>ひ</sup>、あなたがエルサレムにいたならば、興奮<sup>こうふん</sup>でわき立<sup>た</sup>った人々<sup>ひとびと</sup>が、あわただしく都<sup>みやこ</sup>の外<sup>そと</sup>へと出て行き、よそからやってきた群衆<sup>ぐんしゅう</sup>といっしょになろうとするのを見た<sup>み</sup>ことでしょう。

また、もしあなたが「夕方<sup>ゆうがた</sup>の犠牲<sup>ぎせい</sup>」をささげる時間<sup>じかん</sup>に神殿<sup>しんでん</sup>にいたならば、あまり人<sup>ひと</sup>がないことに気づいた<sup>き</sup>でしょう。そして、よそからの群衆<sup>ぐんしゅう</sup>といっしょになるために人々<sup>ひとびと</sup>が出て行った<sup>い</sup>ことを知<sup>し</sup>った祭司<sup>さいし</sup>と役人<sup>やくにん</sup>たちが、怒<sup>いか</sup>り、互<sup>たが</sup>いに話し合<sup>はな</sup>っているの<sup>あ</sup>を、あなたは耳<sup>みみ</sup>にした<sup>み</sup>ことでしょう。

おそらく、一番<sup>いちばん</sup>興奮<sup>こうふん</sup>していたのは、イエス



さま<sup>でし</sup>様の弟子<sup>おも</sup>たちだっと思<sup>おも</sup>います。そして、あなた<sup>あなた</sup>がその場<sup>ば</sup>にいたなら、彼ら<sup>かれ</sup>と同じく<sup>おな</sup>らいうき<sup>き</sup>しては<sup>はず</sup>ずです。

いったい、何が<sup>なに</sup>あつた<sup>あつた</sup>のですか？これほど多く<sup>おほ</sup>の人<sup>ひと</sup>たちが、こんなにも興奮<sup>こうふん</sup>していたのはなぜ<sup>なぜ</sup>でしょう？それでは、わたし

たちも、オリブ山<sup>やま</sup>からエルサレム<sup>エルサレム</sup>へと向<sup>む</sup>かう<sup>む</sup>人<sup>ひと</sup>たちと、いっしょ<sup>いっしょ</sup>になつて<sup>なつて</sup>みましょ

イエス様<sup>さま</sup>は、ふたりの弟子<sup>でし</sup>に何<sup>なに</sup>をお命<sup>めい</sup>じに<sup>めい</sup>なりましたか？ルカ 19:29-31。

いつもは歩<sup>ある</sup>いて行<sup>い</sup>かれるイエス様<sup>さま</sup>が、どうしてロバ<sup>ロバ</sup>をつれてくるようにと<sup>い</sup>言<sup>い</sup>われたので<sup>ので</sup>しょうか？イエス様<sup>さま</sup>は本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に、ロバ<sup>ロバ</sup>に乗<sup>の</sup>ってエルサレム<sup>エルサレム</sup>に入<sup>にゅう</sup>場<sup>じょう</sup>し、王<sup>おう</sup>様<sup>さま</sup>になることをよ<sup>よ</sup>しとさ<sup>さ</sup>れるので<sup>ので</sup>しょうか？弟子<sup>でし</sup>たちは、大<sup>おほ</sup>よろこ<sup>こ</sup>びで<sup>で</sup>す。

**かんが** **考えてみよう**：イエス様<sup>さま</sup>は、わたし<sup>わたし</sup>たちの<sup>の</sup>世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>をお造<sup>つく</sup>りになり、その中<sup>なか</sup>のすべ<sup>も</sup>ての持<sup>も</sup>ち<sup>もち</sup>主<sup>ぬし</sup>であられるにもか<sup>にか</sup>かわらず、人<sup>にん</sup>間<sup>げん</sup>となられ

た時にはとても貧しく、ロバすら、借りなくてはならないほどでした。

## げつようび 月曜日

イエス様と弟子たちは、大勢の群衆とともに、エルサレムへと向かう道を進んでいましたが、途中一頭のロバを借りて来させるために、ふたりの弟子を先につかわしました。ロバは、イエス様の言われたとおりの場所にいましたか？ルカ 19:32-34。

ふたりの弟子がロバをつれてもどつくと、何が起こりましたか？ 35 節。

イエス様のなさることを見て、人々は歓喜のさけび声をあげました。彼らの王様がロバの子に乗って来られるとの預言が、ついに成就したのです。ゼカリヤ 9:9。

ものすごい歓声です！いたるところから、人々が走ってきます。彼らは自分たちの外どう〔コート〕を脱いで道に広げ、イエス様を乗せたロバがその上を歩けるようにしました。また、すばやくヤシの枝を切り、それを手にもってふりました。そして声を合わせて、賛美の歌をうたいました。ルカ 19:36-38。

これ以上のよろこびをもって迎えられた王様は、他にいません。過越しの祭りのために来ていた人々も、群衆に加わりました。そこには、イエス様からいやしてもらった人たちもいました。死からよみがえらさ

れたラザロは、イエス様の乗ったロバをひいて、先頭を歩いていました。

祭司たちと役人たちは、怒り狂っています。彼らは互いに「みんなが、あの男〔イエス様〕について行っているぞ」といっています。

**かんが**  
**考えてみよう：あなただつたら、その日、どの場所にいたかったですか？それはなぜですか？**

## かようび 火曜日

ロバに乗ってエルサレムに入られたイエス様を、人々は「王さま」と呼んでいます。彼は、人々が望んでいるような王ではなく、その王国も、人々が期待しているような国ではありませんでした。それなのに、イエス様はなぜ、人々から「王さま」と呼ばれることをおゆるしになったのでしょうか？

イエス様は、たった数日のうちに、ご自分が恐ろしい死を経験なさることをご存知でした。彼こそが、全世界のために命をささげる神の小羊でした。そこでイエス様は、できるかぎり多くの人に、ご自分が何者であるか、またなぜ死ななくてはならないのかを知ってほしいと望んでおられました。

イエス様はまた、ご自分の死によって、何千何万という人たちが、聖書の預言をけんきゆう研究するようになることもご存じでした。これらの人たちは、イエス様が真の神の小羊であられることを知り、彼らの多くが、

その犠牲の死が自分自身のためであったことを受け入れるでしょう。そして、イエス様がご自分の民を天国へつれて行くために再臨なさる時までには、さらに多くの人たちが彼の王国を選ぶことでしょう。

パリサイ人たちは、人々がイエス様を王にまつりあげようとしているのを見て、それをやめさせようとしてきました。ところが、だれも彼らの言うことを聞かなかったので、パリサイ人たちはますます怒りました。もしこれらの群衆がイエス様を王にまつりあげるなら、だれも祭司や役人たちの言うことを聞かなくなるのを知っていたからです。しまいにはパリサイ人たちは、イエス様に何をするように求めましたか？

### 19:39.

彼らがしていることをやめたら、何が起きるだろうとイエス様は言われましたか？

### 40 節。

**考えてみよう:** なぜパリサイ人たちは、これほどまでにイエス様をねたんでいたのでしょうか？パリサイ人たちがイエス様のことを好きでなくても、イエス様は彼らのことを愛しておられましたか？

## すいようび 水曜日

□ バにのられたイエス様のあとについて、大喜びの群衆と弟子たちもエルサレムに入って行きました。

オリブ山の頂上へ来ると、イエス様が立ち止まったので、ほかの人たちも止まりました。そこからは、エルサレムの都全体を見下ろすことができました。金

で飾りつけられた白い大理石の神殿が、夕日に照らされて、雪の城のようにキラキラと輝いています。その光景を目のあたりにした人たちは、感動にふるえたことでしょう！

それから彼らは、イエス様のほうを見ました。イエス様もきっと、この神殿を誇りに感じておられるだろう、と思っていました。ところが、涙がイエス様の頬をつたっているのを見て、彼らはおどろきました。イエス様のようすは、とても悲しそうでした。なぜでしょうか？

イエス様は、エルサレムの人々によって、何度もなんども失望させられたことを思い出して泣いておられたのでした。忠実な預言者たちが、くりかえし彼らに警告しました。しばしば神様は、愛のうちに彼らを罰して、彼らが心から悔い改めると、おゆるしになりました。しかし、エルサレムの民衆と指導者たちは、いつでも罪の道にもどり、ますます墮落していったのでした。

今や彼らは、長い間待ち望んでいた真のメシヤであるイエス様を、殺そうとたくらんでいました。イエス様だけが、彼らを罪から救うことができました。けれども、彼らが求めていたのは、ローマの支配から自分たちを解放し、自分たちが望むような国をうちたてるメシヤでした。彼らは、「盲人〔目の見えない人〕」でいることを選んでいたのです。ルカ 19:41,42。

**考えてみよう:** 今でも多くの人たちが、盲人でいることを選んでいますか？そのような人たちの心の目を開く手伝いをするた



めに、<sup>わたし</sup>私たちに何が<sup>なに</sup>できますか？

## もくようび 木曜日

**そ**の<sup>ひ</sup>日、<sup>ぐんしゆう</sup>群衆の中<sup>なか</sup>には、ローマの<sup>やくにん</sup>役人<sup>ひと</sup>たちもいました。イエス様<sup>さま</sup>を<sup>おう</sup>王<sup>ひと</sup>にしようとする人<sup>ひと</sup>たちを止めることができな<sup>き</sup>かった<sup>さいし</sup>祭司<sup>りつぽうがくしや</sup>や<sup>やくにん</sup>律法学者<sup>さま</sup>たちが、ローマの<sup>やくにん</sup>役人<sup>さま</sup>に、イエス様<sup>はんらん</sup>が<sup>お</sup>反乱<sup>お</sup>を起こそうと<sup>はな</sup>していると話<sup>はな</sup>したのです。

そこで<sup>かれ</sup>彼らは、イエス様<sup>さま</sup>と話<sup>はなし</sup>をすること<sup>き</sup>にしました。イエス様<sup>さま</sup>の<sup>おうこく</sup>王国<sup>き</sup>のことを聞<sup>き</sup>いた<sup>やくにん</sup>ローマの<sup>つよ</sup>役人<sup>こころ</sup>たちは、強<sup>う</sup>く心<sup>う</sup>を打<sup>う</sup>たれました。彼ら<sup>かれ</sup>には、イエス様<sup>さま</sup>が<sup>しんり</sup>真理<sup>しんり</sup>を<sup>かた</sup>語<sup>かた</sup>っておられることがわかりました。また、<sup>さいし</sup>祭司<sup>りつぽうがくしや</sup>や<sup>かれ</sup>律法学者<sup>かれ</sup>たちが彼<sup>かれ</sup>を<sup>ね</sup>ねた<sup>ね</sup>んでいることも、すぐ<sup>すぐ</sup>に<sup>わか</sup>わかりました。そして、ローマの<sup>やくにん</sup>役人<sup>もんたい</sup>たちは、問題<sup>お</sup>を起<sup>お</sup>こしているのはイエス様<sup>さま</sup>で<sup>は</sup>なく、<sup>さいし</sup>祭司<sup>りつぽうがくしや</sup>や<sup>やくにん</sup>律法学者<sup>やくにん</sup>たち<sup>やくにん</sup>であると言<sup>い</sup>ったのでした。

このこと<sup>さいし</sup>で、<sup>りつぽうがくしや</sup>祭司<sup>りつぽうがくしや</sup>や<sup>わる</sup>律法学者<sup>わる</sup>たちは<sup>な</sup>きまり悪<sup>な</sup>く<sup>な</sup>ってしまいましたが、それ<sup>でも</sup>でも<sup>な</sup>お、<sup>ひとびと</sup>人々<sup>せつとく</sup>を説<sup>せつとく</sup>得<sup>せつとく</sup>しよう<sup>せつとく</sup>としました。彼ら<sup>かれ</sup>が<sup>おおごえ</sup>大声<sup>い</sup>で言<sup>い</sup>い争<sup>い</sup>っているあいだに、<sup>さま</sup>イエス様<sup>でし</sup>と<sup>ぼ</sup>弟子<sup>さ</sup>たちは<sup>ば</sup>その<sup>さ</sup>場<sup>さ</sup>を去<sup>さ</sup>って、<sup>しんでん</sup>神殿<sup>はい</sup>に入<sup>い</sup>って行<sup>い</sup>きました。そこは、とて<sup>も</sup>静<sup>しず</sup>か<sup>しず</sup>か<sup>しず</sup>でした。礼<sup>れい</sup>拜<sup>はい</sup>にや<sup>はい</sup>って<sup>はい</sup>きた<sup>はい</sup>ほとん<sup>はい</sup>どの<sup>はい</sup>人<sup>はい</sup>が、そこ<sup>ひと</sup>を出<sup>で</sup>て、通<sup>とお</sup>りに<sup>ぐんしゆう</sup>いる<sup>くわ</sup>群衆<sup>くわ</sup>に加<sup>くわ</sup>わ<sup>くわ</sup>っていたから<sup>くわ</sup>です。

おそ<sup>さま</sup>らく、<sup>かな</sup>イエス様<sup>しんでん</sup>は<sup>しん</sup>悲<sup>しん</sup>し<sup>ん</sup>そう<sup>でん</sup>に<sup>しん</sup>神<sup>でん</sup>殿<sup>でん</sup>を<sup>み</sup>見<sup>み</sup>つ<sup>み</sup>め<sup>み</sup>ながら、<sup>ぎせい</sup>そこで<sup>ぎせい</sup>犠<sup>ぎせい</sup>牲<sup>ぎせい</sup>として<sup>ぎせい</sup>さ<sup>ぎせい</sup>さ<sup>ぎせい</sup>げ<sup>ぎせい</sup>ら

れた<sup>なんぜんとう</sup>何<sup>こひつじ</sup>千<sup>かんが</sup>頭<sup>かんが</sup>もの<sup>かんが</sup>小<sup>かんが</sup>羊<sup>かんが</sup>の<sup>かんが</sup>こと<sup>かんが</sup>を考<sup>かんが</sup>えて<sup>かんが</sup>お<sup>かんが</sup>ら<sup>かんが</sup>れた<sup>かんが</sup>ので<sup>かんが</sup>し<sup>かんが</sup>ょう<sup>かんが</sup>。神<sup>かみ</sup>の<sup>たみ</sup>民<sup>たみ</sup>は、<sup>ぎせい</sup>その<sup>ぎせい</sup>犠<sup>ぎせい</sup>牲<sup>ぎせい</sup>の<sup>ぎせい</sup>ほん<sup>ほん</sup>とう<sup>ほん</sup>い<sup>い</sup>み<sup>い</sup>本<sup>ほん</sup>当<sup>ほん</sup>の<sup>ほん</sup>意<sup>い</sup>味<sup>い</sup>を、<sup>わす</sup>す<sup>わす</sup>っ<sup>わす</sup>か<sup>わす</sup>り<sup>わす</sup>わ<sup>わす</sup>せて<sup>わす</sup>しま<sup>わす</sup>っ<sup>わす</sup>て<sup>わす</sup>い<sup>わす</sup>ま<sup>わす</sup>した<sup>わす</sup>が、<sup>さま</sup>イエス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>は、<sup>じしん</sup>ご<sup>じしん</sup>自<sup>じしん</sup>身<sup>じしん</sup>が<sup>しん</sup>真<sup>しん</sup>の<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>の<sup>こひつじ</sup>小<sup>こひつじ</sup>羊<sup>こひつじ</sup>で<sup>こひつじ</sup>あ<sup>こひつじ</sup>ら<sup>こひつじ</sup>れる<sup>こひつじ</sup>こと<sup>こひつじ</sup>を<sup>ぞんじ</sup>ご<sup>ぞんじ</sup>存<sup>ぞんじ</sup>知<sup>ぞんじ</sup>で<sup>ぞんじ</sup>した<sup>ぞんじ</sup>。そ<sup>すうじつ</sup>して<sup>すうじつ</sup>ほん<sup>すうじつ</sup>の<sup>すうじつ</sup>数<sup>すうじつ</sup>日<sup>すうじつ</sup>の<sup>すうじつ</sup>う<sup>すうじつ</sup>ち<sup>すうじつ</sup>に、<sup>じゆうじかじょう</sup>十<sup>じゆうじかじょう</sup>字<sup>じゆうじかじょう</sup>架<sup>じゆうじかじょう</sup>上<sup>じゆうじかじょう</sup>で<sup>じゆうじかじょう</sup>ご<sup>じゆうじかじょう</sup>自<sup>じゆうじかじょう</sup>分<sup>じゆうじかじょう</sup>が<sup>じゆうじかじょう</sup>犠<sup>じゆうじかじょう</sup>牲<sup>じゆうじかじょう</sup>と<sup>じゆうじかじょう</sup>して<sup>じゆうじかじょう</sup>さ<sup>じゆうじかじょう</sup>さ<sup>じゆうじかじょう</sup>げ<sup>じゆうじかじょう</sup>ら<sup>じゆうじかじょう</sup>れる<sup>じゆうじかじょう</sup>こと<sup>じゆうじかじょう</sup>も<sup>じゆうじかじょう</sup>ご<sup>じゆうじかじょう</sup>存<sup>じゆうじかじょう</sup>じ<sup>じゆうじかじょう</sup>で<sup>じゆうじかじょう</sup>した<sup>じゆうじかじょう</sup>。ま<sup>か</sup>も<sup>か</sup>なく<sup>か</sup>彼<sup>か</sup>は、<sup>ざんこく</sup>ひ<sup>ざんこく</sup>じ<sup>ざんこく</sup>ょう<sup>ざんこく</sup>に<sup>ざんこく</sup>残<sup>ざんこく</sup>酷<sup>ざんこく</sup>な<sup>ざんこく</sup>死<sup>ざんこく</sup>を<sup>ざんこく</sup>味<sup>ざんこく</sup>わ<sup>ざんこく</sup>わ<sup>ざんこく</sup>れる<sup>ざんこく</sup>こと<sup>ざんこく</sup>に<sup>ざんこく</sup>な<sup>ざんこく</sup>っ<sup>ざんこく</sup>て<sup>ざんこく</sup>い<sup>ざんこく</sup>ま<sup>ざんこく</sup>した<sup>ざんこく</sup>。

<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>で<sup>かみ</sup>あ<sup>かみ</sup>ら<sup>かみ</sup>れる<sup>かみ</sup>イエス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>は、<sup>にんげん</sup>ひ<sup>にんげん</sup>ど<sup>にんげん</sup>りの<sup>にんげん</sup>人<sup>にんげん</sup>間<sup>にんげん</sup>で<sup>にんげん</sup>も<sup>にんげん</sup>あ<sup>にんげん</sup>ら<sup>にんげん</sup>れ<sup>にんげん</sup>ま<sup>にんげん</sup>す。で<sup>にんげん</sup>す<sup>にんげん</sup>か<sup>にんげん</sup>ら、<sup>にんげん</sup>こ<sup>にんげん</sup>れ<sup>にんげん</sup>ほ<sup>にんげん</sup>ど<sup>にんげん</sup>ま<sup>にんげん</sup>で<sup>にんげん</sup>に<sup>にんげん</sup>残<sup>ざんこく</sup>酷<sup>ざんこく</sup>で<sup>ざんこく</sup>屈<sup>くつ</sup>辱<sup>じよく</sup>的<sup>てき</sup>な<sup>し</sup>死<sup>し</sup>を、<sup>おそ</sup>と<sup>おそ</sup>て<sup>おそ</sup>も<sup>おそ</sup>恐<sup>おそ</sup>れ<sup>おそ</sup>て<sup>おそ</sup>い<sup>おそ</sup>ま<sup>おそ</sup>した<sup>おそ</sup>。し<sup>おそ</sup>か<sup>おそ</sup>も、<sup>おそ</sup>そ<sup>おそ</sup>の<sup>おそ</sup>恐<sup>おそ</sup>ろ<sup>おそ</sup>しい<sup>おそ</sup>殺<sup>ころ</sup>さ<sup>ころ</sup>れ<sup>ころ</sup>か<sup>ころ</sup>た<sup>ころ</sup>い<sup>ころ</sup>じ<sup>ころ</sup>ょう<sup>ころ</sup>に、<sup>か</sup>彼<sup>か</sup>を<sup>か</sup>傷<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>け<sup>か</sup>る<sup>か</sup>何<sup>なに</sup>か<sup>なに</sup>が<sup>なに</sup>あ<sup>なに</sup>り<sup>なに</sup>ま<sup>なに</sup>した<sup>なに</sup>。そ<sup>くる</sup>して、<sup>た</sup>こ<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>の<sup>ちから</sup>苦<sup>ちから</sup>しみ<sup>ちから</sup>に<sup>ちから</sup>耐<sup>ちから</sup>え<sup>ちから</sup>ら<sup>ちから</sup>れる<sup>ちから</sup>力<sup>ちから</sup>を<sup>ちから</sup>お<sup>ちから</sup>と<sup>ちから</sup>ら<sup>ちから</sup>せ<sup>ちから</sup>ら<sup>ちから</sup>れる<sup>ちから</sup>こ<sup>ちから</sup>と<sup>ちから</sup>が<sup>ちから</sup>で<sup>ちから</sup>き<sup>ちから</sup>る<sup>ちから</sup>の<sup>ちから</sup>は、<sup>てん</sup>天<sup>とう</sup>の<sup>とう</sup>お<sup>とう</sup>父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>だ<sup>さま</sup>け<sup>さま</sup>で<sup>さま</sup>した<sup>さま</sup>。

イエス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>と<sup>でし</sup>弟<sup>でし</sup>子<sup>し</sup>たち<sup>し</sup>は、<sup>にちようび</sup>そ<sup>にちようび</sup>の<sup>ゆうがた</sup>日<sup>ゆうがた</sup>曜<sup>ゆうがた</sup>日<sup>ゆうがた</sup>の<sup>ゆうがた</sup>夕<sup>ゆうがた</sup>方<sup>ゆうがた</sup>、<sup>お</sup>ベ<sup>お</sup>タ<sup>お</sup>ニ<sup>お</sup>ヤ<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>も<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>り<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>した<sup>お</sup>。イエス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>を<sup>お</sup>王<sup>おう</sup>に<sup>お</sup>し<sup>お</sup>よ<sup>お</sup>う<sup>お</sup>と<sup>お</sup>思<sup>おも</sup>っ<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>た<sup>おも</sup>ひ<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>び<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>人<sup>ひと</sup>々<sup>ひと</sup>は、<sup>かれ</sup>彼<sup>かれ</sup>を<sup>かれ</sup>さ<sup>かれ</sup>が<sup>かれ</sup>し<sup>かれ</sup>ま<sup>かれ</sup>した<sup>かれ</sup>が、<sup>み</sup>見<sup>み</sup>つ<sup>み</sup>け<sup>み</sup>る<sup>み</sup>こ<sup>み</sup>と<sup>み</sup>が<sup>み</sup>で<sup>み</sup>き<sup>み</sup>ま<sup>み</sup>せ<sup>み</sup>ん<sup>み</sup>で<sup>み</sup>した<sup>み</sup>。

**かんが**考<sup>かんが</sup>えて<sup>かんが</sup>み<sup>かんが</sup>よう<sup>かんが</sup>:<sup>ひ</sup>そ<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>日<sup>ひ</sup>、<sup>さま</sup>イ<sup>さま</sup>エ<sup>さま</sup>ス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>は<sup>さま</sup>一<sup>さま</sup>晩<sup>さま</sup>中<sup>さま</sup>祈<sup>さま</sup>ら<sup>さま</sup>れ<sup>さま</sup>ま<sup>さま</sup>した<sup>さま</sup>。<sup>さま</sup>イ<sup>さま</sup>エ<sup>さま</sup>ス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>が<sup>さま</sup>孤<sup>さ</sup>独<sup>どく</sup>を<sup>かん</sup>感<sup>かん</sup>じて<sup>さ</sup>お<sup>さ</sup>ら<sup>さ</sup>れた<sup>さ</sup>のは、<sup>さ</sup>な<sup>さ</sup>ぜ<sup>さ</sup>だ<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ま<sup>おも</sup>す<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>?<sup>さま</sup>イ<sup>さま</sup>エ<sup>さま</sup>ス<sup>さま</sup>様<sup>さま</sup>の<sup>さ</sup>お<sup>さ</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>し</sup>知<sup>し</sup>る<sup>もの</sup>者<sup>もの</sup>は、<sup>てん</sup>天<sup>とう</sup>の<sup>とう</sup>お<sup>とう</sup>父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>の<sup>ほか</sup>他<sup>ほか</sup>に<sup>ほか</sup>は<sup>ほか</sup>だ<sup>ほか</sup>れ<sup>ほか</sup>も<sup>ほか</sup>い<sup>ほか</sup>な<sup>ほか</sup>か<sup>ほか</sup>つ<sup>ほか</sup>た<sup>ほか</sup>の<sup>ほか</sup>で<sup>ほか</sup>す<sup>ほか</sup>か<sup>ほか</sup>?

## きんようび 金曜日

にちようゆうがた  
**日**曜の夕方、イエ  
さまでし  
ス様は弟子たちと

ベタニヤにもどりましたが、  
ひとばんじゅうねむ  
一晩中眠らずに、祈って  
おられました。それは、ま  
もなくご自分が死なれる  
ときに、弟子たちがひどく  
失望することを知っておら  
れたからでした。弟子たち  
にとってまだ理解できない  
ことが、あまりにも多くあ  
りました。

げつようび あさ  
月曜日の朝、イエス様と弟子たちは、  
ふたたびエルサレムへ行きました。彼ら  
はイチジク畑の道に沿って歩いていまし  
ましたが、イチジクの木には、実がついてい  
ませんでした。まだ実をつけるには、早  
すぎる時期だったからです。イエス様は、  
すこしはな  
少し離れたところから、葉におおわれた  
一本の木をごらんになりました。イチジ  
クの木は、葉におおわれた時に実をつ  
けるはずでした。お腹がすいておられた  
イエス様は、実をとろうと思ってその木  
に近づいて行かれました。しかし、木は  
どんな状態〔ありさま〕でしたか？マルコ  
11:12,13。

このイチジクの木をごらんになったイエ  
さまかみ たみ とく しどうしゃ  
ス様は、神の民、特に指導者たちのこと  
をおも  
を思いました。外見〔外側から見たよう



す〕はりっぱで  
したが、真心か  
ら十戒にしたが  
うことによっても  
たらされる「実」  
をつけていませ



んでした。彼らは、心を  
つくして神様を愛していま  
せんでしたし、自分を愛す  
るように隣人を愛してもい  
ませんでした。つまり、愛  
するふりをしていただけで  
した。彼らのほとんどは、  
決して変わることはないで  
しょう。イチジクの木をご  
らんになったイエス様は、  
木に向かって何とおっしゃ

いましたか？ 14 節。

つぎ ひ き とお  
次の日、ふたたびその木のそばを通り  
すぎた弟子たちとイエス様は、何を見ま  
したか？ 20-22 節。

かんが  
**考えてみよう：**十戒のことを知ってい  
るだけで十分ですか？また、イエス様  
を愛していると言うだけで十分ですか？  
あんそくにちがっこう れいはい しゅっせき  
安息日学校と礼拝に出席するだけで十分  
ですか？マタイ 7:21。わたしたちは、イチ  
ジクの木のように、見せかけだけの人には  
なりたくないですね。心からイエス様を愛  
するとき、わたしたちは、イエス様がなさ  
ったように他の人を愛し、助け、親切になる  
でしょう。葉とおいしい実をみのらせる木  
になるというのは、そういうことなのです。

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 21:1-11;18-22

★マルコ 11:1-14; 20-24

★ルカ 19:29-44;

★ヨハネ 12:12-19;

★各時代の希望 63-64 章



『伝道犬スнка』より

## スнкаと警察官

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカのエクアドル、ペルー、ボリビアで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スнкаについての、本当にあったお話です。

わたしは、ペルーのリマ中央郵便局の近くにとめた車の中で、スнкаといっしょにすわっていました。用事を済ませに出ていった主人を待ちくたびれたわたしは、スнкаを残して車をおりました。車のドアをロックして、近くの通りでちょっとウィンドーショッピングを楽しもうと思ったのです。すると、とつぜん、わたしのかわいい茶色と白のワイヤーヘアード・テリアが、目の前に飛び出してくるではありませんか。

「スнкаッ！」わたしは、スнкаを叱りつけました。「いったいどうやって車から出たの？」

スнкаは短くて太いしっぽを下に向け、しぶしぶ車へ向かいました。自分のやんちゃぶりを反省したかのように、お腹を地面につけたまま、体をひきずって進んでいます。その時、ひとりの警察官がわたしの車のそばに立っているのが見えました。

ああ、どうしよう、交通違反切符をきられるのかしら？

わたしは警察官のところへ行き、精いっぱい笑顔をかき、礼儀正しくあいさつをしました。

そして、「おはようございます、おまわりさん」と話しかけました。「どうやら、うちの犬が、車から逃げだしたみたいなんです。」

警察官は、「確かにそうですね、奥さん」と言ってから、言葉をつづけました。「この犬は、できるかぎり、あなたのすべての動きをじっと見ていましたよ。しばらくすると、急に落ち着きがなくなったんです。わたしがここに立っていたせいなのかどうかはわかりませんが、とにかく、あなたのことが心配でたまらないといった様子でしたよ。」

「それに、信じられないでしょうけれど…」警察官は、両手をあげしく動かしながら説明します。「この犬が、クラクションを鳴らしたんですよ。それからあなたが立っているほうをしばらく見つめて、またクラクションを鳴らしたんです。まさかとは思いましたが、本当にそうしたんですよ。私は、あなたがクラクションを聞いてもどってくるかどうか、しばらく見ていたんです。するとこの犬は、窓のところにあるドアの



カギがあくまで、鼻  
で押しつづけて、そ  
れから、あなたのあ  
とを追いかけていっ  
たんですよ。奥さん、  
この犬があまりにも  
すごいので、わたし  
は笑って見ているし  
かありませんでした  
よ。」

まもなくして、  
主人がもどってきま  
した。

彼は心配そうに、  
「違反切符をきられ  
たのかい？」とた  
ずねました。「警官  
が君と話しているの  
が、向こうのほうから見えただよ。僕が  
ここに着く前に、彼は行ってしまったけど  
ね。」

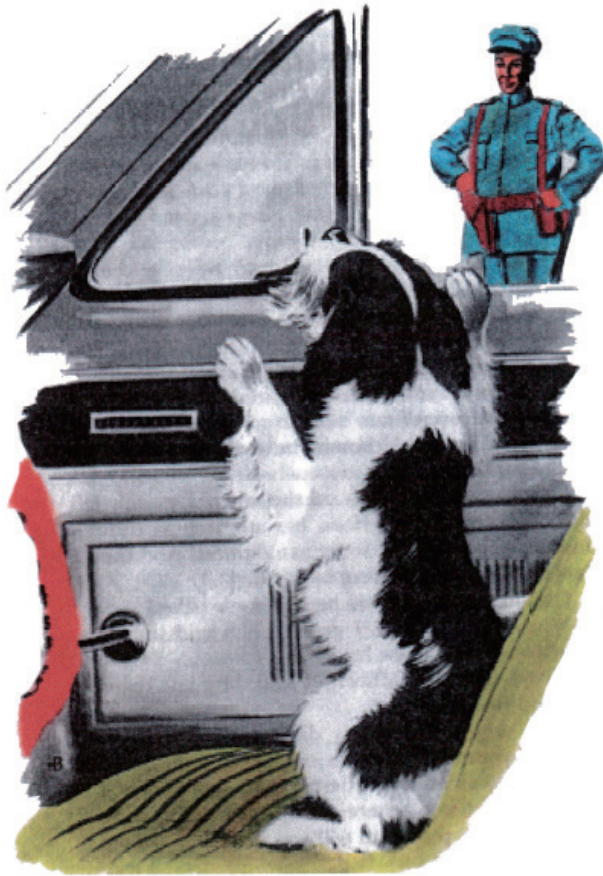
わたしは笑いました。「あなた、こんど  
こそ、わたしが交通違反の切符をきられ  
たにちがいないと思ったのでしょうか？」

「ああ」

「いいえ、違反切符はもらわなかった  
わ。」すっかり落ち着いてから、わたし  
はこう言って、主人にウィンクをしました。  
「逆に、わたしが彼にチケット〔切符〕  
をあげたの。」

「えっ？警官にチケットをあげたって、  
どういうこと？」

「彼に、聖書通信講座の申し込みをさせ  
たのよ。」



「なんだって!?  
すごいじゃない  
か!」

「あのね…」わ  
たしはつづけまし  
た。「実は、これ  
をやったのけたの  
は、スンカなの。」

「スンカだっ  
て?」

「そうよ。あの  
警察官、スンカの  
頭がいいのにすっ  
かり感心して、そ  
のおかげですごく  
いい会話ができた  
の。とてもいい人  
だったわ。『預言

の声』や、わたしたちの『聖書通信講座』  
の仕事のことを話して聞かせたら、申し込  
んでくれたというわけなの。」

「わたしたちって、君と、だれのこと？」  
主人はたずねました。

「もちろん、スンカとわたしよ。ね、ス  
ンカ?」

スンカは顔をあげ、しっぽをふりました。

(つづく)

# だい しょう 第2章



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## しんでん きよ 神殿をふたたびお清めになった イエスさま

あんしょうせいく  
暗唱聖句

かみ よろこ ほどこ ひと あい くだ  
「神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」

だい  
第2コリント 9:7

にちようび  
日曜日

す ぎ こ まつ ちか  
**過**越しの祭りが近づいてきました。  
ひとびと まつ いわ  
人々は祭りを祝うために、あちら  
こちらからエルサレムへとやってきました。  
イエス様は、ご自分が死ぬ時まであと  
すうじつ ぞんじ  
数日しかないことをご存知でした。ですから、  
イエス様ご自身のことと、その死が  
ひとびと し  
人々のためであることを、みんなに知って  
もらいたいと望んでおられました。多くの  
ひと い か しんでん  
人が行き交う神殿でイエス様が教えを説  
いておられたのは、そのためでした。

ねんまえ さま しんでん そとにわ  
3年前、イエス様はこの神殿の外庭で、  
りようがえにん しょうにん ぎせい どうぶつ  
両替人や商人たちが犠牲のための動物や  
とり う め  
鳥を売っているのを目にしま  
した。その時、祭司や民の  
しどうしや さいし たみ  
指導者たちといっしょに宮から  
おだ かれ おそ  
追い出された彼らは、恐ろし  
くなくてあわてて逃げ出した  
のでした。しかし、しばらくす  
ると彼らはもどってきました。  
かれ  
あれから3年たった今、宮の  
ねん いま みや  
中での騒がしさも不正も、もっ

とひどくなっていました。

イエス様が入ってこられると、そこに  
いたすべての人が、矢のようなすどい  
視線を感じ、手をとめて彼のほうを見ま  
した。両替人たちも動物を売る人たちも、  
ふるえあがりました。宮全体が、静まりか  
えっています。するとイエス様が口を開き  
ました。その声は、まるでラッパの響きの  
ようでした。イエス様は、何とおっしゃい  
ましたか？マルコ 11:15-17。

さいし たみ しどうしや  
祭司や民の指導者たちは、まさか、イ  
エス様によってまとも恐ろしい思いをする  
ことになろうとは、夢にも思っていない  
でした。それどころか、3年前のあの時よ

りも、はるかに恐怖を覚えま  
した。彼らは、両替人や動物  
を売る人たちといっしょに、  
いちもくさん みや にわ に だ  
一目散に宮の庭から逃げ出  
しました。外に出て、ようやく  
はし  
走るのをやめた彼らでしたが、  
みや  
宮でやっていたことを反省して  
はいませんでした。18節。

かんが  
考えてみよう：その日、宮か





ら逃げ出した人たちのことを、イエス様は愛しておられたと思いますか？イエス様が、彼らを助けることができなかったのはなぜですか？黙示録 3:17。

## げつようび 月曜日

イエス様にしかられて怖くなった祭司や民の指導者たちは、商売人や動物たちにまじって、神殿の庭を飛び出しました。逃げるとき、イエス様にいやしていただくために病人を連れてくる人たちと、すれちがいました。その中には、恐れおののく彼らのようすにおどろいて振り返る人もいましたが、ほとんどの人は、イエス様をさがすのに夢中で、彼らに気づきもしませんでした。

しばらくたってから、祭司や指導者たちもどってきました。神殿のようすは、何とちがっていたことでしょうか！さわがしい動物たちの鳴き声も、人々のどなる声も聞こえません。そこにいたのは、イエス様にいやされ、よろこびにあふれている子供や大人たちでした。マタイ 21:14。

すると祭司や指導者たちが、この人たちの態度は、神の宮にふさわしくないと、イエス様にむかって不平をいい始めました。子供たちは喜ばしい歌をうたい、イエス様を王とほめ



たたえていました。祭司たちは、イエス様にどうしてほしかったのでしょうか？イエス様は、どのようにお答えになりましたか？ 15,16 節。



今やこれらの怒った祭司や指導者たちは、イエス様を亡き者にしようと、これまで以上にかたく決心しました。イエス様をこわがらせるのは無理だと知っていた彼らは、どうにかしてイエス様をうまく罠にかけて何かを言わせ、彼を捕まえる口実を見つかることにしました。

そしてついに、イエス様をおどしいれるような質問を考え出しました。この質問なら、イエス様がどのように答えたとしても、まちがいになるはずで、火曜日の朝、イエス様が神殿に来られると、祭司と民の指導者たちは、すっかり用意ができていました。

**考えてみよう：**サタンは、わたしたちを救う神様のすばらしいご計画を、どうしようとたくらんでいましたか？この日、いやされた子供の賛美の歌は、イエス様をよろこばせましたか？今でもイエス様は、子供たちの賛美をきくのが大好きですか？

## かようび 火曜日

火曜日の朝、イエス様が神殿へもどって来られると、お話を聞こうと群衆がすぐに集まってきました。ところが、すぐにじゃまが入ります。マタイ 21:23。

祭司や民の指導者たちの質問が、ご



自身を置におとし、  
 しいれようとして  
 いるものである  
 ことを、イエス  
 様はご存知でし  
 ました。そこで、そ  
 の質問には答  
 えられないで、逆に  
 彼らに質問をな  
 さいました。彼

ら<sup>ら</sup>がその質問に答えたら、自分も彼らの  
 質問に答えようとおっしゃったのでした。  
 結果は、どうなりましたか? **24-27 節。**

そのようすを注意深く見聞きしてい  
 た人々は、おそらく互いに顔を見合  
 せて、ほほ笑んだことでしょう。高慢な  
 律法学者、祭司、民の指導者たちは、す  
 でに民衆からの尊敬を失っていました。し  
 かしイエス様は、彼らに恥をかかせようと  
 なさったでしょうか? いいえ、そうはなさ  
 いませんでした。ただ、彼らがこれほどま  
 でにかたくな〔がんこ〕であることを、悲  
 しんでおられました。イエス様は、どれほ  
 ど彼らを救いたいと望んでおられたこと  
 でしょう!

それからイエス様は、あるふたりの  
 息子についてのお話をなさいました。下  
 の息子は、祭司や指導者たちから「罪人」  
 と呼ばれるような人間でした。しかし、  
 聖霊がこのような「罪人」の心に語りか  
 けると、彼らの多くは心を入れかえ、イエ  
 ス様にしがう忠実な弟子となったのでし  
 た。 **28,29 節。**

上の息子は、イエス様に質問をした

指導者たちに似ていました。このような人  
 は、神様の律法にしたがっていると  
 張りますが、実際には従っていません  
 でした。 **30 節。**

自分たちが、ふたりの息子のどちらに似  
 ているかを祭司や指導者たちが自覚する  
 前に、イエス様は、彼らがすぐに答えら  
 れるような質問をなさいました。 **31 節。**

**考えてみよう:** これらの高慢な〔いばつ  
 た〕指導者たちが、本当はサタンにした  
 がっていることを気づかせるために、イエ  
 ス様はわかりやすくお話なさいました。彼  
 らが変わろうとしなかったのは、なぜだと  
 思いますか? あなたも、まちがっていると  
 わかっているなら、そのことを認めるのに  
 苦労したことはありますか?

## すいようび 水曜日

ふ たり<sup>ふ</sup>の息子についてのイエス様の  
 お話は、これらの教会指導者  
 たちが、神様の律法にしたがっていると人々  
 に思わせようとしても、実際には従ってい  
 ないことを彼らに自覚させるものでした。

多くの人たちは、困ってしまいました。  
 指導者を尊敬して信頼するようにと、ずつ  
 と教えられてきたのに、真理を教  
 えられるイエス様を、彼らが嫌っているの  
 です。イエス様は、指導者たちと民衆の、  
 どちらも気の毒に思われました。 **マタイ  
 21:45,46。**

その日イエス様は、神殿内の人々が  
 献金をささげる箱が置かれているところに  
 おられました。そこで、金持ちの人たちが、



見せびらかすように、たくさんのお金を献金箱に入れるのをごらんになりました。彼らは、自分がどれだけたくさんのお金を献金をしたか、みんなに知ってほしかっ



たのです。けれどもイエス様は、彼らの行為に感心なさいませんでした。彼らがたくさんのお金を献金をしたことを、ほめようとはしませんでした。

ところがとつぜん、イエス様がにっこりなさいました。他のだれも気づいていないところを、イエス様は見ておられたのです。イエス様の視線の先を見ると、そこには、内気でおどおどしたひとりの未亡人〔夫に先立たれた女性〕がいました。しかも、彼女をごらんになっているイエス様のお顔は、ずっとほほ笑んでおられました。

**考えてみよう：**イエス様は、貧しい人も金持ちの人も、同じように愛しておられますか？イエス様のお働きには、貧しい人、金持ちの人、どちらからの献金も必要ですか？イエス様はなぜ、この貧しい未亡人を見ておられる時にほほ笑まれたのに、金持ちの人たちに対して、そうならなかったのでしょうか？

もくようび  
木曜日

神殿の献金をささげるところで、イエス様は、内気でおどおどした貧しい未亡人〔夫に先立たれた女性〕を見ておられました。

裕福な人たちがたくさんのお金を箱に入れるのを見た未亡人は、思わず後ずさりしました。彼女の献金は、彼らの献金に比べるとあまりにも少なすぎるのです。手にあるたった2枚のお金を見つめながら、「ああ、もっとたくさんささげることができたら！」とどれほど願ったことでしょう。けれども、自分に残されたのは、この2枚の硬貨しかありません。それでも、神様とその家である神殿を愛していたので、この2枚の硬貨だけでも献金としてささげたかったのです。

だれも見えていないタイミングを見はからって、彼女はすばやく2枚の硬貨を献金箱に入れました。それから向きを変えて、急いでその場から出て行きました。

**マルコ 12:42。**

未亡人は、彼女の行動の一部始終を、だれかが見ていることに気づきませんでした。しかし、大急ぎで出て行こうとしたときに、イエス様が自分を見ておられることに気づきました。さらに、イエス様が弟子たちに、自分のことを話すのが聞こえました。**43,44 節。**

神殿を出るころには、彼女の心は軽くなり、目には喜びの涙があふれていました。イエス様がおっしゃったことは本当で、ささげたお金は彼女の全財産でした。ただ、自分のわずか2枚の硬貨が、裕福な人たちのたくさんのお金よりも大きな価値が

ある、とおっしゃったイエス様のお言葉が何を意味するのか、よくは分からなかったかもしれませんね。

**かんが 考えてみよう:** イエス様は何を**かんが**えておられた**おも**いますか?この**みぼうじん**の話を聞いたことのある人は、どれだけたくさんいるでしょう?また、彼女の**かのじよ**のように自分の**じぶん**の**りえき**ばかりを求めず**もと**に生きるように、**かみさま**から**め**ら**ひと**されている人は、どれだけいるでしょうか?神殿での彼女の**しんでん**の**かのじよ**の**おこな**いが、のちに**なんぜんにん**、いや**なんまんにん**も**ひと**を**たす**けたという**じじつ**を**てんごく**でこの**みぼうじん**が**し**ら、**きつ**とおどろくでしょうね。



どれくらいのお金が残っているかも、神様はご存じですか?もちろんです。

では、**けんきん**をささげた**のち**に、**かね**を**のこ**して**おいて**もよいのでしょうか?もちろんです。

**かね**も**ひと**と**まず****ひと**の**ど**ち**ら**も、**すべて**は**かみさま**から**あた**えられたもの**だ**ということ**を**、**いつも**覚**え**て**お**くべきでし

うか?そのような**ころがま**心構えは、わたしたちが**けんそん**謙遜〔へりくだること〕になり、何よりも**かみさま**を**あい**する**たす**助けになるのでしょうか?また、**まず****ひと**と**わ**の**あた**い**ころ**貧しい人たちに**分け**与えたいという**こころ**をも**やくだ**てるようになるの**に**役立つのでしょうか?

**かんが 考えてみよう:**もしもあなたが**こづか**小遣いをも**ら**ったり、**はたら**働いて**かね**を**かせ**いたり、**おく**贈り**もの**として**かね**を**いた**だいたりしたら、**さいしょ**最初**に**、**かみさま**の**ぶん**は**かみさま**におささげしようと**かんが**えるのでしょうか?では、**けんきん**をささげることによって、あなたは**かみさま**の**はたら**働きを**たす**助けていますか?

## きんようび 金曜日

**つぎ**のうち、どちらが**かみさま**をより**あい**愛して**いた**でしょうか?自分がどれだけ**けんきん**の**ひとびと**見**た**く**さ**んの**けんきん**をささげるか**を**人々に見**て**ほしか**つた**、**こうまん**高慢な〔いばつた〕**かね**持**ち**の**ひと**たちですか?それとも、ささげる**わ**ず**か**な**けんきん**を**だ**れ**にも**見**ら**れ**た**く**な**いと**おも**思**っ**て**いた**、**あ**の**みぼうじん**未亡人ですか?

**いえ**家には**じゅうぶん**十分**かね**が**あ**っ**て**、**あ**す**ひつよう**明日の必要**を**み**た**す**の**に**なん**の**しんぱい**心配も**な**か**つた**のは、**ど**ち**ら**の**ほう**で**し**た**か**?

**かみさま**神様よりも、**じぶん**自分**かね**の**も**つ**て**い**る**お**金**に**しんらい**信**頼**して**いた**のは、**ど**ち**ら**の**ほう**で**し**た**か**?**かみさま**神**様**に**しんらい**信**頼**して**いた**のは、**ど**ち**ら**の**ほう**で**し**た**か**?

わたしたちが**けんきん**いくら**けんきん**献金したかも、あと

## まな もっと学ぼう!

★マタイ 21:12-17;23-32;

★マルコ 11:15-19;24-33;12:4-44;

★ルカ 19:45-48;21:1-4;29-33;

★各時代の希望 65, 67 章下巻 p66-72;



## ちゅうけん 忠犬スнка その1

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカで、飼い主のラーセン夫妻と  
いっしょに伝道の働きを  
した、一匹の小さな犬ス  
ンカについての、本当にあったお話です。  
子供たちはスンカの賢さに、ただただおど  
ろくばかりです。スнкаは伝道旅行につい  
ていくのが大好きでしたので、留守番をさ  
せられるときは、悲しそうでした。

スンカは、まったく納得できません  
でした。まるで「どうして、いっしょ  
に行っちゃだめなの？」と、訴えているよ  
うです。

「だめよ、スнка、今回はお留守番よ。」  
小さなフォードの車に乗りこみ、わたしは  
ドアを勢いよく閉めました。「ダミアナと  
いっしょにもどって、家屋敷を守ってちょ  
うだい [ダミアナは、インディアンの女中  
さんです]。わたしはそう言って、家を  
指差しました。いよいよ車を発進させると、  
ダミアナがスンカを逃がすまいと片手で抱  
きかかえながら、けん命にもう一方の手  
をふっていました。

実は前回の旅行で、スнкаはインディ  
アンたちの鶏や羊を追いかけて回したため  
に、わたしたちは大変な思いをしたので  
す。わたしたちと同じ信仰を持つインディ  
アンたちが、スンカのことをひどく嫌がる  
ようになってきたので、今回はスンカを家

においていくことにしたのでした。

主人が「追いかけて来てるぞ」と声を  
あげたのは、ラロの伝道所へ向かうで  
こぼこ道に車を走らせてから、まだそれほど  
遠くに来ていないところでした。バックミ  
ラーには、わたしたちに追いつこうとする  
スンカの姿がうつっています。

「あら、どうしましょう？」わたしは言  
いました。

主人は、「帰るように命令しなさい」と  
言いながら、車を止めました。

車をおりて、「スнка、家に帰りなさい！」  
と、叫びました。スнкаは立ち止まってか  
ら、ゆっくりと近づいてきました。伏せて  
お腹をひきずりながら、少しずつ少  
ずつ、まるでひどいけがでもしているかのよ  
うです。

「だめよ、スнка。もどきなさい！」つ  
いに、わたしは雷を落としました。「もどきな  
さいっ！」ありったけの声でどなると、ス  
ンカはしぶしぶ、来た道をもどり始めまし  
た。

私は、「また追いかけて来ないか心配  
だわ」と言いました。「ついてこれない  
ように、車のスピードをあげましょう。」

でこぼこ道で、スピードをあげて車を走  
らせるのは簡単ではありませんでしたが、  
どうにかスンカをふりきることができまし  
た。しかしながら先へ進むと、道がさら



にひどくなり、車が通れるように、道路を自分で直さなくてはなりません。と、そこへまたもスンカが現れたのです!ひどく疲れているようすでしたが、わたしたちに追いつくことができ、とてもうれしそうでした。

わたしはスンカをかわいそうに思いましたが、こんどは、乱暴な調子で命令しました。「スンカッ、さっさと行きなさい!かえれ!今すぐ帰れ!!」わたしの声の調子から、スンカは、何を言っているのかがわかったようで、向きを変えてゆっくりともどり始めました。さらにわたしは、後ろから石を投げました。その意味もちゃんと理解したはず。ところが、スンカはそれほど遠くまで行かず、すわってわたしたちのほうをじっと見つめています。

道路のみぞをうめて車が走れるようにしたので、いよいよそこを通過して公道に出ることができます。主人はスンカのところへ行き、とても強い口調〔言い方〕で、「伏せろ、スンカ、伏せ!」と言いました。

スンカは「帰れ」の意味はわからなかったかもしれませんが、「伏せ」は知っています。それに、主人が冗談で言っているわけではないことは、まちがいなくわかっているはず。わたしたちが、車を速く走らせることのできる公道にさしかかったとき、スンカはまだ伏せていました。

「しばらくしたら、家に帰るだろうよ。」主人はバックミラーに目をやりました。「かわいそうに。でもこんどこそ、ついてこようとはしないだろう。」

その金曜の午後、わたしたちは目的地

であるコハナという伝道地に到着しました。信者たちと楽しい安息日の時間を過ごし、仲間の教師たちと話し合いをした後、わたしたちはラロへと出発しました。

そして夕方近くに、家の近くまでもどってきました。

わたしは、「ちょっとベニー、見て」と言いました。「ほら、あそこにすわっている犬!スンカよ!」

信じられないかもしれませんが、スンカはわたしたちに置いて行かれた場所にすわりつづけ、あの時と同じようにわたしたちの方をじっと見つめていたのです。青色の小さなフォードの車を見たスンカは、うれしさのあまり飛びはねて迎えました。

ああ、何も食わず、水も飲まずに、2日半もそこにすわって、わたしたちを待ちつづけていました。スンカは、夫の命令に忠実にしたがったのでした。

(つづく)

# だい しょう 第3章

## さいご しんでんほうもん 最後の神殿訪問



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「もしわたしに<sup>つか</sup>仕えようとする<sup>ひと</sup>人があれば、その<sup>ひと</sup>人はわたしに従<sup>したが</sup>って来るがよい。…その人を父は重<sup>おも</sup>んじて下さ<sup>くだ</sup>るであろう。」ヨハネ 12:26

#### にちようび 日曜日

イエス様が神殿で最後に教えられたのは、火曜日でした。その時までに、過越しの祭りに来た人たちのほとんどは、イエス様が商売人と彼らの売る動物たちを、前日の月曜日に神殿の外庭から追い出したことを聞いていたでしょう。

しかし、最後に神殿を立ち去る前に、ほかにもするべきことがありました。イエス様の奇跡と完全な生活は、彼が神様の子、メシヤ〔救い主〕であることを証明していました。イエス様のお話は、神様の王国が人々の望んでいる王国とはまるでちがっていること、また、どのような人たちがそこに入るのかということも示していました。

教会の指導者たちは、イ

エス様の教えが真理であると知っていましたが、彼らの多くは、その真理を受け入れることを拒みました。自分たちのまがった考えや行いを変えたくなかったのです。

ある人たちは、イエス様を信じるべきか、それともこれまでどおり祭司や民の指導者たちを信じるべきか、とても迷いました。そこでイエス様は、指導者たちが犯している恐ろしい罪のことを話して、どちらが真理を語っているのか、またどちらを信じるべきかを人々にわからせる必要がありました。

イエス様が話しておられる時のそのお声は、あわれみと悲しみに満ちていました。それでもなお、王としての力と権威をもってお語りになりました。少しの恐れもいれずに、指導者たちの罪について話し、それに反論できる人はひとりもいませんでした。イエス様



かた  
が語られたことが、すべて  
しんじつ  
真実だったからです。マタイ  
イ 23:1-36。

かんが  
考えてみよう：自分のして  
じぶん  
いるまちがった事をだれか  
こと  
に指摘されたら、自然とど  
しぜん  
んな気持ちになりますか？う  
な  
れしくなりますか？それとも、  
はら  
腹が立ちますか？また、言  
い  
い訳や言い争いをすること  
い  
がありますか？



おも  
だったことなどを思って、胸  
むね  
が張りさけそうなほど悲しま  
かな  
れました。

めんどりがヒヨコたちに  
きけん  
危険を知らせると、お母さ  
かあ  
さんニワトリの羽の下に隠れ  
はね  
ようと走ってきます。めん  
どりがヒヨコたちを守るよう  
はし  
に、神様も、ご自分の民を  
かみさま  
サタンから守りたいと望ん  
まも  
でおられました。来て安らぎを得なさいと  
き やす  
の呼びかけをやめたことは、これまでいち  
え  
どもありませんでした。マタイ 23:37。

## げつようび 月曜日

しん でん  
神殿でイエス様のお話を聞いて  
はなし き  
いた祭司や民の指導者たちは、  
さいし たみ しどうしゃ  
はんろん  
反論することができませんでした。イエス  
さま はな  
様の話しておられることが、すべて正し  
ただ  
かったからです。そこで彼らは、イエス様  
か  
を殺そうという決心を、よりいっそう固め  
ころ  
たのでした。聞いていた人たちも、語られ  
しんじつ  
たことがすべて真実であるとわかっていた  
しんじつ  
ので、これ以上イエス様を疑うことはあり  
いじょう  
ませんでした。神殿を去るときには、いろ  
しん でん  
いろ考えさせられたことでしょう。そして、  
かんが  
イエス様が死んでよみがえられた後、これ  
さま し  
らの人たちの多くはイエス様を救い主とし  
あと  
て信じ、伝道者となったのです。

イエス様は、ご自分の民を救うために、  
さま じぶん たみ すく  
どんなに一生けん命やってきたかを思い  
いっしょう めい  
出しておられました。警告するためにおく  
けいこく  
られた預言者や教師たちを、彼らがどの  
よげんしゃ きょうし  
ようにあつかってきたか、また、ご自分の  
じぶん  
民が大いなる国民となることできたはず  
たみ おお こくみん

イエス様は、悲しそうに、この美しい  
さま かな うつく  
神殿の周囲をごらんになりました。神殿を  
しん でん しゅうい  
永遠に立ち去ろうとしておられたイエス様  
えいえん た さ  
は、人々に深く考えさせるようなことをお  
ひとびと ふか かんが  
語りになりました。なんと言われましたか？  
かた  
38 節。

それは、どういう意味でしたか？彼はい  
かれ い み  
つも、この神殿を「父なる神様の家」と  
しん でん ちち かみさま いえ  
呼んでおられたはずでした。それなのに、  
よ  
なぜ今は「彼らの家」と呼ぶのでしょうか？  
いま かれ いえ  
何かとても恐ろしいことが、起こるとでも  
なに おそ お  
いうのでしょうか？

かれ  
彼らがイエス様を拒んだので、神様は  
さま こぼ かみさま  
もう、この神殿をご自分の家とはされませ  
しん でん じぶん いえ  
んでした。それからもしばらくの間、神殿  
あいだ しん でん  
をいつづけていましたが、それはイエ  
つか  
ス様が亡くなられたおよそ 40 年後に破壊  
さま な ねんご ほかい  
されてしまいました。あの日、イエス様が  
あひ  
神殿を立ち去られたときから、そこはもう  
しん でん た さ  
2 度と「神様の家」になることはありません  
ど かみさま いえ  
んでした。



**かんが** **考えてみよう**：神様に立ち返るようと、  
イスラエルの民に呼びかけた預言者の  
名前を、できるだけあげてみてください。ま  
た、神様の王国に入る人たちに与えられ  
る、美しい神様のお約束を読んでください。  
詩編 91:4。

## かようび 火曜日

イエス様が話しておられたのは神殿  
の中庭でしたが、そこはユダヤ  
人だけが入れる場所でした。外庭には、  
長旅をしてきたギリシャ人たちがいまし  
た。彼らは、イエス様がロバに乗ったこと  
や、祭司や民の指導者たちを神殿から追  
い出したことを耳にしていました。また、  
イエス様が王になるかもしれないことも聞  
いていました。

これらのギリシャ人たちは、神様を礼拝  
するためにやってきたのですが、異邦人  
〔ユダヤ教徒でない人〕だったために、イ  
エス様のおられた神殿の中庭に入るこ  
とはできませんでした。しかし、どうしても  
イエス様にお会いしたいと思いました。  
そこで、彼らは何をしましたか？ヨハネ  
12:20-22。

ピリポはアンデレにこれらのギリシャ人  
のことを伝え、ふたりがイエス様にその  
ことを伝えました。

イエス様がお生まれになったとき、  
異邦人である博士たちが、イエス様を  
礼拝するために東の国からやってまし  
た。そして今、イエス様が死なれる前に、  
西の国からギリシャ人たちがやってきたの

でした。これらのギリシャ人たちと話しな  
がら、イエス様は、人類を救う計画が天  
で立てられたときのことを考えておられま  
した。まもなく、このすばらしい計画を思  
い出させるための犠牲の小羊をささげる  
必要がなくなります。まさに今週のうちに、  
彼が真の小羊として、十字架の上でささ  
げられるからです。

ギリシャ人たちを見ながら、イエス様  
は、彼の死がきっかけとなって、後に  
世界中の幾百万もの人々が、真の神の  
小羊として命をささげたイエス様について  
知るようになることを考えておられました。  
そしてこのすばらしいご計画により、人類  
は救われることができるのです。イエス様  
は何とおっしゃいましたか？ 23 節。

**かんが** **考えてみよう**：イエス様の心の中には、  
うれしい気持ちと同時に、悲しい気持ちも  
あったと思いますか？それはなぜですか？

## すいようび 水曜日

小麦の実〔種〕を見たことがありま  
すか？ひと粒ひと粒はとても小さ  
くて、大切なものには見え  
ません。それがもし土に  
植えられなければ、た  
だ種のままでしか  
ありません。し  
かし、もしそ  
の種が、  
日当り  
も



よく、雨もよく降る場所に  
植えられたならどうでしょ  
う？ひと粒の種に宿った命  
は、さらに多くの小麦の実  
〔種〕を生み出します。それ  
ぞれの種からは、さらに多  
くの種が生み出され、つい  
には小麦が畑一面に広がり  
ます。数えきれないほどの  
小麦が、たったひと粒の種  
から始まるのです。



その日、神殿の庭で、イエス様はギリ  
シャ人たちに、もし一粒の小さな麦の種  
がさらに多くの種を生み出したければ、そ  
の種は「死ななくてはならない」ことを  
お話しなさいました。イエス様は、何百、  
何千万もの人たちに命を与えるためにご  
自分が死ななくてはならないことを、彼ら  
に理解させようとしておられたのでした。

### ヨハネ 12:24。

私たちが永遠に生きるようにと、イエ  
ス様は命をささげて下さいました。そして  
私たちも、その犠牲によってもたらされる  
収穫物の一部となることのできるのです。

それからイエス様は、毎日わたしたち  
が覚えておくべきことをお話しなさいまし  
た。わたしたちは皆、自分の欲望にした  
がい、まちがった行いをする事によって  
自分をよるこぼせるのか、それともイエス  
様に助けていただき、サタンの誘惑に対  
して「ノー」と言うかを選びます。イエス  
様の助けを得るならば、今のままの自分  
ではなく、イエス様のようになることがで  
きます。これを、「自己に死ぬ〔わがまま

な思いがなくなる〕』と言  
います。25節。

### かんが 考えてみよう：わたしたち

は何度、自己に死ぬ必要が  
ありますか？サタンに誘惑さ  
れるたびに、です。ではサ  
タンは何度、わたしたちを  
誘惑するのでしょうか？毎日  
です。もしイエス様に信頼して  
したかうことを学びつづける  
なら、わたしたちの品性は  
イエス様のご品性にかぎりなく似たものと  
なるでしょう。そしてイエス様は、再臨の  
時にわたしたちを天に迎え、共に住んでく  
ださるのです。26節。

## もくようび 木曜日

イエス様が人類のために死なれる  
ことについて、ギリシャ人や他の  
人たちに話しておられたとき、まもなくあ  
じわう恐ろしい死のことが頭に浮かびまし  
た。まちがいなくイエス様は神であり、ま  
た人間でもあられました。イエス様がこれ  
から味わわれるのと同じような苦痛を受  
けなくてはならない人は、ひとりもいない  
はずです。彼が恐怖を覚えたのも、むり  
はありません。

この時、イエス様を見た人たちは、彼  
が心に悩みをかかえておられることがわ  
かりました。あまりにもひどい悩みであっ  
たため、表情は青ざめ、今にも気を失  
いそうです。それはまるで、イエス様が  
不気味な黒い雲に囲まれているかのよう

でした。命をすてる決心を変えるようにと、  
誘惑されていたのでしょうか？もし誘惑に  
負けたなら、すべての人は永遠に滅びて  
しまうことでしょう。

イエス様は、人類を救うなにか別の  
方法があればいいのに、と望んでおられ  
たようにも思われました。しかし、他に  
方法がないことを彼はご存知でした。つ  
いにイエス様は、天のお父様に、すべて  
をお任せすると言われました。するとただ  
ちに神様はお答えになり、まばゆいひとす  
じの光がイエス様を包みました。それは  
まるで、神様の腕がイエス様を抱きしめ  
ているかのようでした。ヨハネ 12:27,28。  
何が起こっているかを理解している人は、  
ほとんどいませんでした。29 節。

しかし、弟子たちとギリシャ人たちには、  
神様の語られた言葉が理解できました。  
この時ギリシャ人たちは、イエス様につ  
いてはっきりと理解しました。彼らは、そ  
の週の終わりに、イエス様の民が「イエ  
スを十字架につけよ!」となんどもくり返  
し叫ぶようすを見ていた群衆の中にいまし  
た。

サタンは、人々が神様を恐るようにし  
ていましたが、イエス様がお話しなさった  
ことと、お示しになったすべてのことは、  
神様の本当のお姿を表していました。そ  
して、サタンがどれほど残酷で邪悪な者  
であるかを、全宇宙の住人が見ることが  
できました。イエス様が十字架の上に「あ  
げられ」て、わたしたちのために死んで  
下さったとき、この世界に住む人々や  
他世界に住む人々、また天使たちのすべ

ては、神様が抱いておられるわたしたち  
人間への驚くべき愛を知ることでしょう。  
イエス様の生涯と死のどちらも、神様をた  
たえていたのです。

**考えてみよう:** あの日、神殿でギリシャ  
人たちが決心したように、イエス様を愛し、  
信頼し、イエス様にしがう選びをするよ  
うに他の人々を導くことは、子供たちにも  
できますか？そうするために、どんな方法  
がありますか？

## きんようび 金曜日

弟 子たちは悲しみ、失望し、また  
恐れていました。イエス様がこれ  
ほどまでにユダヤの指導者たちから嫌わ  
れてしまった今、いったいどうやって王様  
になることができるのでしょうか？そ  
れに、どういう意味で「彼らの家〔神殿〕  
が荒らされる」とおっしゃったのでしょうか？  
たしかに何百年も前、ネブカデネザル王に  
よって神殿が破壊されたことはありました。  
そのようなことが、ふたたび起こるのでしょ  
うか？

火曜日の午後、イエス様が神殿を出て  
行かれるときに、弟子たちは巨大で分厚  
い白大理石でできた壁をながめていまし  
た。それぞれの石は完璧に組み合わせられ、  
どこがつなぎ目なのかわからないほどで  
した。弟子のひとり、何と言いましたか？  
マルコ 13:1。

たしかにそうです。壁だけでなく、神殿  
のすべてのものが、非常に美しかったの  
です。ところがイエス様は、神殿がどうな



るとおっしゃいましたか？ 2 節。

イエス様がなぜそのようなことを言われるのか、弟子たちにはさっぱり分かりません。そこで弟子の4人は、イエス様になんとたずねましたか？ 3,4 節。

マタイ、マルコ、ルカは、イエス様の答えを〔福音書に〕記しています。イエス様は、将来エルサレムに起こることについて、お話なさいました。それだけではなく、ご再臨の前に起こる出来事についても語られたので、わたしたちも、これらのイエス様の預言を知る必要があります。26 節と 27 節のお言葉は、とくにわくわくさせられます。

**かんが** **考えてみよう：** 来週は、イエス様がどう **こた** **お答え**になったのかを学びます。またイエス様が、もうすぐ、ご自分といっしょに住まわせるために、わたしたちを迎えに来てくださることも学びます。イエス様は、わたしたちと会うのを、強く望んでおられます。あなたはどうですか？ イエス様にお会いすることを、心から願っていますか？ 今は、わたしたちが備えるべき時です。

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 23 章

★マルコ 13:1, 2

★ヨハネ 12:20-36

★各時代の希望 67 章



ちゅうけん  
忠犬スнка その2

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スнкаについて、本当にあったお話です。子供たちはスнкаの賢さに、ただただおどろくばかりです。ラーセン夫人は子供たちに、スнкаがどれほど忠実だったかを話して聞かせました。

**も** うひとつ、スнкаの忠犬ぶりが見られたのは、チチカカ湖伝道区のウムチにあるブロークストーン伝道所からサンディアの伝道所に行ったときでした。道路がよくなかったので、古いトラックの運転手は、速く走らせることができませんでした。トラックに積んでいるのは、わたしたちの箱、家具、その他すべての持ち物です。客席と運転手のうしろには、乗客と彼らの荷物がぎゅうぎゅうに詰め込まれています。

「ちょっと奥さん、うちの鶏たちが、おたくの犬を嫌がっているのよ。」わたしのそばにいたひとりの女性が、苦情を訴えました。彼女は何羽かの鶏の足をしばって、座席下の自分の足元に横たえています。

「あら、すみません。」わたしはそう言って、彼女にほほ笑みかけました。「犬って静かにするのが苦手なんです。特に、

乗合のお客さんの中に（鶏のような）気になる仲間を見つけたときなんて、もう。」わたしはスнкаのひもを引っ張り、しっかりと握りました。「さあ、いい子にするのよ、スнка。鶏にはかまわないで」と言いきかせました。スнкаはがまんしているようにも見えましたが、鶏たちが鳴くたびに少しうなってしまうのでした。それは到着するまでつづきました。

お昼ごろ、わたしたちはラミス川を渡らなくてはなりません。それはスнкаにも、わたしたち全員にとっても、ワクワクするような経験です。荷物はすべてトラックから降ろして、バルサに積み込みます。バルサとはインディアン式のボートで、チチカカ湖の水に生えている葦（あし）や細長い草などをかわかしたもので作られています。このような弱い材料で出来ているにもかかわらず、ボートはなかなかしっかりしていて、またよく浮くのです。

わたしたち乗客の持ち物を、インディアンが背負って川岸まで運び、バルサに積み込むようすを、わたしたちは興味深くながめていました。持ち物のすべて、つまり家の雑貨や本を詰めた箱や組立式の家具、寝台とマットレスなどが、少々たよりなく見えるボートにきちんと積み込まれました。

「ところで、人間はどうなるのかしら？」

わたしは首をかしげました。

「荷物と同じですよ、奥さん。」そう言ったのは、さっき友だちになったばかりの、あの鶏の飼い主の女性です。しばらくすると本当に、彼女は体格のよいインディアンに背負われていました。片方の手は背負っている男をしっかりとつかみ、もう片方の手で鶏の足をつかんでぶら下げています。バルサにすわってひざに鶏たちを乗せ、うれしそうにしています。荷物も手渡されました。



わたしがインディアンに背負われる番になって、スンカのことをたずねました。「この犬はどうなるんですか？」

「ああ、犬も運びますから、ご心配なく。」わたしを運ぶ人は、まるでジャガイモの大袋を持ち上げるかのようにわたしを背負いました。

スンカは、吠えつづけています。川岸を行ったり来たり走ったあげく、しまいは水に飛び込んで、わたしのほうへ泳ぎ始めました。しかし別のインディアンがスンカを捕まえ、無事にわたしの乗ったバルサへつれて来てくれました。

ほかの乗客をふくむ、すべての人と荷物を運び終えるまでには、かなりの時間がかかりました。大きなバルサ2そうが、わらで出来たロープでつながれ、わたしたちの荷物を運ぶ渡し船の役をは

たします。川を渡るのは、大変な事業のように思われました。

フリアカ村で、わたしたちは、それほどスンカに注意をはらいませんでした。というのは、その村ですることがたくさんあったのと、病院で会った大勢の友人たちに気をとられていたからです。実際、夕方近くにプノ行きの電車に乗り込んだとき、わたしたちはすっかりスンカのことを忘れてしまっていました。いよいよ電車が発車する直前になって、わたしはそのことを思い出

しました。「そうだ、明日の朝もどってくるまで、スンカをよろしく頼むわね！」電車が駅から出るとき、わたしは友人にこう叫びました。

翌朝もどってくると、スンカはいなくなっていました。そして、どこをさがしても見つかりませんでした。

(つづく)



# だい しょう 第 4 章

## さいりん ぜんちょう 再臨の前兆



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「このようにあなたがたも、これらの事<sup>こと</sup>が起こるのを見<sup>み</sup>たなら、神の国<sup>かみくに</sup>が近いのだとさとりなさい。」ルカ 21:31

#### にちようび 日曜日

イエス様と弟子たちは、オリーブ山<sup>やま</sup>にすわっていました。この日、神殿<sup>ひしんでん</sup>を去ったときにイエス様が語られたことは、弟子たちにとって信じがたいものでした。それは何でしたか？マタイ 24:2,3。

今、弟子たちは、彼らの美しい神殿<sup>かれのうつくしんでん</sup>が破壊される時と、世界の終わりが来る時をどのようにして知ることができるかを、イエス様にたずねています。これから、天<sup>かえ</sup>に帰って行かれた後<sup>のち</sup>に起こることについて、弟子たちが他の人々に伝える必要があることをイ



エス様はご存知でした。そこで、彼らの質問<sup>しつもん</sup>にお答え<sup>こた</sup>になりました。わたしたちも、他の人々に、再臨<sup>さいりん</sup>の前に起<sup>お</sup>こる出来事<sup>できごと</sup>を話す必要があるのですから、イエス様の答え<sup>こた</sup>は、わたしたちにとっても重要<sup>じゅうよう</sup>です。

その日、イエス様が語られたのは、エルサレムの滅亡<sup>めつぼう</sup>と世界の終わり<sup>せかいのお</sup>についてでした。多くの預言<sup>よげん</sup>を注意深く研究<sup>ちゅういぶか</sup>するならば、過去<sup>かこ</sup>においてすでに与えられた預言<sup>よげん</sup>と、これから与えられる未来<sup>あたい</sup>についての預言<sup>よげん</sup>とのちがいを、弟子たちだけでなくわたしたちも見分けることができるのを、イエス様はご存<sup>ぞん</sup>じでした。また、その日語られた前兆<sup>ぜんちょう</sup>〔何か<sup>なに</sup>が起<sup>お</sup>こる前に現れるし<sup>あらわ</sup>るし〕の<sup>おぼ</sup>ことを覚



えているならば、これから何が起るのかわかり、それらの出来事を理解できることも、イエス様はご存知でした。これらのしるしが見られる正確な時をお告げにならなかったのは、わたしたちがいつでも用意ができていように望んでおられたからです。

**かんが 考えてみよう：** さいりん まぢか い わたし  
再臨の間近に生きる私  
たちを助けるために、イエス様がある特別な預言者を送られたのは、わたしたちのことをこよなく愛しておられたからでした。あなたは、そのことを知っていましたか？ その預言者の名前を知っていますか？ このせかい こうずい ほろ まえ  
世界が洪水で滅びる前に、イエス様はだれをおく  
れを送られましたか？ イエス様にご自分のたみ すく おく  
民を救うために送られた預言者の名前を、ほかにもいくつかあげてみて下さい。

## げつようび 月曜日

これから先の未来に起る出来事について、イエス様が弟子たちに語られたことは、わたしたちもおぼ  
べき重要なことです。イエス様から最初に与えられた警告は何でしたか？ **マタイ**

## 24:4,5。

イエス様のおられた時代に、ある者たちは、自分が人々を敵から救うメシヤであると名乗り、人々に信じさせようとしてしました。どの時代にも、自分を救い主と名乗り、人々を神の言葉ではなく自分にしたがわせるように仕向ける者たちがいました。そしていよいよ終わりが近づくころ、サタン自身がイエス様のふりをして現れます。その変装があまりにもうまくてイエス様に似ているので、ほとんどの人がだまされて、彼が本物のイエス様だと信じてしまうでしょう。 **第2コリント 11:14。**

この警告〔気をつけるよう告げ知らせること〕の中では、偽キリストと偽預言者に対して、わたしたちがどうするべきかを語っておられます。 **マタイ 24:23-25。**

イエス様の時代に、ラジオやテレビや新聞はありましたか？ありませんね。しかし彼は弟子たちに、イエスの名を名乗る者たちを見に行っても、話を聞きにいてもいけないとおっしゃいました。なぜ今でも、イエス様の警告にしたがうことが重要なのでしょうか？

これらの「偽者」たちがすばらしい奇跡を行うと、人々は興奮して関心をいだき、彼らを見に行ってみたい誘惑にかられるのではないのでしょうか？しかし、それは安全でしょうか？いいえ。それは危険なことであると、イエス様はおっしゃいました。イエス様のように話し、絵に描かれているようなイエス様の姿をして、おどろくような奇跡を行う人を目の当たりにすると、わたしたちはつい、この人こそイエ



さまにちがいないと思ってしまうことでしょ  
う。しかし、それは本物のイエス様でしょ  
うか?いいえ、ちがいます。注意していな  
ければ、熱心なクリスチャンでも「偽者」  
たちにだまされてしまうことを、イエス様  
はご存じでした。

**かんが**  
**考えてみよう:** 親友から電話がかかって  
きて、「急いでテレビをつけてごらん!今、  
イエス様がうつっているよ!」と言われた  
ら、あなたはどうしますか?どうすればよい  
かは、イエス様が教えてくださいました。

## かようび 火曜日

イエス様は弟子たちに、終わりの  
時代に見られるしるしについて話  
しておられました。偽キリストと偽預言者  
についての警告の後に、お話しなされたこ  
とは何でしたか? **マタイ 24:6**。

イエス様が地上に来られる前にも後にも、戦争はありましたか?ありましたね。  
罪が入ってきて以来、人類はつねに争っ  
てきました。まず、サタンが天で戦いを始  
めました。彼は、争いや殺し合いを見る  
ことが好きなのです。そして、イエス様の



ご再臨が近づいてくるにつれて、国は国  
に、民族は民族に対してますます敵対し、  
憎み合うようになります。 **7.8 節**。

飢きんは恐ろしい災いですね。世界中  
のいたる所で、何百万人もの人々に食べ  
物が足りていないことを、わたしたちは耳  
にします。大勢の男女、子供たちが飢え  
のために死んでいます。それは、本当に  
悲しいことです!一方、ほかの場所では食  
べ物がありあまっていて、毎日たくさんの  
食べ物が捨てられています。

地震についてはどうでしょう?あなたは、  
何百人も、時には何千人もの犠牲者を  
出した地震のことを聞いたことがあります  
か?大勢の人が、家や持ち物を失います。  
地震のすぐ後は、生き残った人たちが集  
まり、どうしてよいかわからず、途方にく  
れることもよくあります。そして、食糧や  
きれいな水が不足するために、多くの人  
が病気になってしまうのです。

**かんが**  
**考えてみよう:** サタンが、戦争や飢きん、  
地震などが起こることをよろこぶのは、な  
ぜですか?こういった恐ろしい災いが人々  
に降りかかるとき、彼らをどのように助け  
たらよいのでしょうか?あなたは今までに、  
食糧や衣服の寄付を集める活動に協力  
したことがありますか?

## すいようび 水曜日

イエス様が未来について話しておら  
れる間、弟子たちは聞き入って  
いました。

イエス様がお話なさったようなことが、

かれ ちゆうじつ おお ひと み お かんが  
 彼に忠実な多くの人の身に起こると考えた  
 だけで悲しくなりますね。サタンにしたがっ  
 ている人たちは、イエス様に忠実な人た  
 ちを傷つけようと、できるかぎりのことを  
 するのです。イエス様は、どんなことが起  
 こるとおっしゃいましたか？ルカ 21:12,13。

てき じんもん と しら さいばん へんとう  
 敵から尋問〔取り調べや裁判で返答を  
 求められること〕されたらどう答えようかと  
 心配するのは当然だと、イエス様はわかっ  
 ておられました。どうすれば、言うべきこ  
 とが分かるのでしょうか？イエス様は弟子た  
 ちに、どんなことがあっても彼らを助ける  
 と約束なさいました。また、彼らがイエス  
 様に信頼し、心を騒がせることがないよう  
 にと望んでおられました。では、イエス様  
 のお約束とは何でしたか？ 14,15 節。

なんとすばらしいお約束でしょう！敵でさ  
 えも、忠実な弟子たちの言うことが真実で  
 あると知り、彼らに反論できないというの  
 です。

それからイエス様は、ある悲しいことに  
 ついて警告なさいました。親族同士であっ  
 ても、ある者たちは、イエス様を信じて彼  
 らに忠実であることを選んだ人に敵対するよ  
 うになるのをご存知でした。16,17 節。

イエス様の兄弟  
 たちが、はじめ  
 のうち彼を信じな  
 かったときに、こ  
 れと似たようなこ  
 とが起きましたか？  
 イエス様に忠実  
 であるために家族  
 の反対にあう人た



Little Folk Visuals

かれ き も さま じゅうぶん  
 ちは、彼らの気持ちをイエス様が十分に  
 理解して下さっていることを、いつでも覚  
 えておくことができます。

かんが けっしん か  
**考えてみよう：決心を変えなかったため**  
 かぞく てき  
 に家族が敵になってしまい、それでもイエ  
 ス様に忠実であった勇敢な人や子供につ  
 いての物語を、あなたは読んだことがあ  
 りますか？あなたの知り合いに、このよう  
 な経験をした人はいますか？もし、イエス  
 様に忠実であるために命を落とすとして  
 も、わたしたちには、次のようなすばらし  
 い約束が与えられています。「死に至るま  
 で忠実であれ。そうすればいのちの冠を  
 与えよう。」黙示録 2:10 より。

## もくようび 木曜日

イエス様がお生まれになる何百年  
 も前に、世の終わりの前にある  
 特別なしが見られることが、ヨエルと  
 いう預言者に告げられていました。オリブ  
 山にのぼられたその日、イエス様はこれら  
 のしるしについてお話しなさいました。ヨ  
 エル 2:31。

イエス様がこれらのことを弟子たちに  
 告げられてから、  
 2000年近くがた  
 ち、そのうちの3  
 つはすでに起こっ  
 ています。

まず、29 節に  
 書かれている最初  
 のしるしは、1780  
 年 5 月 19 日に起



こりました。その  
日の朝は、太陽が  
まぶしいほどよい  
天気でした。とこ  
ろが、お昼になる  
までには真っ暗で  
何も見えなくなっ  
てしまったので、  
人々はロウソクを



Little Folk Visuals

使わなくてはなりません。学校に  
いた子供たちは急いで家へ帰り、牛たちは  
小屋へ入り、鶏や鳥たちはもう寝る時間だ  
と思いました。

2つ目のしるしは、その夜、満月が現  
れたときに起こりました。月は真っ赤な色  
をしており、まるで血のようでした。

3つ目のしるしは、1833年11月  
13日に起こりました。その夜、アメリカ  
合衆国にいた人々は、何千もの「流れ  
星」が、空の中心からあらゆる方向へと  
落ちて行くのを目にしました。聖書を勉強  
していた人たちの多くは、イエス様がもう  
すぐ来られることのしるしにちがいないと  
思いました。

別のしるしは、犯罪や不正が増えるこ  
とです。そして、



多くの人のイエス  
様への愛は、熱  
くなるか、冷た  
くなるかに分か  
れます。これら  
が、再臨の前  
に起こるであ  
らうとイエ  
ス様が言われ

するしです。

**かんが  
考えてみよう:**あ

あなたは日々の生活  
の中で、イエス様  
の王国に入る選  
びをしていますか?そ  
れらの選  
びにつ  
いて、話し合  
って、話し合  
って  
ください。

## きんようび 金曜日

イエス様は弟子たちに、将来につ  
いて多くのことをお話しなさいま  
した。特に、エルサレムの町が滅ぼされ  
る前にそこを去るべきことを告げられたと  
き、彼らは熱心に耳を傾けていたはずで  
す。

イエス様が殺された後でも、イエス様  
の王国を選ぶことができるようにと、神様  
は人々に機会を与えておられました。  
祭司や民の指導者たちの何人かは、のち  
に正しい選  
びをしましたが、ほとんどの人  
はそうしませんでした。使徒たちの時代に、  
イエス様にしたがう人は、クリスチャンと  
呼ばれるようになりました。しかし教会の  
指導者たちは、まだ彼らのことを嫌って  
いて、残酷な仕打ちをしました。指導者  
たちは、イエス様にしたがう多くの人たちを  
殺しました。もし神様が守って下さらな  
ければ、すべてのクリスチャンが殺されて  
いたことでしょう。

そのころ、人々の間では恐ろしい争  
いが起こって  
いました。エルサレムにおいて

さえ、互いに殺し合う者たちまでいました。  
そしてついに、イエス様の預言から40  
年近くたって、ローマの軍隊がエルサレム  
を囲みました。クリスチャンたちは、それ  
が、イエス様がお話しなさったひとつの  
特別なしるしであることを思い出しました。  
ルカ 21:20。

そのしるしを見たなら、クリスチャンは、  
どれほど速やかにエルサレムを去らなくて  
はなりませんでしたが？マタイ 24:16-20。

エルサレム内の人々は、クリスチャンた  
ちを外へ出そうとはしませんでした。とこ  
ろが、その時が来ると、神様は奇跡を起  
こされます。ローマの軍隊がエルサレム  
の周りから撤退し始め、人々は彼らの後  
を追いました。そのすきに、すべてのクリ  
スチャンが町から外へ出て、安全な場所  
へと逃れることができたのです。

ローマの軍隊がもどって来たとき、兵士  
たちはエルサレムとその美しい神殿とを  
破壊しました。まさに、イエス様の言わ  
れたとおりのことが起こったのです。しか  
し、クリスチャンたちはすでに逃げていた  
ため、命を落とした者はひとりもいません  
でした。ただイエス様のおっしゃったとお  
りに行動した彼らを、神様が守って下さ  
ったのです。

**考えてみよう：**イエス様のご再臨の前  
にも、神の民が町を去るべき時が来るでし  
ょうか？あなたのご両親や先生にお願いし  
て、そのことを教えてもらいましょう。町を  
去るべきその時には、エルサレムからクリ  
スチャンを避難させて下さった時のように、  
神様がご自分の民を守って下さいますか？

詩編 27:5 を読んで下さい。

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 24:1-31；

★マルコ 13:1-27；

★ルカ 21:1-28；

★各時代の希望 69章（下巻  
p. 91-103）；



## スンカがない！

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカで、飼い主のラーセン夫妻といっしょに伝道の働きをした、一匹の小さな犬スンカについての、本当にあったお話です。フリアカの病院で宣教師たちが手伝いをしてる間に、スンカはまたもいなくなってしまいました。

「昨日の夕方はこちらにいたのよ！」友人たちは言いました。「スンカのために寝心地のいい場所を用意して、えさもあげただけど、何も食べたがらなかったの。あなたのことをすごく心配しているみたいで、あちらこちらをさがしていたわ。」

それでもその朝、わたしたちは旅をつづけなくてはなりません。スンカのことを心配でたまりませんでした。仕方ありません。

「スンカを置いて行くのね？」わたしの胸は張りさけそうでした。「そんなの無理よ。スンカを置いていくなで、できるわけがないじゃない。」

「僕だって同じ気持ちなんだ。君もわかるだろう。」主人はそう言いました。「でも、スンカがここに現れてくれる以外に、方法はないんだよ。僕たちのトラックは、もうじき出発する。」

わたしたちはギリギリまでスンカを待ち、呼びかけながら、病院の周辺や近所のあちらこちらをさがして歩きました。しかし、スンカはどこにもいません。フリアカをいよいよ出発したときでさえ、犬の姿が目に見えないかと、わたしは涙ごしに見ていたのです。

「心配しないでだいじょうぶよ。スンカがもどってきたら、わたしたちがかわいがってあげるから。」友人たちが、わたしたち夫婦をなぐさめてくれました。

「スンカは必ずもどってくるさ。僕にはわかる。」主人は言いました。「もしかしたら、ウミチにもどって僕たちをさがしているかもしれないな。」

主人の言ったとおり、小さな忠犬は、わたしたちの古い家がある遠くはなれたウミチへ行っていました。ラミス川も泳いで渡ったにちがいありません。近所の人たちは、ウミチでわたしたちをさがして歩き回るスンカの姿を見ていました。しかし、わたしたちがそこにいないので、長い長い道をもどり、フリアカに帰って来たのです。かわいい犬の愛と忠誠心を思うたびに、涙を流さずにはられません。

そして、スンカが病院に帰って来たことを知らせる手紙を読んだ私たちは、とびあがって喜びました。サンディアにある新しい伝道所に来た最初の訪問者が、ス



力をつれて来てくれた時に、わたしたちが  
どれほどよろこんだか、あなたにも想像が  
できるでしょう。時々、わたしは自分自身  
にこうたずねます。「この小さい犬がわた  
したちに忠実なくらい、わたしたちは主な  
る神様に忠実だろうか？」

ペルーのリマにある国際空港で、主人  
とわたしは展望台に立って、有名な  
航空会社の飛行機が友人  
や宣教師たちを乗せて飛  
び立つのを見送りました。  
空港に行くと、飛行機で  
やってくる友人たちと会っ  
たり、休暇でよろこびなが  
ら故郷へ帰る人たちを見送ったりと、楽し  
いことがつきものです。わたしは、頭の上  
にある、リマの空独特の重苦しい灰色の  
雲を見上げました。

「ああ、この雲を突きぬけて、その向  
うにある太陽の光を浴びることができたら  
なあ」と、わたしは言いました。

主人が、「もうすぐだよ」と言いました。「も  
う少ししたら、僕たちがさよならを言う番  
がくる。その時は、この場所に別れを告  
げることになる。」

「そうね。」わたしたちはしばらくの間、  
黙って立っていました。「それって、ちょっ  
とさびしいわ、そうでしょう？ペルーの国  
や、たくさんの友だちとお別れするなん  
て。」スンカがひもを引っ張りました。「ス  
ンカが、そろそろ行こうって言うてるみた  
い。ところで、スンカはどうするの？スンカ  
と別れるなんて、私はいやだわ。」

「でもたぶん、友だちをここに残して行

くと同じように、スンカも置いて行かな  
いといけないんじゃないかな。」主人が好  
きでそう言っているわけでないのが、わた  
しにはわかります。

「どうして？いっしょに連れて行けないか  
しら？」

「飛行機に乗せるのかい？」

「ええ。」

「考えてごらん。宣教師  
が犬といっしょに帰国する  
のかい？」

「いいじゃないの。ス  
ンカはただの犬じゃなくて  
伝道犬なんだから。それに家族の一員で  
しょう？」

「いや、飛行機にはだめだって言われる  
はずだよ。」わたしはもっと話したかった  
のですが、主人はこれ以上話したがしま  
せんでした。「さて、行くのでしょうか。」彼  
はそう言いました。

(つづく)



# だいしょう 第5章



## さいご 最後にかた 語られたたとえ話 ばなし

子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。」 マタイ 25:13

#### にちようび 日曜日

オリブ山にて、イエス様は弟子たちに、将来起こることについてお話しなさいました。イエス様といっしょに天国へ行くための備えをすることがどれほど大切であるかを、すべての人に知ってほ



しいと望んでおられました。まもなく、わたしたちをこの悪にみちた世界から助け出して、天国に用意された素晴らしい住まいへと、つれて行って下さいます。

イエス様が弟子たちにお話しなさっていると、日は暮れて、夜になっていました。それほど離れていないところに建っている家の窓に、あかりがまぶしく輝いているのが見えます。人々は外に立ち、道を見下ろしています。そこでは、結婚式が行われているようでした。

結婚式や葬式といった行事のいろいろな習わし〔昔から受けつがれてきたこと〕は、世界のそれぞれの国によってちがいます。イエス様と弟子たちが住んでいたこの国では、結婚式は夜にあげられました。ですから招待客は、たいまつ、またはランプをたずさえてきました。花婿は、花嫁の家で彼女を迎え、婚宴の夕食会がひらかれる自分の家へとつれていきます。

イエス様と弟子たちが見ていたのは、花嫁の家の外に立って、花婿が迎えに

来るのを待つ招待客たちです。

この様子をながめていたとき、イエス様は、ご再臨の時に共に天国へ行くための準備をすることの大切さと、天国で計画されている婚宴の食事会について考えておられました。

**考えてみよう:** イエス様のお話は、弟子たちにとって大切だったのと同じように、わたしたちにとっても大切ですか? それらのお話は、わたしたちの何についての理解を助けてくれますか?



ていましたが、その中のある者たちは賢く、ある者たちは愚かでした。2-4 節。

おとめたちが予想していたよりも、花婿の来るのが遅くなりました。待っている間に次第に眠くなり、まもなく全員が眠ってしまいました。5 節。

真夜中になって「花婿が来るぞ! さあ、急いでお迎えしよう!」と叫ぶ声を聞いて、あわてて飛び起きるおとめたちのようすが想像できるでしょうか? 彼女たちは何をしましたか? 6,7 節。

賢いおとめたちは、すぐにランプに油をつぎ足しましたが、愚かなおとめたちは困ってしまいました。8 節。

**考えてみよう:** 愚かなおとめたちとちがって、賢いおとめたちがしたことは何でしたか?

## げつようび 月曜日

花婿を待つ人々の光景は、イエス様に、花婿に似たご自身の役割を思い起こさせました。神様の王国に入りたいと望む人は、イエス様に迎えていただけるように、準備をしなくてははいけません。このお話は、わたしたちがイエス様といっしょに天国へ行くために、どのような準備をしなくてはならないかを教えています。

その晩、オリブ山で花婿を待つ人たちの中に、10人の少女がいました。聖書は、これらの結婚していない少女を「おとめ」と呼んでいます。彼女たちはそれぞれ粘土製の小さなランプに火を灯してもち、必要な場合のために、予備の油を入れた小さなビンをたずさえていました。皆、花婿を待っています。マタイ 25:1。

おとめたちは、かっこうも仕草もよく似



## かようび 火曜日

イエス様は、花婿が来るのを待つ間に眠ってしまった10人のおとめについて、お話しなさっています。賢い5人は、自分のランプに必要な予備の油をたずさえていましたが、ほかの5人は、予備の油を用意していませんでした。花婿が来るときには、全員のランプが明るく燃えていなくてははいけません。愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに何をお願いしましたか? マタイ 25:8。



賢いおとめたちは、自分たちのもつ火  
が消えないようにと、すでに予備の油をラ  
ンプに注いでしまった後でした。もう、分  
けてあげることはできません。このたとえ  
話は、とても悲しい結末になっています。  
9-12 節。

たとえば、再臨がずっと遠い先のことのよ  
うに思えたとしても、イエス様は必ずもどっ  
て来られることを、わたしたちに覚えてい  
てほしいと望んでおられます。そして、つ  
ねに用意をしているのは、とても大切なこ  
とです。13 節。

この物語には、ほかにも教訓がありま  
す。ランプは何を意味していますか？詩篇  
119:105。イエス様とそのみことばは、何  
に似ていますか？ヨハネ 1:1,14。

**考えてみよう:**あなたは「ともしび [ラン  
プ]」を持っていますか？今、このお勉強  
をしている時にも、その「ランプ」を使っ  
ているはずですよ。その「ランプ」というの  
は、神の言葉すなわち聖書の事です。こ  
の聖書は、わたしたちをどのようにサタン  
から守ってくれますか？詩篇 119:11。

## すいようび 水曜日

自分の聖書を持っている人は、ど  
こにでもいますか？そうですね。  
たくさんの方が聖書を持っています。しか  
し、ただ聖書を持っているというだけで、  
充分ですか？聖書を、光り輝くランプと  
させるのは何でしょうか？賢いおとめたち  
のランプを輝かせたものは何でしたか？そ  
れは油です。そして油は、聖霊をあらわし

ています。

ほとんどの人は、イエス様を信じる選  
びをしませんでした。聖霊が心に語りつづけ、  
また、イエス様の奇跡をその目で見たと  
もかかわらず、彼を信じようとはしません  
でした。彼らは、それまでの生き方をつ  
づけることを望みました。心の奥底では、  
イエス様を神様の子と認めていたましたが、  
自分を変えたくありませんでした。彼らは  
まるで、自分たちが選んでいるまちがった  
考えや行いを見たくなくて、暗い部屋にと  
どまっている人たちのようでした。ヨハネ  
3:18,19。

聖霊は、わたしたちに十戒を理解させ、  
それにしたがうことができるように助けて  
くれる「油」です。聖霊は、わたしたち  
人間が、自分自身の力でまちがった行い  
を変えることができないのをご存知で、そ  
んなわたしたちを助けたいのです。聖書  
を学ぶには、理解するために聖霊の助け  
がつけに必要です。

愚かなおとめたちのように、多くの人は  
イエス様を知っていて、彼を愛していると  
言います。そのような人は、十戒を知っ  
ていて教会にも通い、ほかにも良い行い  
をしています。しかし、愚かなおとめた  
ちの外見や行いは賢いおとめたちに似て  
いたましたが、彼女たちは聖霊の「油」を  
持っていませんでした。愚かなおとめたち  
は、心を聖霊でみたく時間を持っていな  
かったのです。わたしたちは、イエス様  
に似ることができるように、毎日、聖霊の  
助けをいただく必要があります。

**考えてみよう:** どうすれば、心を

まいにちせいれい  
毎日聖霊でみたくことができますか？イエ  
さまにものせいれいたす  
様に似る者となるために聖霊に助けを  
もとえらるときにわたしたちは何を  
得ることができますか？ガラテヤ 5:22,23。  
せいれい  
もし聖霊がわたしたちの心を毎日みたくな  
らば、たとえ再臨の前にわたしたちが死ん  
だとしても、イエス様が来られる時にどう  
なりますか？ローマ 8:11。

## もくようび 木曜日

た  
たとえ話に出てきた5人の賢いお  
とめと、5人の愚かなおとめのち  
がいは何でしたか？油とランプは、何を  
意味していましたか？

サタンがあらゆる手を使って、再臨のこ  
とをわたしたちに忘れさせようと誘惑する  
のを、イエス様は知っておられます。わた  
したちは誘惑に負けずに、いつでも用意  
をしておく必要があります。

イエス様はまた、備えをすることにつ  
いて別のたとえ話をなさいました。それ  
は、仕事のよくできる賢いしもべについ  
てのお話です。このしもべの主人は彼をひ  
じょうに信頼していたので、全財産を管理  
させる地位につけ、自分の商売までまか  
せました。マタイ

24:45。

さて、主人が旅  
に出て、しもべが  
思っていたよりも  
長く家をあけるこ  
とになった場合、  
この主人は家のこ



とを心配するでしょうか？主人は、このし  
もべが別の召使いたちとうまくやっている  
かどうか、心配するでしょうか？また主人  
は、自分が留守の間に、しもべが管理し  
ているお金をむだ使いしたり、盗んだり  
していないかと疑うのでしょうか？しもべが  
仕事をなまけて、休んでばかりいるので  
はないかと気をもんだりするのでしょうか？  
そんなことはありません。主人は、このし  
もべが完全に信頼できる者だと知っている  
のです。45-47 節。

かんが  
考えてみよう：あなたは、このしもべのど  
んなところが好きですか？しもべは、主人  
がいつ帰って来てもよいように、用意をし  
ていると思いますか？わたしたち一人ひと  
りも、イエス様かサタンのどちらかに従う  
しもべなのです。イエス様のよきしもべと  
して、できることは何でしょうか？

## きんようび 金曜日

イエス様は、よきしもべの話の後に、  
彼とは正反対の人についてお話  
しなさいました。

この物語に出てくるしもべは、だれか  
に見られている時とそうでない時とで、ち  
がった行動をとるような人のことを表して  
いるのでしょう。物語の中では、主人が  
このしもべを信頼しているのがわかりま  
す。なぜなら、彼は旅に出ている間、こ  
のしもべにも責任をもたせているからで  
す。ところが、思っていたよりも主人の  
帰りが遅くなると、しもべは正体〔隠さ  
れている本来の姿〕をあらわします。彼

は何と言いましたか？また何をしましたか？**マタイ 24:48。**

このしもべは、前の物語に出てくるしもべとは、まるで



ちがいました。主人がいない間、このしもべは不機嫌で、何にでも気に入らないことを見つけました。他のしもべたちと争い、暴力までふるいました。時には、宴会を開いて遊ぶためにお金を使い、酒に酔いつぶれました。しもべは、主人がもうすぐ帰ってくると思っていたのでしょうか？ある日、主人が帰ってきてそのようすを目にしたとき、このしもべがどう感じたかを想像できますか？

物語の最後は、このしもべにとって悲しい結末をむかえます。仕事を失い、偽善者と呼ばれ、痛ましい死にかたをすめるのです。**50,51 節。**

イエス様がお話なさった、これらふたつの物語に出てくる2種類の人たちについて、ソロモンは何と言っていますか？

**箴言 13:15。**

**考えてみよう：**偽善者とは何ですか？それは、偽の自分を演じている人のことです。どちらのしもべが、再臨のときにイエス様といっしょに行く準備ができているのでしょうか？最初のしもべのようであるなら、いつでもイエス様をおむかえする準備ができていることでしょう。**マタイ 24:45-47**をもう

いちど読んで下さい。

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 24:45-51; 25:1-13

★各時代の希望 69章 下巻

p. 102-106

★キリストの実物教訓 29章





## スンカのかご

アンナ・ラーセン



これは、南アメリカで、飼  
い主のラーセン夫妻といっ  
しょに伝道の働きをした、  
一匹の小さな犬スンカについ  
での、本当にあったお話です。空港でい  
くつものおもしろい経験をした後、スンカ  
はついに、アメリカ行きへの飛行機に乗  
せてもらえることになりました。ところがこ  
んどは、飼い主のラーセン夫妻が、到着  
した後に何が起こるのか気になっていま  
す。

「マ イアミでスンカがどう扱われる  
のか、不安で仕方がないわ。」  
アメリカ合衆国に近づいてきたところで、  
わたしはこう言いました。

「どうして? 彼らはきっとス  
ンカに優しくしてくれるさ。  
大丈夫だよ。」主人は、まる  
で心配していないようです。

「わかってるわ。でも、ス  
ンカを何週間か隔離する〔はな  
れた別のところに〕はずよ。」

「いや、病気が見つからな  
いかぎり、そうはしないだろう。スンカの  
健康証明書を見れば、そうする理由はな  
いだろう? 検査を無事、通りぬけるに決  
まってるよ。だってスンカは、予防注射を



ぜんぶ  
全部すませているじゃないか。」

マイアミ空港入口の外では、迎えに来  
た友人たちが手を振っています。わたした  
ちは、出入国管理と税関検査を難なく通  
りぬけました。それからすわって、スンカ  
を検査するための獣医が来るのを待ちま  
した。待てば待つほど、わたしはイライラ  
してきました。

「さあ、着いたわよ、」わたしはスンカ  
に言いました。「アメリカに入学する準備  
はととのったし、あとはあなたを待つだけ  
よ。」わたしが犬用のひもをつけると、ス  
ンカはうれしそうにかごから飛び出し、足  
を伸ばしました。

やっとのことで獣医があらわれると、ス  
ンカは転がってからすわり、  
前足をふってあいさつしまし  
た。実のところ、よい印象を  
与えるためにそうしなさいと、  
わたしがスンカに言いつけた  
のでした。

獣医は、「やあ、ワンちゃん」  
とあいさつしました。「南米か  
ら来られたんですね。では、  
ちょっと見せてもらいます。」獣医が、ス  
ンカの健康証明書を注意深く読む間、わ  
たしは、スンカが隔離されてしまわない  
か、気が気ではありませんでした。

獣医は「オーケー」と言って、わたしに健康証明書を返しました。

「ということは、この犬をつれて行ってもよいということでしょうか？」そんなことを聞くつもりはなかったのですが、わたしの不安な気持ちがつい言葉にあらわれてしまいました。

「ええ、問題ありませんが。何か？」獣医は言いました。「この犬の健康状態は良好ですよ。」スнкаをなでながら、彼はこうつけ加えました。「ねえ、ワンちゃん。」

なんていい獣医さんでしょう。わたしは心の中で、「この獣医さんのおかげで、わたしたちがどんなに喜んでホッとしているか、本人は知るよしもないだろう」と思いました。

獣医は立ち去るときに、「実にいい犬です」と言いました。

スнкаは彼を見上げて、しっぽを振っています。もちろん、スнкаは自分がアメリカにきていることを知りませんし、飼い主のわたしたちといるかぎり、そんなことを気にする必要もありません。ただ、自分に何かすばらしいことが起こったことは、感じとったかもしれません。

それからというもの、スнкаはアメリカで、神様のためにお友だちを増やしてきました。スнкаは、死ぬまで伝道犬でありつづけたのです。

(おわり)

# だい しょう 第 6 章



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## さま もち イエス様のために用いるタラント

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」

マタイ 25:40

#### にちようび 日曜日

人は、どうやってお金をもうけますか？だれかからお金をもらう場合もありますが、ほとんどの人は、お金を得るためになんらかの職業について仕事をします。あなたが銀行にお金を預けるとしたら、銀行は預かったお金を使ってさらにお金をもうけることができるので、あなたにいくらのお金を支払います。それは、利息と呼ばれるものです。

あなたが出席している安息日学校には、投資〔利益を得る目的でお金を使うこと〕プロジェクトというものがありますか？たとえば、トマトの種を買って植え、成長して実がなるとそのトマトを売ります。そうすれば、種のために支払った代金よりも多くのお金を得ることができ、教会のため



に用いることができます。

イエス様は、お金をもうけようとしたひとりの男についてのお話をなさいました。彼は、旅に出ている間にお金を増やすことができるようにと、家を出る前にもべたちにお金を預け、投資をさせました。男は、それぞれのしもべの能力と、またそれぞれにどれだけのお金を預ければよいかをよく心得ていました。マタイ 25:14,15。

イエス様がこのお話をなさった当時は、1タラントでもかなりの大金でした。5タラントと2タラントを与えられた男たちは、

そのお金で何をしましたか？

**かんが 考えてみよう:**このふたりのしもべは、どうやって主人を喜ばせましたか？あなたには、この物語でイエス様が話しておられるタラントよりも、もっと価値のあるタラントが与えられていることを知っていましたか？



## げつようび 月曜日

イエス様は、3人のしもべについて話しておられました。主人は、旅行に出ている間、お金を増やしてもらうため、彼らにお金を預けたのでした。5タラントと2タラントを預けられたしもべたちは、さらに多くのお金をもうけました。さて、1タラントしか預けられなかったしもべは、何をしたいと思いますか？**マタイ 25:18。**

旅先から家に帰った主人は、何をしましたか？ **19節。**

まず、5タラントを預けられたしもべが、預かったお金とは別に5タラントをもうけたことを報告します。次に、2タラントを預けられたしもべも、ほかに2タラントをもうけたことを話しました。このふたりのしもべは、よろこんで帰って行ったと思いますか？ **20-23節。**

ところで3人目のしもべは、自分のタラントについて何と言いましたか？ **24,25節。**

主人は、それをよろこんだでしょうか？ 当然、よろこぶわけがありません。主人はこのしもべを、たちの悪い怠け者と呼びました。そう呼ばれても仕方ありません。少なくとも彼は、このタラントを銀行に預けておくこともできました。そうすれば、そのあずかったお金を使ってもうけた銀行から、「利息」をもらうことができたはず。ところが3人目のしもべは、そうするどころか、「利息」も何も生み出さない

土の中にお金を隠したのでした。 **26,27節。**

そこで主人は、そのしもべの持っていたタラントを取りあげ、10タラント

を持っているしもべに与えました。もしわたしたちが、今すでに持っているものを賢く用いるならば、さらに多くのものを任せられることでしょう。 **28,29節。**

**考えてみよう：**イエス様は、ただ単にお金をもうける話をしていただけですか？ イエス様がわたしたちに与えて下さったタラントは、本当に、この物語に出てくるしもべたちのタラントよりも大きな価値があるのでしょうか？ それをこれから確かめてみましょう。



## かようび 火曜日

タラントについてのイエス様のこのたとえ話は、お金以上のことが語られています。イエス様がわたしたちに与えて下さるタラント〔才能〕のひとつですら、お金で買うことはできないからです。

イエス様は地上におられたとき、しもべであるわたしたちが彼の王国を広げるために、どのように各自のタラントを用いるべきかを、お示しになりました。イエス様はわたしたち一人ひとりに、タラントをお与えになりました。そして物語の中のしもべたちのように、人はそれぞれ、与えら



れたタラントで何を  
するのかわる選ぶこと  
ができます。

多くの人は「タ  
ラント」のことを、  
歌やピアノのような  
音楽、絵を描くこと

などが、ほかの人よりも上手にできること  
だと思っています。ある人たちのような、  
特別なすぐれた才能がないので、自分  
には何もタラントがないと思っている人  
たちがいます。しかし、ほとんどの人が特別な  
タラント〔才能〕と考えているものが、も  
とも大切なタラントではないのです。

私たちに覚えていてほしいとイエス様が  
望んでおられる、とても大切なことがふ  
つあります。まず第一に、与えられたタ  
ラントはどれひとつとして、わたしたちの  
ものではないということ。それらはすべて、  
イエス様のものです。次に忘れてなら  
ないのは、イエス様が与えてくださったタ  
ラントを、だれのために使うのかは、わた  
したちに任されているということです。タ  
ラントをイエス様のために用いなければ、  
わたしたちを滅ぼすために、サタンがそ  
れらを用いるでしょう。

**考えてみよう:** わたしたちは、どのような  
タラントを与えられていますか? 考えたり、  
話したりすることができるのも、タラントの  
ひとつですか? 「影響力」と呼ばれている  
ものはどうでしょう? 「影響力」とは、わた  
したちが言葉や行動によって、ほかの人  
に良い事あるいは悪い事を選ぶことで、  
実は、だれにでもその「影響力」と

いうタラントがあります。わたしたちは、1  
分、1時間をむだにしていますか? それ  
も賢く使っていますか? 自分の健康につ  
いてはどうですか? 健康の法則にしたが  
っているでしょうか? お金をもうけること  
ができるのも、タラントのひとつです。し  
かし、それらのお金が、本当はわたした  
ちのものではないことを覚えていま  
いますか? 最後の段落をもういちど  
読んで、あなたにいくつタラント  
があるかを数えてみましょう。

## すいようび 水曜日

**あ** あなたは、自分がどんなタラントを  
神様から与えられているか知  
っていますか? 昨日学んだことを考  
えて、わたしたちが自分を助ける  
ためにタラントを使っているのか、  
それともイエス様のために使  
っているのかを判断してみましょう。

**考えることと話すこと:** 何かを勉強して  
考えることは、大切ですか? あなたは、心  
にある正しい良い考えを成長させるた  
めに、見たり、読んだり、聞いたりして  
いますか? あなたは話すときに、礼儀正  
しく、親切で、気持ちのよい言葉を使  
っていますか? グループで話をするとき  
などに、そのことを心がけていま  
いますか? それとも、自分の言うこと  
を大急ぎで話して、ほかの人に分  
かってもらえないことがあります  
か? あなたの話した内容ではなく、話  
し方が問題だと、言われたことは  
ないですか?

**影響力:** あなたの言動〔言うことと  
やること〕のすべては、あなた自身  
にもほかの人たちにも、良い事か  
悪い事のどちら

かを選ばせる助けになること  
を覚えていますか？

**時間**：「時間」はすべての  
人に平等に与えられていま  
すね。毎日、すべての人間  
に、同じ秒、分、時間が与  
えられています。そしてだれ  
もが、その時間をどのように  
用いるかを選びます。子どもたちは、い  
ろいろな雑用や、学校に行くことに時間  
を使うでしょう。また大人たちも、それぞ  
れ決められたことをします。しかしそれら  
のことはする時に、自分の最善をつくさな  
いで、時間をむだにしてもよいと思いま  
すか？

**健康**：わたしたちのほとんどが健康の  
法則について学んでいます。これらの  
法則にしたがうことを学んでいるでしょ  
うか？そのタラントを失うと、ほかのすべて  
のタラントにまで害を与えてしまいます。

**お金**：神様から預かっているお金を賢  
く使うとき、神様がわたしたちにして下さ  
ることは何でしょうか？それを思い出すた  
めに、**マラキ 3:8-10** をもういちど読んで  
下さい。神様の祝福は、お金よりもずっと  
すばらしいはずですよ。

**考えてみよう**：あなたは、神様から与え  
られたタラントを、どのように用いようとし  
ていますか？



る時期がくると、農場主は羊と  
ヤギとを分けます。ヤギからは、  
羊のような毛がとれないからで  
す。世の終わりに存在するのは、  
ただ2つのグループです。神様  
の王国を選んだ人たちは「羊」  
のグループに、サタンの王国を  
選んだ人たちは「ヤギ」のグルー  
プに入れられます。**マタイ 25:31-33**。

イエス様は、右側にいる「羊」のグ  
ループの人たちに、何と言われますか？  
**34-36 節**。

これらの人たちは、大変おどろきます！  
実際にイエス様を見たのは、2000年前  
に生きていた人たちだけのはずですよ。  
ほかの人に対して行った親切が、どうしてイ  
エス様に対して行ったことになるのでしょ  
う？ **37-39 節**。

これらの人たちは、パリサイ人とはまる  
でちがいます！パリサイ人たちは、人と比  
べて自分の方がすぐれていると思っていま  
した。彼らは、自分たちの行いによって、  
神様の国に入れると思っていました。し  
かし、神様の国に入れるのは、イエス様  
がわたしたちの身代わりとして死んでくだ  
さったからなのです。イエス様の右側に  
いる人たちも多くの良い行いをしていまし  
たが、それは彼  
らがイエス様を  
愛して、イエス様  
と同じような愛を  
心に抱いていた  
からでした。まる  
でイエス様に対



## もくようび 木曜日

イエス様は次の物語で、人間を羊  
とヤギにたとえています。毛を刈



して行ったかのように、イエス様が、彼らの親切で思いやりのある行いに感謝しておられることを知って、彼らは心をおどらせることでしょう! 40節。

**考えてみよう:** わたしたちは、人々が親切をほどこすときの本当の理由を、いつでも知ることができますか? それはできません。ではイエス様は、人の心の中をご存じでしょうか? わたしたちはどんな思いをいだって、親切を行うべきですか?

## きんようび 金曜日

イエス様は、一人ひとりがどちらかの王国を選んだ後の、世の終わりの状態について話しておられます。はじめに「羊」、つまり、聖霊にわがままな思いをとりぞいてもらい、イエス様のような心になることを選んだ人たちについてお話しなさいました。

次に「ヤギ」、つまり自分は神様の王国にふさわしいと思っている人たちについて語られました。彼らは聖霊の声をこぼんだため、まだわがまま〔自分中心〕のままです。イエス様は、わがままな人を祝福することはおできになりません。ですから、彼らはイエス様の王国に入ることができません。たとえ入れたとしても、幸福になることはないでしょう。イエス様は彼らに、やむを得ず何と言われましたか? **マタイ 25:41。**

これらの人たちは、サタンや悪天使たちと共に罰を受けるでしょう。イエス様は、羊のグループとヤギのグループの人

たちの決定的なちがいを示しました。**42,43節。**



この物語で、2番目のグループの人たちは最初のグループの人たちと似たような質問をします。イエス様は、どちらにも同じように答えられました。**44,45節。**

2番目のグループの人たちは、最初のグループの人たちと同じくらいおどろきました。彼らは、心に宿る神様の愛が、人々をイエス様へとひきつけるのだということを知り、学んでいませんでした。神様の愛は、敵に対しても優しくできるように助けてくれます。

2番目のグループの人たちは、サタンや悪天使たちと共に滅びます。一方、最初のグループの人たちは、イエス様と共に永遠に生きるのです。**46節。**

**考えてみよう:** どうすれば、わたしたちは右側のグループに入れるでしょうか? わたしたちにはどのようなタラントがありますか? ほかの人たちも右側のグループに入れるよう手助けするために、わたしたちはタラントをどのように用いることができますか?

## もっと学ぼう!

★マタイ 25:14-46

★各時代の希望 70章

★キリストの実物教訓 25章



## えいよう いしゃ 栄養はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著



よい えいようそ  
良 い 栄養素  
は、 体 を  
かいてき うご  
快適に動かすた  
めにとても重要  
です。車を買  
うと、持ち主は

所有者マニュアル〔手引き〕を読み、どの種類の燃料をこの車に使うべきかを調べます。神様はわたしたちにも、所有者マニュアルを下さいました。それは聖書です。創世記 1:29 に、どのような食物を食べたらよいかがかかれています。あなたの体は、自然の物、つまり穀物や果物、野菜やナッツなどを食べて健康を保つようにつくられているのです。



残念なことに、多くの人たちは、その「所有者マニュアル」にしたがっていません。たくさんの方がしている大きなまちがいのひとつは、砂糖のとりすぎです。アメリカ人が1年間で食べる砂糖の量は、平均で約45kgにもなります！

砂糖はカロリーは高いのに、栄養はからっぽです。あなたの体に必要なものは、砂糖にふくまれていないのです。

砂糖はあなたを不機嫌にさせます。その

理由は、まず血糖〔血液内の糖〕を上げ、その後、ものすごい速さで糖を下げるからです。

砂糖は、あなたの体が病原菌と戦う力を弱めます。白血球に本来の働きをさせないようにするからです。

砂糖はあなたを太らせます。お菓子類やドーナツを食べると、しばらくの間だけ元気になったと感じるかもしれませんが、しかしその後、上がっていた血糖が下がると、こんどはおなかですきます。そして、さらに甘いものが欲しくなるのです。

ほとんどの人は、自分がたくさん砂糖を食べていることを自覚

していません。砂糖は、ほぼすべての加工食品にふくまれています。多くの方は、だまされています。なぜなら、栄養価の少ない食品に大量の砂糖が使われていることがよくあるからです。しかもそういった食品は、大々的に宣伝されています。朝食用シリアルには、たくさん砂糖が使われていることがよくあります。クラッカーや加工食品のスープにさえ、砂糖は含まれているのです！





・ケロッグ社  
のハチミツ  
味シリアルお

さらいっぽいぶん  
皿一杯分には、スプーン 8 杯の砂糖。

たんさんいんりょう  
・340g の炭酸飲料には、スプーン 11 杯  
の砂糖。

ほん  
・チョコレートバー1 本には、スプーン 15  
杯分の砂糖。

つく  
トを作りましょう。あなたの体はきっと「あ  
りがとう」と答えてくれますよ。

けんこう たから  
健康は宝です。また子どもたちに、  
じぶん からだ だいじ  
自分の体を大事にすることを教えること  
は、えいえん じゅうよう かだい  
永遠に重要な課題です。モーニング  
タイム・ミニストリーは「8つのお医者さん」  
という、子どものための健康科目をつくり  
ました。

では、わたしたちはどうすればよい  
のでしょうか？

しょくひん ひょうじ よ なに ふく  
・食品のラベル表示を読んで、何が含  
まれているかをチェックしましょう。

かみさま つく  
・できるだけ神様がお造りになったまま  
の、自然な形で食べ  
ましょう。

たんさんいんりょう  
・炭酸飲料のかわりに  
みず  
水を飲みましょう。



か み さま い  
神様はこう言っておられます：「わが  
こ みつ た よ  
子よ、蜜を食べよ、これは良い

ものである。また、蜂の巣のしたたりはあ  
なたの口に甘い」箴言 24:13。砂糖をす  
べてやめる必要はありません。ただ、ひ  
かえめにとりましょう。手作りのデザート  
にすれば、砂糖の量をコントロールでき  
ますね。レシピに書かれている分量より  
も砂糖を減らしてもいいかもしれません。  
ため くだ かんたん けんこうてき  
ぜひ、試してみてください。簡単で健康的  
なデザートとして、リンゴや凍らせたぶ  
どうを食べてみませんか？

想像力を働かせて、  
けんこうてき  
健康的でおいしいデザー





# だいしょう 第7章 さいごばん 最後の晩さん



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもそうするように、わたしは**手本**を示したのだ。」ヨハネ 13:15

### にちようび 日曜日

エルサレムのある住宅の2階の部屋では、13名の人**が**食卓を囲んでいました。彼らは、毎年イスラエル人が行く祝いの、特別な食事をしていました。2階の部屋に集まっていたのは、だれでしたか？その食事は、なぜ特別だったのでしょうか？ルカ 22:8-14。



最初の過越しの食事は、千年以上も前に、奴隷だったイスラエル人が冷酷な〔思いやりがなくむごい〕エジプト人から解放された夜になされました。その夜、家の入口の柱に、過越しの小羊の血が塗られたイスラエル人の家々を、死の天使が「過ぎ越し〔通り過ぎ〕」しました。そのため、これらの家々の初子〔最初に生まれた子ども〕は無事でした。ところが同じ夜、小羊の血を入口の柱にふりかけていなかったエジプト人の家の初子は、ひとり残らず死んでしまいました。出エジプト記 12:23。

はるか昔のその夜、すべてのイスラエル人の家族は、エジプトを出る準備ができていました。彼らは足にサンダルをはき、急いで過越しの食事をとりました。しかし、イエス様と弟子たちが過越しの祭りを祝うころまでには、すべてが変わっていました。彼らは、急いで食べる必要はありませんでしたし、昔のイスラエル人たちのような命の危険もありませんでした。

イエス様と弟子たちにとって、過越しの

まつ とくべつ ととき おおぜい  
祭りは特別な時でした。それは、大勢の  
ひと たち き 聞かれることなく、ともに静かに  
かた あ じかん 語り合える時間だったからです。しかし、  
こんかい 今回 はちがいました。イエス様は何かに  
ついて なや かな 悩み、悲しんでおられました。

**かんが 考えてみよう:** イエス様がこれからなさ  
うとしていたことを誤解して、弟子たちは  
どんなことを考えていましたか?この時に  
なってもまだ、弟子たちはお互いのことを  
どう思っていましたか?

## げつようび 月曜日

イエス様と弟子たちが、過越しの  
ゆうしょく ようい 夕食をとる用意ができました。し  
ほんとう い み じゅんび かし、本当の意味で準備ができていたわ  
けではありません。弟子たちは、イエス様  
がもうすぐ王になることを望んでいながら、  
たが あ しょくたく 互いにねたみ合っていました。食卓の  
いちばん せき きそ あ 一番いい席にすわろうと競い合い、ユダ  
はイエス様の左側に、ヨハネは右側にま  
んまとすわったのでした。イエス様が悲し  
んでおられたのも当然です!**ルカ 22:24。**

とくべつ しょくじ めしつか  
特別な食事のときには、召使いがみ  
あし あら しゆうかん んなの足を洗う習慣がありました。たら  
みず いと水とタオルが用意されていましたが、  
めしつか 召使いがいません。また、すすんで召使  
いのごと おも でし 用の仕事をしようと思う弟子は、ひとりも  
いませんでした。

イエス様はしばらくようすを見ておられ  
ましたが、弟子たちはまるで知らぬ顔をし  
ています。ついにイエス様がしづかに立  
あ ち上がって、上着を脱ぎました。それか  
ら腰にタオルを巻きつけ、たらいに水を

そそ 注ぎました。そしてまず、ユダの足を洗っ  
たのです。**ヨハネ 13:3-5。**

でし おも いっしゆん か  
弟子たちの思いが一瞬にして変わった  
のが、想像できますか?彼らは不意に、  
そうぞう 想像 自分たちがどんなに高慢 [思いあがって  
ひと みくだ 人を見下すこと] で意地悪であったかを  
さと 悟りました。自分たちのだれかが、この  
めしつか しごと か で 召使いの仕事を買って出るべきでした。  
だれもそうしなかったので、神のみ子であ  
られるおかたが、めしつかい しごと ひ う  
召使の仕事を引き受け ゼんうちゆう そうぞうしゆ  
られたのでした。全宇宙の創造主であ  
られるイエス様が、弟子たちの汚れた足を  
あら 洗われたのです!

**かんが 考えてみよう:** あなたが弟子のひとりだっ  
たら、どんな気持ちになったでしょうか?  
かれら は、どう変わる必要がありましたか?  
イエス様がなされたことは、高慢な彼らを  
しか 叱りつけるよりも効き目がありましたか?そ  
れはなぜですか?

## かようび 火曜日

すぎこ しょくじ  
この過越しの食事にやってきたと  
きでし きの弟子たちは、高慢 [思いあ  
ひと みくだ がって人を見下すこと] や怒りやねたみ  
かんじょう の感情をいただいていた。ところが、イ  
エス様が彼らの足を洗い始めると、その  
おも いっしゆん か ような思いが一瞬にして変わりました。イ  
エス様は、ユダがすでに2度も祭司や民  
しどうしゃ とあ 指導者たちと会い、ご自分を捕まえる  
てつだ やくそく 手伝いをする約束をしていたことを知って  
おられたにもかかわらず、かれ あし さいしよ  
洗ったのでした。

ほんのひと時の間、ユダの心はイエス

様の優しい愛でやわらぎました。彼は、自分のしてしまったことを、イエス様に打ち明けたいという思いにかられました。しかしすぐに、そのような思いを打ち消しました。自分の恐ろしい罪を認めるのは、誇り〔プライド〕がゆるしませんでした。

弟子たちは皆、イエス様のなさるのを見てひどくおどろきました。自分の足が洗われる番が来たとき、おそらくペテロは足を引っ込めたことでしょう。ペテロは何と言いましたか？またイエス様は、何とお答えになりましたか？ヨハネ 13:6-9。

ペテロはイエス様を愛していました。しかしまだ、自分が弱い者で、変えられる必要があることに気づいていませんでした。また、自分自身の力で自分を変えることができないことも、理解していませんでした。

バプテスマを受けることは、お風呂に入ることに似ていると、イエス様は説明なさいました。何かまちがったことをするたびに、バプテスマを受ける必要はありません。聖さん式のときに行われる洗足式は、小さなバプテスマのようなものです。もしも、ほかの人と仲たがいをしたら、仲直りをすべきです。わたしたちが互いにゆるし合うとき、イエス様もわたしたちをゆるして下さるからです。

イエス様が弟子たちの足を洗われたことは、わたしたちが謙遜〔へりくだること〕で清い心を持つことについて、とても大切なことを教えています。ひとりのをぞくすべての弟子が、



お互いに対していただいていたまちがった思いを、心から悪かったと感じていました。

### 10-15 節。

**考えてみよう：**高慢で自分勝手になってしまうのは、ごく自然なことですか？本当ならあなたがすべきことを、だれかがしてくれたことはありませんか？あなたは、お母さんを召使いのようになつかったことがありますか？

## すいようび 水曜日

**過**越しの食事の席で、イエス様は弟子たちの足を洗いました。そしてその翌日には、わたしたちを救うために命をささげる、過越しの小羊となられるのでした。

しかし、イエス様はご自分のことではなく、愛する弟子たちのことを考えておられました。彼らが祝っていた過越しの祭りが、意義あるものとしては、これが最後になることを、彼らは知りませんでした。イエス様の死後、もはや過越しの祭りは、メシヤが来て死ぬことを人々に思い起こさせる必要がなくなります。

そこでイエス様は、過越しの祭りに代わる新しい儀式を始められました。それは、イエス様がこの世に来られて命をささげ、わたしたちを天の父様の王国へつれて行くためにふたたびおいでになることを思い出させる儀式です。まず、互いに足を洗う洗足式から始めて、次に聖さ



ん式が行われます。聖さん式は、主の晩さんとも呼ばれています。イエス様は**マタイ 26:26-29**の中で、その意味を説明しておられます。

純粋なブドウジュースは、わたしたちを救うためにささげられた、イエス様の命である血を思い起こさせるものです。彼が血を流してくださったので、私たちの罪はゆるされることができるようになったのです。本当はわたしたちが受けなくてはならなかったはずの恐ろしい罰を、イエス様が代わりに受けて下さったことによって、わたしたちは救われることができます。

聖さん式のパンは、わたしたちの罪を負って十字架につけられたイエス様の体を思い起こさせるものです。イエス様はわたしたちのために打ちのめされ、十字架上で死なれました。このパンは、パン種〔イースト〕を入れずに作ります。なぜならパン種は、罪をあらわすものだからです。**第1ペテロ 2:24; 第1コリント 11:23,24。**

イエス様は命のパンであり、彼の命はみことばのうちにあります。イエス様のみことばを学ぶとき、またイエス様が送られた完全な生涯にならって生きる時、聖霊がわたしたちを変え、イエス様に似る者となるように成長させて下さるのです。**ヨハネ 6:35,63。**

**考えてみよう:** イエス様は、大人たちを愛するのと同じように、子どもたちを愛し



ておられます。そして、彼らが教会の家族の一員になることをよろこばれます。いずれ子どもたちも、イエス様が弟子たちにお示しになった新しい儀式に参加するようになるでしょう。儀式の中でなされることの一つひとつにどんな意味があるか、自分の言葉で説明してみましょ

う。

## もくようび 木曜日

イエス様は、過越しの祭りにとって代わる儀式を、弟子たちにお教えになりました。ユダも、ほかの弟子たちと同じように、ブドウジュースとパンを手にしていました。しかし、ユダは恐ろしいことを考えていました。イエス様が、すべての弟子が「清い」のではないとおっしゃったとき、ユダは、自分がこれから何をするつもりでいるのかをイエス様にご存じであることに気づきました。

イエス様はユダを愛しておられたので、彼が手遅れになる前に変わることをせつに願っておられました。ブドウジュースとパンについて説明なさった後、イエス様が悩み苦しんでおられるのが弟子たちにもわかりました。皆、静まりかえっています。するとイエス様は、彼らをひどくおどろかせることを語られました。**マタイ 26:21。**

なぜ自分たちのうちの誰かが、イエス様を裏切らなくてはならないのか、弟子た

ちにはふしぎで仕方がありません。しかし、イエス様がおっしゃることはつねに真実です。そこで彼らは、一体だれがそんなことをしようとしているのかを知りたくなりました。22節。

ペテロは、イエス様がだれのことを言っておられるのかをみんなが知るべきだと思ひ、そのことをたずねるようにと、ヨハネに合図をしました。ヨハネ 13:22-26。

ユダは、イエス様から差し出されたパンを受けとって食べましたが、イエス様がヨハネに言ったことを聞いていませんでした。弟子たちが順番に「それは私でしょうか？」とたずねている間、ユダは黙っていました。ところが、弟子たちがユダのほうを見たとき、彼は何をしましたか？またイエス様は、何とお答えになりましたか？マタイ 26:25。

ユダの質問への答えをとおして、イエス様は、ユダが裏切ろうとしている計画を見



ぬいていることをお示しになりました。そしてそれは、ユダが悔い改めて自分の過ちを告白する、最後のチャンスでした。まだ、手遅れではなかったのです。

**かんがえてみよう：**聖霊がわたしたちの犯しているまちがった行いについて知らせると、わたしたちがいつも、その声に耳を傾けるべきなのはなぜですか？ユダは急に悪い人になりましたか、それとも少しずつでしたか？

## きんようび 金曜日

イエス様は、ユダが変わることのできる機会を、できるかぎりお与えになりました。しかしそのたびに、ユダは心をかたくな〔がんこ〕にして拒みました。そしてついに、決定的な悪い選びをしたのです。一切れのパンをユダに手渡してから、イエス様は何とおっしゃいましたか？ヨハネ 13:27。

何が起きているのか、ほかの弟子たちにはまだわかりません。28-30節。

ユダが出て行ったころ、外は暗くなっていたが、彼の心はそれ以上に暗くなっていました。イエス様の光をしりぞけ、闇を選んだのでした。ユダは、自分が今、わずかに残された人生の最後の時を過ごしているなど、知るよしもありませんでした。次の日の夜が来る前には、ユダもイエス様も死んでいるのです。

ユダは大急ぎで部屋をあとにして、イエス様を裏切る準備にとりかかります。祭司たちはすでに、ユダの協力に対して銀貨

30枚を支払っていました。イエス様よりもお金を愛していたなんて、あまりにも悲しいことではありませんか!

もしかしたらユダは、自分が裏切っても裏切らなくても、イエス様の運命は変わらないし、そのついでにお金がかねがもうかればいいと思ったのかもしれませんが。

しかしユダは、これまでもそうだったように、イエス様は最終的に敵の手から逃れるだろうと固く信じていました。そしてイエス様は王となり、そうなったのは自分のおかげだと人々から称賛されるだろうと考えました。そして彼の手元には、祭司たちから受けとったお金が残っているはずでした。

**考えてみよう:** あなたはユダのことをどうおもいますか? イエス様を愛するよりも別のことをもっと大事にしている人たちがいます。彼らが愛しているものは何ですか? いくつか例をあげられますか?

## まな もっと学ぼう!

★マタイ 26:14-30

★マルコ 14:10-26

★ルカ 22:1-30

★ヨハネ 13:1-35; 14:1-31;

★各時代の希望 71, 73 章 (下巻

p. 143-159)





## うんどう いしゃ 運動はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

2匹の子犬が、じゃれ合っ**て**遊ぶ様子を見たことがありますか？  
神様は、動物と人間を第六日に創造なさったとき、すべてを活動する生き物としてお造りになりました。動物にとって、活動的であるのはごく自然なことです。神様は、動物たちが活動することによって成長し、健康になるように創造なさいました。神様は、アダムとエバをお造りになった**あ**つ**た**後、彼らが体を動かすための仕事を**お**与えになりました。彼らは自分たちの庭の手入れをするようにと、神様から命じられました。今でも庭仕事は、全身を動かすことのできるすばらしい運動です。



だるくて**つか**れていたり、**なに**も**かんが**えられないときなどに、少し運動を**すこ**う**うんどう**しましょう。気分は**きぶん**に**か**わりますよ。

ていきてき うんどう  
定期的な運動は…



からだ そな  
体に備わっている640の筋肉を鍛え、**つよ**強くします。

- 食べ物**た**をよりよく消化**しょうか**できるように助け、適正な体重**たす**を保ちます。
- 心臓**しんぞう**の筋肉**きんにく**を強く**つよ**します。心臓発作**しんぞうほっさ**が**お**起こりに**お**く**お**くなる**お**ということです。

- 気分**きぶん**を**かい**そう**かい**に**し**、より**げんき**元気に**し**させ、**きおくりよく**記憶力**たか**を**たか**めます。
- 体内**たいない**のカルシウム**たいせつ**や**たいせつ**他の**たいせつ**大切な**たいせつ**ミネラル**い**を**い**維持**い**する**い**のを**い**助け**い**、**からだ**体**そな**に**そな**備**そな**わ**そな**っている**そな**206**そな**の**そな**骨**そな**を**そな**強く**そな**します。
- 体**からだ**の**めんえきけい**免疫系**はたら**を**はたら**より**はたら**よく**はたら**働**はたら**かせ**はたら**ます。その**びょうき**こと**か**によ**か**って、**かぜ**病**かぜ**気**かぜ**、**いんぷる**イン**いんぷる**フル**いんぷる**エン**いんぷる**ザ**いんぷる**にか**いんぷる**かり**いんぷる**にく**いんぷる**く**いんぷる**します。
- 血液**けつえき**の**じゆんかん**循環**じゆんかん**を**じゆんかん**よく**じゆんかん**します。わたしたち**けんこう**の**けんこう**健康**けんこう**は、**なが**よい**なが**血液**なが**の**なが**流れ**なが**にか**なが**か**なが**つ**なが**て**なが**います。



よい うんどう ほうほう すいえい  
良い運動の方法は、水泳、ウォーキング、散歩、サイクリング、庭仕事など、数多くあります。覚えておくべき大切なことは、毎日30分は運動する必要があるということです。そのほかに、ふだんしていることの中にも、運動になっていることは多くあります。ここに、いくつかのアイデアを紹介**しょうかい**します。



- エレベーターの代わりに**かいだん**階段**つか**を使**つか**い**つか**ましょう。
- 自分**じぶん**の**くるま**車**きかい**は、**つか**機**つか**械**つか**を使**つか**わ**つか**ず**つか**に**て**手**あら**で**あら**洗**あら**い**あら**ま**あら**し**あら**ょう**あら**。
- 自分**じぶん**から**ゆか**す**ゆか**す**ゆか**す**ゆか**で、**そうじき**床**そうじき**に**そうじき**掃**そうじき**除**そうじき**機**そうじき**を**そうじき**か**そうじき**け**そうじき**ま**そうじき**し**そうじき**ょう**そうじき**。



ゆうがた かぞく ある  
 ・夕方家族で歩くことを  
 ていあん  
 提案しましょう。



ていきてき うんどう  
 定期的な運動は、あなたを  
 より\_\_\_\_\_します。

うんどう けつえき  
 運動は、血液の\_\_\_\_\_を

よくします。

うんどう  
 運動は、\_\_\_\_\_系をよく働かせるこ

とによって、からだをよい状態に保ちます。

わたしたちの健康は、よい\_\_\_\_\_に  
 かかっています。

うんどう たいない うしな  
 運動は、体内の\_\_\_\_\_を失わないよ

うに助け、骨を強くします。

循環 / カルシウム / 元気に /  
 免疫 / 流れ

けんこう たから こ  
 健康は宝です。また子どもたちに、  
 じぶん からだ だいじ おし  
 自分の体を大事にすることを教えること  
 は、えいえん じゅうよう かだい  
 は、永遠に重要な課題です。モーニング  
 タイム・ミニストリーは「8つのお医者さん」  
 という、こ けんこうかもく  
 という、子どものための健康科目をつくり  
 ました。

# だいしょう 第8章



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## ゲッセマネ

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」

マタイ 26:41

#### にちようび 日曜日

何百年もの間、過越しの祭りは、神のみ子がおいでになってわたしたちの身代わりとなり、死んで下さることを神の民に思い起こさせるものとして行われていました。

イエス様は、その過越しの祭りにとって



代わる新しい儀式を、弟子たちに教えられました。その儀式は、わた



したちにイエス様の死を思い起こさせるものです。そして、わたしたちが他の人々を愛し、ゆるすとき、イエス様もわたしたちをゆるして下さることを、足を洗い合うことによって思い出すのです。ブドウジュースとパン種〔イースト〕の入っていないパンは、イエス様がわたしたちのために命をささげて下さったことを覚えておくためのものです。

2階の部屋を出る前に、イエス様と弟子たちは賛美歌を歌いました。それからオリブ山へ向かう道の途中で、イエス様は、その夜に起ころうとしている恐ろしい出来事によって、弟子たちがおびえた羊のようにばらばらに逃げ出すことを前もって告げられました。マルコ 14:26-28。

そのように言われたことは、弟子たちに



とってあまりにもショックだったので、イエス様がよみがえられた後に彼らとガリラヤで会うと言われたことを、ほとんど聞いていませんでした。ペテロは、たとえほかの弟子たちが逃げ出しても、自分だけは絶対にイエス様を見捨てないとはっきり言いました。イエス様と共に死ぬ覚悟であるとさえ言いきました。ほかの弟子たちも、ペテロと同じ覚悟があると言いました。**29-31 節**。

彼らが本気でそう言ったのを、イエス様はご存知でした。しかし、本人たち以上に彼らのことをよく理解しておられました。

**考えてみよう:** わたしたちが自分自身のことを知る以上に、イエス様はわたしたち一人ひとりのことを知っておられますか？ 両親は、わたしたちたちのことをわたしたちよりも知っていますか？なぜ彼らは、子どもであるわたしたちにこれほど忍耐できるのでしょうか？

### げつようび 月曜日

イエス様と弟子たちは、オリブ山の西側斜面にあるゲッセマネの園に向かって歩いていました。月明かりの中で、道のすぐそばのブドウ畑が見えました。イエス様はそこを指さして、何とおっしゃいましたか？**ヨハネ 15:5**。

ブドウの枝が木につながっているように、わたしたちもイエス様につながらなくてははいけません。そうすることによってのみ、枝は成長し、おいしい実を結ぶことができるのです。イエス様につながって

いる間は、「愛による服従」という実を結ぶことができます。しかしイエス様につながっていないで、自分勝手な道を選ぶなら、わたしたちは枯れた枝のようになってしまうのです。**6 節**。

**12 節**で、イエス様が何を語られたのかを読んでみましょう。ここでイエス様がおっしゃったことは、**ヨハネ 13:34**で語られたことと同じですか？ちがいは何ですか？

**考えてみよう:** なぜイエス様は、この戒めのことを「新しい」と呼んだのでしょうか？ 今あなたが読んだふたつの聖句には、「わたしがあなたがたを愛したように」という同じ言葉がありますか？弟子たちは、イエス様が彼らを愛したのと同じように、互いに愛し合っていましたか？いいえ、そうではありませんでした。ですから、この戒めは彼らにとって「新しい」ものでした。この「新しい」戒めを守ることに、あなたはどのように思いますか？

### かようび 火曜日

イエス様と弟子たちは、ゲッセマネの園に向かって歩きながら、話しつづけていました。ここでは以前も、すぐ近くでイエス様が祈っておられたのに、弟子たちが眠ってしまったことが何度かありました。しかしその夜は、園に近づくにつれて、イエス様は口を閉ざし、悲しんでおられました。いつものイエス様とはまるでちがいました。まるで重い荷物を運んでいるかのようによろめき、やっとのことである歩いているようすです。一步一步が、とて

も辛<sup>つら</sup>そうなのです。うめき<sup>こえ</sup>声をあげ、2度<sup>ど</sup>も倒<sup>たお</sup>れかけました。弟子<sup>でし</sup>たちが支<sup>ささ</sup>えていなければ、倒<sup>たお</sup>れてしまっていたことでしょう。弟子<sup>でし</sup>たちは、なぜイエス<sup>さま</sup>様がこれほど悲<sup>かな</sup>しんでおられるのかを知<sup>し</sup>りたいと思<sup>おも</sup>いましたが、怖<sup>こわ</sup>くて聞<sup>き</sup>けませんでした。

イエス<sup>さま</sup>様は何<sup>なん</sup>人<sup>にん</sup>かの弟子<sup>でし</sup>を園<sup>その</sup>の入口<sup>いりぐち</sup>近くに<sup>か</sup>残<sup>のこ</sup>し、ペテロ<sup>ペテロ</sup>とヤコブ<sup>ヤコブ</sup>とヨハネ<sup>ヨハネ</sup>をつれて、園<sup>その</sup>の奥<sup>おく</sup>へと入<sup>はい</sup>って行<sup>い</sup>かれました。**マタイ 26:36,37。**

イエス<sup>さま</sup>様に何<sup>なに</sup>があったのかは、だれにもわ<sup>わ</sup>かりません。しかしこの時<sup>とき</sup>、そばにいて自分<sup>じぶん</sup>のために祈<sup>いの</sup>ってくれる友<sup>とも</sup>がいてくれたらと、どれほど望<sup>のぞ</sup>んでおられたことでしょう!**38節。**

それからイエス<sup>さま</sup>様は、園<sup>その</sup>の少し奥<sup>すこ</sup>のほうへ歩<sup>ある</sup>いてい<sup>い</sup>かれますが、3人<sup>にん</sup>の弟子<sup>でし</sup>たちは、イエス<sup>さま</sup>様のようすがわかる所<sup>ところ</sup>にいました。画家<sup>が</sup>たちがよく描<sup>か</sup>くのは、その夜<sup>よる</sup>、園<sup>その</sup>でイエス<sup>さま</sup>様が大きな岩<sup>いわ</sup>にひざまずいて祈<sup>いの</sup>っている様子<sup>ようす</sup>です。しかし、実際<sup>じっさい</sup>にイエス<sup>さま</sup>様がお<sup>お</sup>られたのはどこでしたか?**マルコ 14:35。**

あなたは今<sup>いま</sup>までに、がまんができなかった<sup>しつぱい</sup>ために失敗<sup>あ</sup>してしまい、後<sup>あと</sup>になって罪<sup>ざい</sup>悪<sup>あく</sup>感<sup>かん</sup>に苦<sup>くる</sup>しみめられたことがありますか?



自分<sup>じぶん</sup>のしたことをやっとの思<sup>おも</sup>いで告白<sup>こくはく</sup>したときには、どんな気<sup>き</sup>持ち<sup>もち</sup>でしたか?楽<sup>らく</sup>になりましたか?罪<sup>ざい</sup>悪<sup>あく</sup>感<sup>かん</sup>は、心<sup>こころ</sup>にかかえる大<sup>たい</sup>変<sup>へん</sup>な重<sup>おも</sup>荷<sup>に</sup>です。ただ、考<sup>かんが</sup>えてみて下<sup>くだ</sup>さい。その夜<sup>よる</sup>イエス<sup>さま</sup>様は、これまで生<sup>い</sup>きてきたすべての人<sup>じん</sup>類<sup>るい</sup>の心<sup>こころ</sup>の重<sup>おも</sup>荷<sup>に</sup>と罪<sup>つみ</sup>を、ひとりで抱<sup>かか</sup>えなくてはならなかつたのです。そして、それをあ<sup>あ</sup>けわ<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>す相<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>も、分<sup>わ</sup>か<sup>あ</sup>ち合<sup>あ</sup>う相<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>もい<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>せん<sup>せん</sup>でした。

**考<sup>かんが</sup>えてみよう:** あなたの友<sup>ゆう</sup>人<sup>じん</sup>が犯<sup>おか</sup>したま<sup>ま</sup>ちがいの<sup>に</sup>、あなたまで罪<sup>ざい</sup>悪<sup>あく</sup>感<sup>かん</sup>を背<sup>せ</sup>負<sup>お</sup>わなくてはならないと<sup>し</sup>たらどう<sup>で</sup>しょう?それがど<sup>い</sup>んなに嫌<sup>いや</sup>なこ<sup>そ</sup>と<sup>う</sup>か、想<sup>そう</sup>像<sup>ぞう</sup>でき<sup>ま</sup>すか?その夜<sup>よる</sup>、イエス<sup>さま</sup>様がど<sup>ど</sup>のよ<sup>よ</sup>うな思<sup>おも</sup>いをして<sup>し</sup>て<sup>し</sup>て<sup>し</sup>お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>れたか、わたしたちには考<sup>かんが</sup>えることすら<sup>す</sup>ら<sup>ら</sup>でき<sup>き</sup>ません。

## すいようび 水曜日

テロ<sup>テロ</sup>とヤコブ<sup>ヤコブ</sup>、ヨハネ<sup>ヨハネ</sup>は、イエス<sup>さま</sup>様といっしょにゲッセマ<sup>その</sup>ネの園<sup>その</sup>にいました。彼<sup>かれ</sup>らはイエス<sup>さま</sup>様の声<sup>こえ</sup>が聞<sup>き</sup>こえるほど近<sup>ちか</sup>くにいました。イエス<sup>さま</sup>様は彼<sup>かれ</sup>らに、目<sup>め</sup>をさ<sup>か</sup>ま<sup>か</sup>して彼<sup>かれ</sup>を見<sup>み</sup>守<sup>も</sup>り、祈<sup>いの</sup>ってくれるよ<sup>よ</sup>うにとお願<sup>ねが</sup>いして<sup>し</sup>て<sup>し</sup>いました。**マルコ 14:33,34。**

その夜<sup>よる</sup>、イエス<sup>さま</sup>様の身<sup>み</sup>に起<sup>お</sup>こ<sup>こ</sup>っていたことは、だれにも理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>でき<sup>き</sup>ません<sup>せん</sup>でした。ああ、それはど<sup>ど</sup>んなに辛<sup>つら</sup>いこと<sup>こと</sup>だ<sup>だ</sup>った<sup>た</sup>でしょう!それを乗<sup>の</sup>り越<sup>こ</sup>えるための特<sup>とく</sup>別<sup>べつ</sup>な力<sup>ちから</sup>を天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>が下<sup>くだ</sup>さらなければ、この苦<sup>くる</sup>しみによ<sup>よ</sup>って死<sup>し</sup>んで<sup>い</sup>た<sup>た</sup>でしょう。

何<sup>なん</sup>百<sup>ひゃく</sup>年<sup>ねん</sup>にもわ<sup>わ</sup>たり、罪<sup>つみ</sup>の<sup>な</sup>い小<sup>こ</sup>羊<sup>ひつじ</sup>が犠<sup>ぎ</sup>牲<sup>せい</sup>としてさ<sup>さ</sup>げ<sup>げ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>き<sup>き</sup>ま<sup>ま</sup>した。小<sup>こ</sup>羊<sup>ひつじ</sup>は

イエス様をあらわしていました。罪を告白する人は、手を小羊の頭におきました。これは、神様がその人の罪をイエス様に移して下さるのを信じることを意味していました。イザヤ 53:6。

イエス様は人間となられても、ご自分が犯した罪はひとつもありませんでした。それなのに、わたしたちの罪が彼の上におかれるために、父なる神様から完全に切り離されたという思いのまま死ななくてはならないのです。この死は、わたしたちの罪への刑罰でした。神の小羊となられたイエス様が、わたしたちの身代わりとなって、わたしたちの罪のために殺されるのです。それは、小羊の頭の上に手をおいて罪を告白した人の代わりに、小羊が殺されるのと同じでした。

イエス様は真の小羊として、世界中のすべての罪が、まるで自分が犯した罪であるかのように自分の上におかれるという、恐ろしい時を迎えていました。彼が地に伏して泣き、天のお父様に、すべての人の罪によってもたらされる罪悪感を取り除いて下さるようお願いしていたのはそのためでした。しかし同時にイエス様は、もしご自分が人間の罪を取り除くために苦しまなければ、これらの罪によってわたしたちが滅びることをご存知でした。彼が罪を負わなければ、わたしたちが永遠に失われてしまうのです。

**考えてみよう:** その



晩、サタンが全力をあげてやろうとしていたことは何だったと思いますか？

## もくようび 木曜日

ゲッセマネの園で、イエス様は苦しみながら祈っておられました。彼は、ひとりぼっちでした。同情してほしくて、特に目をかけている3人の弟子たちに、眠らずに祈っていてほしいと頼みました。けれども彼らは、何も分かっていませんでした。イエス様が父なる神様に助けを求めているのを聞いて、彼のところへ行こうとしたかもしれませんが、そこにとどまるよう命じられていました。目を覚まして祈りつづけようとしたのですが、強烈な眠気には勝てそうにありませんでした。

イエス様は、彼らからのなぐさめの言葉が欲しかったのです。やっとのことで起き上がり、よろめきながら弟子たちのところへ行くと、3人とも眠っていました。イエス様は何とおっしゃいましたか？マルコ 14:37-40。

三度イエス様は、よろよろと眠っている弟子たちのところへ行き、彼らを起こしました。起こされても、それがイエス様だ

と気がつかないほどでした。イエス様の苦しみはあまりにもひどく、皮膚からは血が汗と混ざってしたり落ちました。わたしたちのすべての罪の重荷が、彼の命を奪おうとしていた



のです。ルカ 22:44。

サタンは、どうかしてイエス様にあきらめさせ、人間一人ひとりに罪の報いを受けさせるようにと、あらゆる手をつくして誘惑していました。

イエス様は人間であり、神でもありませんでした。ですから、わたしたちのために死ぬのをやめることもできたはずですが、わたしたちを救う唯一の方法は、イエス様がわたしたちの罪を、ご自身が犯した罪であるかのように背負うしかありませんでした。私たちが救われるか滅びるかは、イエス様の選びにかかっています。わたしたちの罪の重荷によって死にかけていたイエス様は、わたしたちを救うための別の方法があればいいのにと思われました。しかし他に方法はありません。祈るたびに、わたしたちを救う計画にしたがう選びをしてもらったのです。

**考えてみよう:** あなたは、イエス様に感謝していますか? それなら今すぐ、そのことを彼に伝えましょう。

## きんようび 金曜日

わたしたちを救うためには、イエス様ご自身が殺される運命を背負わなくてはなりません。それでも彼は、救いの計画にしたがうことを選ばれたのです。イエス様と同じ試練を経験して、耐えられる人はだれもいないでしょう。神様がひとりの天使をつかわして、特別な力を与えて下さっていなければ、イエス様は園の中で死んでしまったことでしょう。

ルカ 22:43。

そのころ、全宇宙の造られた者たちは、そのようすを見守っていました。彼らは、サタンと悪天使たちが、イエス様の周りに群がっているのを見ました。また、眠っている弟子たちをイエス様がごらんになったのを見ました。さらにイエス様が、わたしたちを救うためのご計画にしたがう最後の決心をなさったのを見ました。

とつぜん、まぶしい光が輝き、力強い天使がイエス様のそばに現れました。それは、サタンがまだ天にいた頃についていた地位を、彼に代わって継いだ天使でした。この天使は、イエス様のなさねばならないことを変えることはできませんでしたが、イエス様がわたしたちの罪の重荷を背負うことができるように特別な力を与えました。

天使は、父なる神様がイエス様を愛しておられることと、何百万人もの人々が神様の王国を選んで救われるようになること、またサタンと彼の悪天使たちが滅ぼされることをイエス様に思い起こさせました。

天使のこのまぶしい光は、弟子たちの目を覚まさせました。イエス様の姿が見え、声が聞こえたので、弟子たちはイエス様が無事であると知りました。しかし、もういちど弟子たちのところへ行くと、またも彼らを起こさなくてはなりませんでした。

その時、暴徒〔乱暴を働く群衆〕たちが園に入ってくるのが聞こえました。イエス様は、彼らがなぜそこへ来たのかをご

ぞんじ  
存知でした。マタイ 26:45,46。

かんが  
**考えてみよう:** じゅうじか十字架につけられる前、  
すでにイエス様さまが死しにかかっておられたの  
はなぜですか？

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 26:31-46

★マルコ 14:27-42

★ルカ 22:31-46

★ヨハネ 15:1-18:1

★ かくじだい各時代の希望 しやう 73, 74 章  
げかん (下巻 p. 173-186) ;



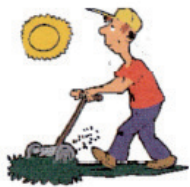
みず いしゃ  
水はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

もしも水がなかったら、お皿や服をどうやって洗いますか？水がなければ、庭の植物はどうして育つことができるでしょう？もしあなたが長いことお風呂に入らなければ、家族はあなたといっしょにいたらないかもしれませんね。

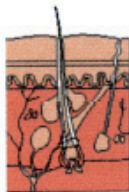
水を必要とする者として、神様はあなたをお造りになりました。水がなければ、あなたは死んでしまいます。体の実に70パーセントが、水分なのです。

体は毎日、汗をかいたり、呼吸をしたり、おしっこをしたりして、老廃物〔体内に不要となった物〕を出すために、水分を失います。これらの失われた水分をおぎなうために、毎日、少なくともコップ6-8杯分の水を飲む必要があります。暑い天候の下で仕事をしたり、遊んだりする場合には、体が1時間に8カップもの水分を失うため、さらにたくさんの水を飲む必要があります。



体の中をきれいに掃除するためには、毎日たくさんの水を飲む必要があります。あ

る人たちは、ジュースやソーダを飲むだけで充分だと思っています。しかし、ジュースやソーダのお風呂に入るのを想像できますか？それでは、体はきれいになりませんね。ジュースやソーダは、体の外側を洗うことができないように、体内をきれいにすることもできません。それどころか、砂糖のたくさん入ったソーダを消化するために、もっと水分が使われることとなります。



わたしたちが「お医者さんである水」を必要とする理由は・・・  
・体の外と中をきれいに保つためです。

- ・体温を正常に保つためです。
- ・体内の化学物質のバランスを正常に保つためです。
- ・神経が体全体に信号を送るのを助けるためです。
- ・血液の循環をよくするためです。



体は汗をかくために、最も大きな器官である皮膚を使います。汗をかくことによって、たくさんの老廃物を体外に出すことができます。ですから、老廃物にふくまれる細菌などを洗い落とすために、お風呂やシャワーを浴びる必要があるのです。



きそくただ あ ひ  
規則正しくシャワーを浴びないと、皮ふに  
ついていよるよご げんいん びようき  
汚れが原因で病気になること  
だつてあります。

けんこう たから こ  
健康は宝です。また子どもたちに、  
じぶん からだ だいじ おし  
自分の体を大事にすることを教えること  
は、えいえん じゅうよう かだい  
永遠に重要な課題です。モーニング  
タイム・ミニストリーは「8つのお医者さん」  
という、こ けんこうかもく  
子どものための健康科目をつくり  
ました。

あ ただ ぶん せん ぶんしょう かんせい  
当てはまる正しい文を線でつないで、文章を完成させましょう。

からだ  
あなたの体は

いしや みず たいない かがくぶつしつ  
お医者さんである水は、体内の化学物質を

ひ ふ からだ なか もっと おお  
皮膚は体の中で最も大きな

みず すく  
あなたは水を少なくとも

の  
ソーダを飲むと

いしや みず  
お医者さんである水は、

みず  
水は、

- きかん  
器官です
- けつえき じゆんかん よ  
血液の循環を良くします
- すいぶん  
70%が水分です
- たいがい おな たいない  
体外と同じように体内を
- きれいに掃除します
- せいじょう たも  
正常なバランスに保ちま
- す
- まいにち の ひつよう  
毎日6-8カップ飲む必要
- があります
- からだ ほじゆう すいぶん つか  
体に補充される水分を使
- いきってしまいます

# だい しょう 第9章 ひにん ペテロの否認



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

「主よ、あなたは恵み深く、寛容であって、あなたに呼ば  
わるすべての者にいつくしみを豊かに施されます。」

詩篇 86:5



### にちようび 日曜日

ゲッセマネにて、イエス様は、父なる神様といっしょに立てられた計画、つまりわたしたちの身代わりとなつて死ぬご計画を正確にやりとげようとなさいました。わたしたちに罰を受けさせないために、イエス様が罰をお受けになるのです。しかし、わたしたちの恐ろしい罪のおもに、人間の性質をおとりになったイ

エス様には耐えがたいものでした。彼の熱心な祈りはこたえられ、ひとりの天使が力づけるためにやってきました。この天使が来てくれなければ、イエス様は園の中で死んでしまっていたことでしょう。

それからイエス様は、ペテロとヤコブとヨハネが眠っている場所へ行かれました。イエス様が彼らに話しかけたちょうどそのとき、暴徒〔乱暴を働く者〕たちがやってくる音がしました。イエス様は、ご自分をさがしに彼らがやってくるのをご存知でした。マルコ 14:42,43。

暴徒たちがご自分のところにやって来ると、イエス様は弟子たちの間から、一歩前へ進み出ました。そして、暴徒たちに何とおたずねになりましたか？ヨハネ 18:4-6。

暴徒たちはなぜ、地に倒れたのでしょうか？それは、イエス様を力づけたあの強い天使が、イエス様と暴徒たちとの間を通ったからです。イエス様の周りがある輝きが、彼らをふらふらと後ずさりさせ、死人のように倒れさせました。彼らが地面に倒れている間に、簡単に逃げるのが

できたはずですが、そうはなさいませんでした。この輝きが消えると、暴徒たちはやっとの思いで立ち上がり、イエス様はもういちど、彼らに語られました。7節。



イエス様は暴徒たちに、自分を捕まえにきたのだから、弟子たちまで捕まえるべきではないと言われました。なんと愛情深く、思いやりのあるおかたでしょう!

ユダは暴徒たちと、自分が口づけをする相手をつかまえるようにと、すでに示し合わせていました。マルコ 14:44。

ユダは、あたかも暴徒の仲間ではないかのように、イエス様に近づいて来ました。イエス様の手をとって、口づけをし、目の前で起こっていることを悲しんで泣くふりまでしました。ルカ 22:47,48。

**かんが**  
**考えてみよう:**ユダがイエス様を愛しているふりをしていたことを、ほかにだれが知っていましたか?

## げつようび 月曜日

その夜、ゲッセマネにて、ユダがイエス様に口づけするのを見た暴徒たちは、大胆にもイエス様を捕らえ、まるで犯罪人を扱うかのようにその手を縛り上げました。おどろいた弟子たちは、暴徒たちに立ち向かおうとしています。ルカ 22:49。

ペテロは剣を抜きました。すると何が起きたか?ヨハネ 18:10。

聖天使と悪天使のどちらも、その夜の出来事を見守っていました。イエス様はペテロに、天のお父様がイエス様を暴徒の手から救うために、大勢の天使をつかわすことができるとおっしゃいましたが、もしイエス様が天使に助けをもらえば、わたしたちはどうやって救われることができるのでしょうか?マタイ 26:52-54。

ペテロに耳を切り落とされたしもべのマルクスは、あまりの痛さに叫び声をあげたにちがいありません。するとイエス様はただちに、兵士らに捕らえられていた手はずし、このしもべの耳をおいやしになりました。ルカ 22:51。

弟子たちは、イエス様がご自身を、まるで囚人のように捕らえるままにさせたことにおどろいていました。なぜご自分を救わないのだろうか?彼らは、怒りと同時に恐怖を感じていました。決して自分はイエス様を見捨てないと自慢げに言っていたあのペテロは、暴徒たちが弟子たちまでも捕まえようとするのを恐れ、「みんな逃げろ」と言いました。そこで弟子たちは皆逃げ出し、イエス様はただひとり、乱暴者たちの集団の中にとり残されたのでした。マルコ 14:50。

**かんが**  
**考えてみよう:**だれかがひどいことをした



ときに「自分は絶対にそんなことをしない」と言うのは簡単ですか？しかし、わたしたちの行動や言葉でさえも、イエス様やほかの人たちを傷つけることがあるのです。

## かようび 火曜日

怖こわくなった弟子たちが皆、イエス様をおいて逃げ出したので、イエス様はゲッセマネの園にいる暴徒〔乱暴を働く者〕たちの中にただひとり、とり残されてしまいました。

イエス様は手を縛られた状態で、元大祭司アンナスのところへつれて行かれました。今は、アンナスの甥であるカヤパが大祭司でした。イエス様が、自分は神の子だと言うのを、アンナスは願っていました。そうすればユダヤの議会は、彼を死刑にすることができます。あるいは、イエス様がひそかに新しい国をおこそうと企てていたことを証明できれば、ローマ政府も彼を死刑に定めるでしょう。ヨハネ 18:12,13。

イエス様はアンナスに、これまで密かにこそこそとやったことは何もない、と言われました。ではイエス様は、どんなことを言って役人からたたかれましたか？ 19-24 節。

アンナスは、イエス様の言葉が真実であることを知っていました。また、夜に



裁判をすることで、自分とほかの祭司や民の指導者たちが法律に違反していることにも気づいていました。

イエス様がカヤパのところへつれて行かれるときには、アンナスもついて行きました。まもなく議会の議員たちが到着し、裁判が始まります。祭司たちは、イエス様をおとしいれる嘘の証言をさせるために、ある連中にお金を払っていましたが、彼らの証言はまるでちんぷんかんぷんでした。ある者がこうだと言うと、別の者は正反対のことを言います。祭司たちは、イライラしてきました。けれどもイエス様は、しずかに辛抱強く立っておられました。

どうとうカヤパが、イエス様が答えずにはいられないような質問をしました。そしてその答えを、彼らがご自分を死刑にする口実にしようとしていることも、イエス様はご存知でした。それでも、あえて本当のことを語られるでしょうか？

**かんが** **考**えて**みよう**：**しんじつ** **真**実を**はな**したら**きゆうち** **窮**地〔逃げ場の**ない** **くる** **じょうたい** **お** **苦**しい**状態**〕に**お** **追**い**こ**まれる**こ** **わ** **と**が**わ** **か**つ**て**い**て**も、**あ** **な** **た** **な** **ら**、**あ** **え** **て** **ほんとう** **本** **当** **の** **こ** **と** **を** **い** **い** **ま** **す** **か**？

## すいようび 水曜日

イエス様はユダヤの議会であるサンヒドリンの法廷に立たれました。

カヤパは、イエス様が答えずにはいられないある質問をしました。その質問は何でしたか？またイエス様は、何とお答えになりましたか？**マタイ 26:63,64**。

語られるときのイエス様は、カヤパをまっすぐ見つめておられました。一瞬、カヤパは恐怖におそわれました。とつぜん、自分の邪悪な心を見すかされていることに気づいたのです。彼はいつの日か、恐ろしい裁きの場で、自分がひとりの裁判官の前に立つことを知っていました。その裁判官が、実はイエス様なのです。カヤパは、裁判官としてイエス様を裁きながら、逆に自分が裁かれているような気がしていたのです。

カヤパはすぐに、この恐ろしい考えを打ち消そうとしましたが、この時の記憶は、死ぬまで頭から離れませんでした。イエス様がご自分のことを神の子であると宣言なさったことに対して、おどろいたふりをするために、カヤパは大祭司として絶対にはならないことをしました。身につけていた美しい大祭司の衣を引き裂いたので、これらの高慢〔思いあがって人を見下すこと〕な祭司や民の指導者たちは、服ではなく自分たちの心を裂くべきでした。そのためには、頑固な心をイエス様に差し出すだけでよかったです。**65,66**  
**せつ節**。

サンヒドリンは、夜、判決を下すことを禁じて



いたため、彼らは昼間にもういちど集まらなくてはなりません。その間にイエス様は、留置場へつれて行かれました。そこでは、乱暴で残酷な男たちがイエス様をなぐり、あざけり、ばかにしました。**67,68** 節。

**かんが** **考えてみよう**：自分が罰を受けるのは当然だとわかっていて罰を受けるのと、自分が悪くないのに罰を受けるのとでは、どちらが大変ですか？イエス様は、どちらの刑罰を経験なさいましたか？

## もくようび 木曜日

**ふ** たたびサンヒドリンに引き出されるのを待つ間、イエス様はいじわる おとこ 意地悪な男たちにあざけられ、傷つけられていました。しかもそれ以上に、彼を傷つけることができました。

弟子たちがイエス様をおいて逃げ出した後、ペテロとヨハネは暴徒たちの後について議会の会堂へ来ていました。**ヨハネ 18:15,16**。

ヨハネがイエス様の弟子であることを知っていた祭司たちは、ここでの様子を見聞きする間に、イエス様にたいする考えを変えることを期待していました。ヨハネは、イエス様にできるだけ近くいられるところにすわりました。

ペテロは外庭の火のそ



ばに立ち、暖をとっていました。彼は、自分も乱暴な群衆のひとりであるかのように振る舞っていました。ところが、ひとりの召使いの少女は、ペテロがヨハネといっしょに入って来るのを見ていました。彼女はペテロに何と言いましたか？またペテロは何と答えましたか？マルコ 14:66-68。

するとこんどは、別の少女がペテロを見て、彼の周りにいた人たちに言いました。この時ペテロは、イエス様を知らないと言いました。彼は、すっかりおじけづいていました。マタイ

26:71,72。

3人目は、園でペテロに耳を切られた男の親戚でした。その人は、園でペテロを見ていました。汚い言葉で誓った後に、何が聞こえてきましたか？

ヨハネ 18:26,27。

**考えてみよう：**ペテロは、イエス様のためなら命も惜しくはないと、誇らしげに言っていました。しかしその夜、イエス様のことは知りもしないと、3度も言い張ったのでした。わたしたちは、どのような言葉や行動によって、イエス様を否定する〔そうではないと打ち消す〕ことがあると思いますか？



## きんようび 金曜日

ペテロはまるで、イエス様がだれであるかも知らない、というふりをしていました。しかし、ニワトリの鳴き声

を聞いて、とても情けなくなりました。おんどりが2度目に鳴いたとき、ペテロはイエス様の言葉を思い出したのです。マルコ 14:30。

おんどりの鳴き声は、イエス様にも聞こえました。怒りにみちた裁判員たちに顔を向けていたイエス様は振り返り、ペテロを見つめました。ちょうどその時、ペテロもイエス様に目を向けました。

イエス様のまなざしは、「ほら、言ったとおりだろう」と語ってはいませんでした。

本当は、そのように言われて当然だったはずですが、しかしイエス様のお顔は、悲しみと憐れみ、同情、そしてゆるしにみちていました。「ペテロ、わたしはあなたを愛しているし、またかわいそうに思っている。あなたはわたしを傷つけたけれども、わたしはそのことをゆるしている。怒ってはいない。ただ悲しいのだ。」そう語りかけているかのようなまなざしが、ペテロの心をくぐりました。

いろいろな記憶がよみがえってきて、おそらくペテロは顔をおおったことでしょう。ふたたびイエス様に目を向けると、乱暴な手が、彼を打とうとしていました。しかしペテロは、自分のしたことが、手で打つこと以上にイエス様を傷つけたことを知りました。彼はすすり泣きながら向きを変え、ひとりで夜の暗闇へとかけだしました。



## マタイ 26:75。

どこへ向かって走っているのかが自分でもわかりません。また、そんなことは気にもとめませんでした。気がついたら、ゲッセマネの園にいました。そこは、少し前にイエス様が苦しんでおられた場所でした。さらに多くの記憶がよみがえってきます。あの時ペテロは、目を覚まして祈っているべきだったのです。自信満々にならなければ、こうはならなかったはずです。

イエス様が死ぬほど苦しんでおられたちょうどその場所で、ペテロは涙を流し、自分自身がいやになり、できることなら死んでしまいたいと、地面に倒れ伏しました。彼は確かに臆病者でしたが、イエス様を心から愛していました。イエス様は、こんなペテロをゆるして下さるでしょうか？彼をもういちど、信頼して下さるでしょうか？今やペテロは、自分が弟子にふさわしくない人間であることをよく分かっています。

**考えてみよう：**ペテロが自分のことを知る以上に、イエス様が彼をよく知っておられたことを、イエス様はどのように示されましたか？イエス様はわたしたちのこと、わたしたち以上にご存知ですか？悪い習慣をなおすように両親から注意されると、あなたはどんな気持ちになりますか？両親に反抗して、けんかになったりしませんか？

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 26:47-75

★マルコ 14:43-72

★ルカ 22:47-71

★ヨハネ 18:1-27

★各時代の希望 74, 75 章  
(下巻 p. 191-208)



## にっこう いしゃ 日光はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

てん ちそうぞう だいよつか かみさま たいよう  
天 地創造の第四日に、神様は太陽  
にっこう につく  
〔日光〕をお造りになりました。  
にっこう ねつ ひかり あた しよくぶつ  
日光はわたしたちに熱と光を与え、植物  
せいちよう にっこう あか  
を成長させてくれます。日光がトマトを赤  
くさせたり、こがねいろ かがや  
黄金色に輝くトウモロコシを  
あま  
甘くてみずみずしくさせたりするのを、わ  
たしたちは知っています。しかし  
かみさま からだ  
神様は、わたしたちの体にもいく  
つものすばらしい働きをさせるた  
めに、にっこう いしゃ あた  
日光というお医者さんを与  
えてくださったのです。



いしゃ にっこう からだ  
お医者さんである日光は、体がビタミン  
つく はたら たす ひと  
Dを作る働きを助けます。ある人たちは、  
ビタミンDのことを「日光ビタミン」と呼  
ぶほどです。ビタミンDは、わたしたちの  
からだ た もの つか  
体が、食べた物からカルシウムを使うお  
てつだ  
手伝いをします。カルシウムは、体が、強

けんこうてき ほね つく つか  
くて健康的な骨を作るために使われます。

いしゃ にっこう ちい き きず  
お医者さんである日光は、小さな切り傷  
た ひ ふ きず なお てつだ  
やその他の皮膚の傷を治すお手伝いもし  
ます。もし切り傷や引っかき傷を  
はや なお おも にっこう  
早く治したいと思ったら、日光とい  
いしゃ まいにちみ  
うお医者さんに毎日見てもらって  
ください。



いしゃ にっこう きん ころ  
お医者さんである日光は、バイ菌を殺  
します。これはとても大切なことです。と  
いうのは、目には見えないバイ菌が、あ  
ちらこちらにいるからです!毎日、かなら  
そと で にっこう あ しんせん くうき す  
ず外へ出て日光を浴び、新鮮な空気を吸  
う時間をもちましょう。自然  
なか じかん す  
の中でたくさんの時間を過  
ごす人は、いえ と  
家に閉じこもっ  
ていてる人よりも、風邪をひ  
きにくいのです。



あ ただ ぶん せん ぶんしょう かんせい  
当てはまる正しい文を線でつないで、文章を完成させましょう。

にっこう からだ はたら つく  
日光が体に働きかけて作られるのは  
かみさま にっこう そうぞう  
神様が日光を創造なさったのは  
いしゃ にっこう ころ  
お医者さんである日光が殺すのは  
べつめい  
ビタミンDの別名は  
いしゃ にっこう なお  
お医者さんである日光が治すのは  
ちよう はたら てつだ  
ビタミンDは腸の働きを手伝って  
からだ はたら  
カルシウムは体に働きかけて

- バイ菌です
- 強く健康的な骨をつくり  
ます
- ビタミンDです
- 体にカルシウムを吸収さ  
せます
- だいよつか  
第四日です
- にっこう  
日光ビタミンです
- ちい き きず ひ  
小さな切り傷や引っかき  
きず  
傷です

# だい しょう 第 10 章

## うらぎ りと有罪判決 ゆうざいはんけつ



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」

マタイ 6:33

#### にちようび 日曜日

それは金曜日のことでした。安息日  
そ がかかる前に、イエス様が、私  
ちの代わりに死なれることになっていま  
した。全宇宙が、わたしたちの小さな世界  
を見守っていました。わたしたちを救うす  
ばらしい計画が、やりとげられようとして



いました。

イエス様と弟子たちが2階の部屋に  
いたのは木曜日の夕暮れ時でしたが、す  
でに金曜日になっていました。イエス様は、  
安息日が始まるまでの24時間で、いろ  
いろなことが起こるのをご存知でした。  
意地悪で残酷な男たちがイエス様を傷つ  
け、十字架に釘で打ちつけるのです。し  
かし体の苦痛よりも、もっと彼を苦しめて  
いることがありました。それは、世界中の  
罪を、あたかもイエス様ひとりが犯した罪  
であるかのように背負う、心の痛みです。  
そして、この罪の重荷が彼を死に至らせ  
るのでした。

ゲッセマネの園で、天使がイエス様に  
特別な力を与えていなければ、この罪の  
重荷は彼をその場で死なせていたこと  
でしょう。罪がもたらした恐ろしい死が、刻々  
と近づいていました。もしもイエス様がわ  
たしたちの罪を負って死ななければ、わ  
たしたちがその死を味わわなくてははいけま  
せん。

世界中のだれも、このことを理解して



いませんでした。イエス様は本当にひとりぼっちでした。父なる神様でさえも、み子の苦しみを和らげてあげることはできません。いったいなぜ、このような苦しみをすすんでお受けになるほど、わたしたちを愛することができるのでしょうか？このような愛を理解できるのは、神様おひとりだけでした。ほかに、わたしたちを救う方法はありませんでした。きっとわたしたちは天国で、永遠にわたり、イエス様の愛に感謝しつづけることでしょう。

**考えてみよう：**イエス様がひとりぼっちだったのはなぜですか？もしも彼が決心を変えられたとしたら、わたしたちはどうなっていたと思いますか？

## げつようび 月曜日

**金**曜日の朝早くのことでした。イエス様は犯罪人のように縛られ、ユダヤの議会であるサンヒドリンの前に立たされていました。彼がひどい仕打ちを受けるのを、ヨハネも見っていました。

臆病風に吹かれてイエス様を知らないと言い、失意のどん底にあったペテロは、裁判の行われている会堂を飛び出し、ゲッセマネの園で泣きつづけていました。その経験は彼にとって、決して忘れられない教訓となりました。

ところがその日、法廷にはもうひとり、どうなるのかを不安そうに見守っていた弟子がいました。ユダです。彼のふところ〔ポケット〕には、祭司たちから支払われた銀貨 30 枚が入っています。イエス

様はかならずここから逃げ出すことができるはずだと、彼は信じていました。イエス様を捕らえたときは、彼をきつく縛るようと注意していたくらいです。それなのに、ゲッセマネの園で、イエス様が縛られたままおとなしくカヤパのところへつれて行かれるのを見て、ユダはおどろきました。すぐにでも、イエス様は縄をほどいて逃げるはずだと思っていたからです。時間は刻々と過ぎていきます。ユダは、ますます不安になっていきました。

ついに、イエス様には逃げる意志がないことを知りました。そして、自分がイエス様を奴隷ひとりの値段で売りわたしてしまったことを悟ったのでした。もう手遅れでした。罪悪感が大きな波のように、ユダを飲みこんでいました。

**考えてみよう：**サタンは、ユダを罠にかけました。ペテロは心から悪かったと思っただけでしたが、ユダは、ただただ恐ろしかっただけでした。自分で悪いとわかっていることをしてしまったときは、心から反省することよりも、こわがることのほうが簡単ですか？

## かようび 火曜日

**と**うとうユダは、自分の計画がうまくいっていないことを、はっきりと理解しました。それどころか、今まさに死刑の判決が下されようとしています。

裁判がいよいよ終わろうとしたそのとき、とつぜん、大きな音と狂ったような声が聞こえてきました。それから、背の高

いひとりの男が、群衆をかき分けて進んでくるのが見えました。彼が叫ぶと、その顔には汗が流れ落ちました。「カヤパ様!どうか、どうかその人を、殺さないで下さい!このお方は、無罪です!わたしは、罪のない人を、売りわたしてしまいました!」



その男はユダでした。彼はカヤパのところへ走っていき、30枚の銀貨を床に投げつけました。それからカヤパの衣をつかみ、イエス様を解放してくれるようにと嘆願しました。

高慢〔思いがって人を見下すこと〕で意地悪な大祭司は、おどろき、また怒りました。彼らがどのようにしてイエス様を捕らえたのかが、今、すべての人の目の前で明らかになったのです。カヤパは、ただちにユダを突き放して、何と言いましたか? **マタイ 27:3,4**。

議会の議員たちが心変わりしないのを見て、ユダはイエス様の足元にひれ伏し、自分を救って下さるようにと必死にお願いしました。イエス様は、悲しそうな目でユダを見下ろしました。すでに、ユダがまちがった選びをやめるように、できるかぎりのことがなされていました。ひどく恐れているものの、ユダが心から悪かったとは思っていないのを、イエス様はご存知でした。

今となってはもうどうすることもできず、自分のしてしまったことも変えられないと

知ったユダは、向きを変えて部屋を飛び出し、泣きつづけました。「もうだめだ!もうとり返しがつかない!」自分のしてしまったことを、思い出だけでも耐えられませんでした。ユダは何をしましたか? **5節**。

結局、議会はこれら30枚の銀貨をどうしましたか? **6-10節**。

**かんがえてみよう:** その朝、ペテロもユダも同じ場所から走って出て行きました。彼らのちがいは何でしたか?

## 水曜日

**ユ**ダの心はどのようにして、神のみ子を奴隷ひとり分の値段で売りわたすほどに、かたくな〔がんこ〕になってしまったのでしょうか?

ユダには、たくさんのタラント〔才能〕がありました。背が高く、美しい顔立ちで、知性もすぐれていました。しかしひとつだけ際立った欠点があり、ユダはそれを改めようとはしませんでした。彼は何よりも、お金を愛していたのです。

ユダはイエス様を一目見て、これまでで最高の教師だとわかりました。しかし、イエス様がメシヤだとは、完全に信じることができませんでした。また、イエス様が語っておられる理想の王国も、あまり好きではありませんでした。ただ、イエス様の特別な弟子になりたいという思いはありま

した。イエス様が王国をうちたてられたら、  
高い地位につきたかったからです。

自分の考えが、イエス様やほかの弟子  
たちの考えよりもすぐれていると、ユダは  
感じていました。みんなが自分の考えにし  
たがってくれたら、すべてがもっとうまくい  
くはずなのに、とっていました。

イエス様は、食べ物を買ったり、貧し  
い人たちを助けたりするためのお金を、  
ユダに管理させました。できるかぎりのこ  
とをして、ユダに、まちがった考えを改め  
る機会をお与えになりました。ところがユ  
ダは、時々、任されていたお金をこっそり  
自分のふところに入れていました。

ユダが、イエス様に対して疑いをいだ  
かせるようなことを弟子たちに話したの  
で、彼らは時々、イエス様が最善だとわ  
かっておられる方法とは、ちがうやりかた  
でいきたいと思うことがありました。ほか  
の弟子たちはだれも、ユダが裏でしてい  
ることを知りませんでした。たとえそのこ  
とを弟子たちに話したとしても、彼らが信  
じないのをイエス様はご存じでした。

**考えてみよう:** サタンは天で、ほかの  
天使たちに、自分は神様に  
とても忠実で、天国をもっと  
良くするために働いているの  
だと思わせようとしてました。  
ユダも、それとまったく同じ  
ことをしていました。今でも、  
そのような人はいますか？

もくようび  
木曜日



議 会がイエス様を有罪と決定した  
とき、その場にいた人々は大声  
で叫び、怒鳴り、獣のようにふるまいまし  
た。祭司や民の指導者たちでさえ、まっ  
たくちがいはありませんでした。人々はイ  
エス様のところに押しよせました。兵士た  
ちが止めなければ、その場でイエス様は  
殺されていたでしょう。

議会の議員たちはイエス様を死刑に定  
めましたが、ローマ人は、ユダヤ人がだ  
れかを死刑にすることを許可していません  
でした。次にイエス様は、ローマの総督  
であるピラトの前で裁かれることになりま  
した。

祭司たちはなぜ、あんなに急いでいた  
のでしょうか？イエス様には多くの友人がい  
ることを、彼らは知っていました。ですか  
ら、多くの人たちがこのことを知る前に、  
ローマ政府に判決を下してほしかったの  
です。

金曜日の朝早く起こされたピラトは、と  
ても不機嫌でした。法廷に入ってきた彼  
はイライラしていて、とにかく裁判を早く  
終わらせようと思っていました。

ピラトは、よい総督では  
ありませんでした。彼はこ  
れまでに、本当の犯罪人  
だけでなく、多くの無実  
の人たちにも死刑判決  
を下していました。しか  
し、イエス様を一目見て、  
犯罪人ではないことがわ  
かりました。その時、彼  
の妻がイエス様について



忠告していたことを思い出したのです。イエスが、死んで4日もたっていた人を生き返らせたことを、ピラトは聞いていました。祭司たちは、イエスの死を望んでいます。どうしてなのか、ピラトは知りたかったです。ヨハネ 18:28,29。

想像してみてください!祭司たちは「汚れる」ことを恐れているのに、イエスを殺すことは全くためらっていませんでした。彼らの心の目は、完全に見えなくなっていたのです!

**考えてみよう:**祭司たちはなぜ、イエスを殺したかったのですか?

## きんようび 金曜日

ピラトの法廷にてイエスは、ピラトが祭司たちに、なぜ彼を殺したいのかとたずねるのを聞いておられました。

祭司たちは、まさかピラトにそのようなことを聞かれるとは、思ってもみませんでした。何が正しくて何がまちがっているかなどは、ピラトがまるで気にかけないことを知っていたからです。彼はこれまで、祭司たちが願うことは、何でも聞き入れてきました。祭司たちは、イエスを死刑にする正当な理由が何もないことを知っていました。彼らは何と言いましたか?彼らがイエス様について言った3つの嘘は何でしたか?ヨハネ 18:30,31; ルカ 23:2。

ピラトは納得しませんでした。彼は、群衆や祭司たちが叫ぶひどい言葉を、まるで聞いていないかのように静かに立っ

ておられるイエス様を見つめました。彼は、イエス様のことをもっと知りたいと思いい、そばに呼び寄せて話しました。

その時、聖霊がピラトに語りかけておられることに、彼は気づきませんでした。ピラトはイエス様に、何とたずねましたか?また、イエス様は何とお答えになりましたか?ヨハネ 18:33-36。

イエス様は、ピラトが今、重大なことを真剣に考えているのをご存知でした。ピラトがイエス様に王なのかどうかをたずねると、イエス様は、そうだ、とお答えになりました。それからイエス様が「真理」という言葉を口にすると、ピラトは「真理とは何か?」とたずねました。37,38節。

ピラトは、真理が何なのかを知りたいと思いましたが、イエス様がお話しなさるまで待ちませんでした。外の群衆がピラトをせかして騒ぎ立てたので、彼は外にもどって、イエス様について自分が思っていることを話しました。ルカ 23:4。

祭司と民の指導者たちは、それでもあきらめようとしません。ところが、彼らが「ガリラヤ」という言葉を口にしたときに、ピラトは、ローマ政府がガリラヤの支配者として任命したヘロデ王のことを考えました。ピラトはヘロデと口げんかをして仲が悪くなっていたましたが、もしヘロデにイエス様の裁判を任せれば、ヘロデがよこぶだろうと思いました。そうすれば、彼らは仲直りできるだけでなく、自分が判決を下さなくてすむでしょう。5-7節。

**考えてみよう:**ピラトは勇敢でしたか、それとも臆病でしたか?彼が群衆のところへ

もどる<sup>まえ</sup>前に、イエス<sup>さま</sup>様に<sup>しつもん</sup>した<sup>なん</sup>質問は何で  
たか？それは、大切<sup>たいせつ</sup>な<sup>しつもん</sup>質問でしたか？ピラ  
トはその<sup>こた</sup>答えを知る<sup>し</sup>必要<sup>ひつよう</sup>がありましたか？  
わたしたちも、その<sup>こた</sup>答えをはっきりと知っ  
ておく<sup>ひつよう</sup>必要<sup>せいしょ</sup>がありますか？聖書<sup>べんきよう</sup>を勉強<sup>し</sup>して  
イエス<sup>さま</sup>様の<sup>まな</sup>ことを学<sup>まな</sup>ぶときに、あなたは  
真理<sup>しんり</sup>を<sup>まな</sup>学んで<sup>まな</sup>いますか？

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 27:1-14

★マルコ 15:1-5

★ルカ 23:1-7

★ヨハネ 18:28-38

★各<sup>かく</sup>時代<sup>じだい</sup>の<sup>まな</sup>希望<sup>きぼう</sup> 76-77 章<sup>しょう</sup>  
(下<sup>げ</sup>巻<sup>かん</sup> p. 227-p. 237)



## せつせい いしゃ 節制はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

「**節制**」という言葉はむずかしくても、今までに聞いたことがないかもしれませんね。節制とは、よいものを注意深く、適度〔ほどほど〕に使うという意味です。節制は、悪いものを一切使わないことでもあります。

### 酒、薬物、タバコはすべて、あなたの体に害を与えます。

薬物は脳細胞を殺して、ふだんなら絶対にしないようなことをさせる原因となります。タバコは、肺や口のがん、また心臓病の原因となります。指や歯は黄色くなり、皮膚は早くからしわができます。酒は肝臓に害を与え、脳からは混乱した信号が体中に送られます。酒のせいで、毎年、多くの家庭がこわれ、何千何万という人が飲酒運転による事故で亡くなっています。酒、薬物、タバコの最も悪いのは、習慣になってやめられなくなるということです。これらを口にする、やめることがとてもむずかしくなります。ですから、もしだれかに「試してごらん」と言われても、絶対にやっ



### カフェイン入りの飲み物も、あなたの体に害を与えます。

カフェインをふくむ飲み物は、コーヒーだけではありません。多くの炭酸飲料、例えばコカ・コーラやペプシ・コーラ、マウンテン・デューなどにもカフェインが入っています。カフェインも、いちど習慣になると、なかなかやめられなくなります。カフェインは神経を過敏〔刺激に対して敏感〕にし、頭痛や疲れ、記憶力の低下、イライラを引き起こします。コーヒーを飲む人は太りやすく、薬物や酒やタバコに手を出しやすくなります。



### すべてのことにおいて、自制心が必要

体にいいものは、いくらでもあります。しかし、たとえよいものであっても使いすぎると、体にとって害になってしまいます。日光はとても大切ですが、日光を浴びすぎると、目を痛めたり、皮膚がんの原因になったりします。食べ過ぎは、寿命を縮めます。たとえリンゴが大好きでも、リンゴばかり食べていたら、ほかのものにふくまれている体に必要な栄養素をとるこ



とができません。最も重要なもっと じゅうようのは、あなたあなたがするすべてのことにおいて、自制心じせいしんを働かせることです。聖書せいしょには、こう書かれています。「自分の心じぶん こころを制せいしない人は、城壁じょうへきのない破れた城やぶ しろのようだ」箴言しんげん 25:28。

健康けんこうは宝たからです。また子どもたちこに、自分の体じぶん からだを大事だいじにすることを教えるおしことは、永遠えいえんに重要な課題じゅうよう かだいです。モーニングタイム・ミニストリーは「8つのお医者さんいしや」という、子どもこのための健康科目けんこうかもくをつくりました。

**しかく なか ことば えら  
四角の中から言葉を選んで、  
くうらん う  
空欄を埋めましょう。**

・ \_\_\_\_\_ とは、 \_\_\_\_\_  
深く \_\_\_\_\_ を使い、 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ を一切使わないことです。

・ 毎年、多くの \_\_\_\_\_ は、酒  
が原因でこわれています。

・ たとえ \_\_\_\_\_ であっても、使  
いすぎるとあなたの体からだに \_\_\_\_\_  
を与えます。

・ 毎年、 \_\_\_\_\_ が原因で、  
何千件もの交通事故なんぜんけん こうつうじこが起きています。

・ 酒、薬物、タバコの最も悪い点もっと わる てんは、  
その \_\_\_\_\_ です。

・ \_\_\_\_\_ の ひとを飲む人は、薬物や  
酒、タバコを使用しょうしがちになります。

コーヒー、家庭、注意、良いもの、  
節制、悪いもの、害、中毒〔習慣〕性、  
酒、良いもの

# だいしょう 第11章

## さいこう おくもの 最高の贈り物



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

### あんしょうせいく 暗唱聖句

ひと とも じぶん いのち す  
「人がその友のために自分の命を捨てること、  
これよりも大きな愛はない。」

ヨハネ 15:13

#### にちようび 日曜日

ピラトを説得して、イエス様を死刑にしようとしていたユダヤ人たちは、彼がガリラヤの出身であることにふれました。それを聞いたピラトに、ある考えがうかびました。ピラトとガリラヤの王ヘロデは、口げんかをしたことがありました。以来ふたりは仲が悪かったのですが、ちょうどヘロデがエルサレムを訪問していたので、彼にイエス様の裁判をまかせればきっと喜ぶだろうとピラトは考えました。そうすれば、ふたりは仲直りできて、イエス様をどうするかはヘロデに決めてもらうことができます。そこでピラトは、イエス様をヘロデのところへ送りました。

バプテスマのヨハネを殺したあのヘロデです。ヘロデは、イエス様とすばらしい奇跡のことを聞いたとき、



ふるえるほど恐ろしくなりました。それはなぜですか？マルコ 6:14-16。

ヘロデは、自分がバプテスマのヨハネにした恐ろしいことを忘れていませんでした。それで、自分がイエス様を救ったら、ヨハネにしたことを忘れられるのではないかと考えたのでした。また、イエス様が行ういくつかの奇跡も見たくてたまりませんでした。ルカ 23:8。

イエス様を死刑にするべきだと叫んでいた祭司たちを、ヘロデは黙らせました。彼は護衛の兵士に命じて、イエス様をしばっている縄をとかせました。イエス様をひとめ見て、ヘロデもピラトと同じように、イエス様が無実であることがわかりました。

ヘロデは、病人を何人かつれて来させて、彼らの病気をなおしたら自由にしてやると、イエス様に約束しました。しかしイエス様は、ご自身のため

に奇跡を行うことは決してありませんでした。ご自分の命を救うために、イエス様が病人をいやしたことがありましたか？ **9 節**。

**考えてみよう:** アベルがカインによって殺されて以来、神の民のある人たちは、奇跡によって救われることなく信仰のために苦しみを受けて、時には殺されることさえありました。イエス様はどうでしたか？

## げつようび 月曜日

イエス様が奇跡を行えば自由にしてやるとヘロデが言ったのを聞いて、祭司たちは怖くなりました。なぜでしょう？ 彼らは、イエス様の奇跡を見たことがありました。もしイエス様が奇跡をおこなわれたら、ヘロデは彼を自由にし、民衆も心変わりすることでしょう。しかしこれまでに、イエス様が、ご自分を救うために奇跡を行ったことがあったでしょうか？ いいえ、いちどもありません。イエス様の奇跡は、いつも、ほかの人たちを助けるために行われました。

イエス様が奇跡を行うつもりがないのをヘロデが知ったとき、どうになりましたか？ **ルカ 23:9-11**。

結局、ピラトがイエス様の判決を下さなければいけなくなりました。するとつぜん、ピラトのもとへ、彼の妻から手紙をあずかった人が駆けこんできました。



**マタイ 27:19**。

ピラトはすっかり混乱しています。この手紙を読んで、彼は恐れおののきました。祭司たちや民の指導者たち、そして民衆はどなりつづけています。その時ピラトの頭に、ある考えが浮かびました。過越しの祭のときには、ユダヤ人たちが選ぶひとりの囚人を自由にするのが許されてきました。そこでピラトは、バラバをつれてこさせました。バラバは、見た目もふくめ本物の悪人でした。彼は、十字架にかけられることになっていました。ピラトは、バラバをイエス様の横に立たせました。ピラトはイエス様を助けて、人々も満足させようと考えていたのです。ところが人々は、どの囚人が解放されることを望みましたか？ **ルカ 23:18-22**。

祭司たちから、イエスは自分のことを神の子と言ったと聞いたピラトは、イエス様を十字架につけるのが恐ろしくなりました。そこでピラトは、もういちど、イエス様と話をすることにしました。 **ヨハネ 19:7-11**。

次に祭司たちは、もしもピラトがイエス様を自由にしたら、ローマの皇帝から忠誠をうたがわれるだろうと言いました。それを聞いて、ピラトはもっと恐ろしくなりました。皇帝のカエサルからうたがわれてしまったら、今の地位も危うくなってしまう。 **12 節**。

イエス様をふたたび外





ていたことは、だれも知り  
ませんでした。十字架を  
背負われたイエス様は、こ  
れ以上進むことができま  
せんでした。ほかにだれ  
か、十字架を運んでくれる  
でしょうか？ローマの兵士



たちも、そこに群がっている人たちも、  
手伝うわけがありません。結局、だれが  
十字架を運びましたか？マルコ 15:21。

シモンはイエス様のことをよく知りませ  
んでしたが、彼の息子たちはイエス様の  
弟子になっていました。十字架を運んだ  
あと、シモン自身も弟子になりました。

ところで、イエス様といつもいっしょに  
いた、あの弟子たちはどこにいたのでしょ  
う？祭司と民の指導者たちは、イエス様  
が自分たちの手にわたされれば、弟子た  
ちには手を出さないと約束していました。  
弟子たちは祭司たちに捕まえられる心配  
がなかったのに、悲しみながら群衆の後  
をついてきていました。ヨハネは、イエ  
ス様の母マリヤといっしょにいました。マ  
リヤは、かわいい息子を助け、なぐさめ  
たいとどれほど願ったことで  
しょう！息子がひどい仕打ち  
をうけるのを見たマリヤは、  
胸がはりさけそうでした。こ  
の時だけは、イエス様が  
本当にメシヤなのかをうた  
がったほどでした。

弟子たちは、イエス様が  
これからものすごい力をあ  
らわされることを願ってい



ました。イエス様なら、敵  
のこのひどい仕打ちから逃  
れることがおできになるの  
を、彼らは知っていたか  
らです。情け容赦のない  
兵士たちが、イエス様を  
十字架に釘で打ちつけるの  
を見たマリヤは、気を失ってしまいました。

そのころピラトは、自分自身に対して  
怒っていました。彼は、自分が臆病者で  
あったことと、イエス様が無実であったこ  
とをわかっていました。十字架の一番上  
に釘で打ちつけられた言葉には、彼自身  
が書いた言葉がかけられていました。そ  
こには、何と書かれていましたか？祭司長  
たちは、それをどう思っていましたか？ヨ  
ハネ 19:19-22。

**かんがえてみよう：**正しいとわかっていなが  
ら、行動するのを恐れて、つい臆病者にな  
ってしまうことがありますか？

## もくようび 木曜日

イエス様がかけられ  
た十字架は、ふ  
たりの強盗の十字架の間  
に立っていました。強盗  
のひとりにはイエス様を呪い  
ましたが、もうひとりにはイ  
エス様がなされた数々のす  
ばらしいことについて、こ  
れまでに聞いたことを思  
い出していました。彼は、  
イエス様が神様の小羊で



あり、わたしたちをゆるし、  
救うことのできるお方であ  
ると確信していました。ま  
た、イエス様が、ご自分を  
十字架につけた人たちの  
ゆるしを神様に求めるのを  
聞きました。自分の罪もゆ



るされるだろうか？自分のようなものでも、  
あの方の国に入れてもらえるだろうか？イ  
エス様だけが、彼の希望になっていました。

### ルカ 23:39-42。

この強盗が話しかけると、十字架のま  
わりにいた人たちや兵士たちまでもが耳  
をかたむけ、イエス様がお答えになるの  
を待ちました。43節。

イエス様はこうお答えになりました。  
「今日あなたに、いつの日か、あなたが  
私といっしょに天国にいることを約束しま  
す。」イエス様が彼の罪をおゆるしになっ  
たので、強盗の心には平安がおとずれま  
した。彼はいつの日かイエス様の王国で、  
イエス様と共に過ごせることを知ったから  
です。

世界のすべての罪が、イエス様の上に  
重くのしかかっています。これらの罪が、  
まもなくイエス様を死なせることでしょ  
う。しかし、それでもまだ、彼は他の人た  
ちのことを気にかけておられました。

十字架のまわりを、黒い雲がおおっ  
ているように見えました。しかし、強盗に  
約束の言葉が語られたとき、明るい光が  
十字架のまわりで輝き、彼の心は平安に  
みたまされたのでした。

十字架にかけられた自分を見ている

大勢の人たちを見おろし  
て、イエス様は、ある大切  
な人に目をとめられました。  
それはだれでしたか？ヨハ  
ネ 19:25。

イエス様の母が気を失っ  
たとき、弟子たちは、彼女  
を十字架から少し離れたところにつれて  
行きました。しばらくするとマリヤの意識  
がもどったので、ヨハネは、彼女をふた  
たび十字架のところへ連れてきました。ど  
うしても息子のそばにいたいと、彼女が  
願ったからでした。イエス様は、泣きな  
がら立ちつくしている母を見ておられまし  
た。彼女がどれだけ悲しみ、失望してい  
るか、またどれほどわが子のことを助け  
たいと望んでいるのかを、イエス様はご  
存知でした。イエス様は、母のことを深く  
愛しておられたので、だれか彼女の世話  
をする人が必要なことを知っておられまし  
た。イエス様は彼女に、何とおっしゃいま  
したか？それから、ヨハネに何とおっしゃ  
いましたか？26,27節。

**考えてみよう：**母の面倒をみてるよ  
うヨハネにお願いしたイエス様は、十戒  
のどの戒めを守っておられましたか？また、  
ふたりの強盗が、どれほどちがう選  
びをしたか、わかりますか？

## きんようび 金曜日

神様が罪をどれほど憎んでおられる  
かを、イエス様はひしひしと感じ  
ておられました。最後に罪が永久に滅ぼ



されるとき、ゆるされていない罪のある人たちは、この日イエス様が味わわれたのと似たような経験をするでしょう。罪をイエス様にとり除いていただかなければ、その罪はわたしたちの一部となり、わたしたちは罪といっしょに滅ぼされてしまうでしょう。

イエス様は、父なる神様に見捨てられ、ひとりぼっちになったように感じておられました。ひとつも罪を犯しておられないにもかかわらず、わたしたちのすべての罪が彼の上におかれ、これらの罪のために死にかけておられました。罪を捨てようとしなかったために、神様から永久に滅ぼされる人たちと同じ死を味わっておられたイエス様でしたが、彼はそれでも、父なる神様に信頼しておられたのでしょうか？また、死にいたるまで、救いの計画に完全にしがわれるのでしょうか？

時はお昼ごろでした。するととつぜん、あたりが暗くなりました。本当に真っ暗でした。この暗闇におおわれた3時間ほどのあいだ、サタンは、イエス様が父なる神様に信頼するのをやめさせようと手をつくしていました。いま背負っている罪の重荷はあまりにも大きすぎて、父なる神から見捨てられ、最後は永遠の死をむかえるのだと、サタンはささやきました。イエス様の心は、悲しみでいっぱいでした。もうこれ以上、生きる力は残っていないようでした。マタイ 27:45,46。



しかしそれでも、イエス様は父なる神様に信頼しつづけました。天使たちはどんなに、イエス様を助けたいと願ったことでしょう！しかし、それはゆるされませんでした。彼を助けたら、人間を救うための計画は、台無しになってしまいます。イエス様は、わたしたちの罪のため苦しんでおられたのです。

とつぜん、十字架のまわりの暗闇が消えました。するとイエス様は、「終わった！」と大声で叫びました。そして頭をたれ、息を引きとられました。イエス様は、この恐ろしい死からわたしたちを救うために、自らその死の苦しみを受けて下さったのです。ああ、イエス様はどんなに、わたしやあなたを愛しておられることでしょう！

**考えてみよう：**ほとんどの人は、何がイエス様を死にいらせたのかを、はっきりと理解していません。彼を死なせたのは、十字架に彼を打ちつけた釘ではありませんでした。いばらの冠でもありませんでした。引きさかれ、血まみれになった背中の傷が、イエス様を死なせたのでもありません。

また、十字架刑による痛み  
のせいでもありません。あまりにも大きなわたしたちの罪の重荷が、人間であられたイエス様の心臓をこわしてしまっていたのです。これまでも、神様にしがった多くの人たちが、ひどい目にあって命をうばわれてきました。しかしひとりとして、イエス様のように、神様から永遠に引き離されたと感じ

じて死んでいった人はいなかったはずで  
す。わたしたちの罪の重荷があまりにもす  
ごく、**極限**の苦しみを味わわれたのでし  
た。イエス様は、わたしとあなたのために  
死んで下さいました。わたしたちを愛する、  
その大いなる愛に感謝しようではありませんか！

## まな もっと学ぼう！

★マタイ 27:15-49

★マルコ 15:6-36

★ルカ 23:8-44

★ヨハネ 18:39-19:29

★**各時代の希望** 77, 78章  
(下巻 p. 236-280) ;



## くうき いしゃ 空気はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

そ う ぞうしゅう だいふつか かみさま  
**創** 造週の第二日に、神様はわたし  
たちが呼吸するための空気をお  
つくりになりました。あたりを <sup>み</sup> 見まわしてみ  
ましよう。空気が見えますか？目には見え  
ませんが、どこにでもありますね。人間、  
どうぶつ しょくぶつ  
動物、植物のすべては、生きるために  
くうき ひつよう  
空気を必要とします。何週間か何も食べ  
なくても、死ぬことはありません。また  
すうじつ  
数日であれば、水を飲まずに生きること  
ができます。しかし、呼吸するための空気  
がなければ、ほんの数分 <sup>すうぶん</sup> で死んでしま  
います。

ねに酸素を <sup>さんそ</sup> 与えられなくてはなりません。  
かみさま しんぞう はい とも はたら からだじゅう  
神様は、心臓と肺が共に働いて、体中  
に酸素を <sup>さんそ</sup> 行きわたらせることができるよう  
に、わたしたちの体をお造りになりました。  
さいぼう さんそ つか にさんかたんそ  
細胞が酸素を使いきると、二酸化炭素  
というガスが <sup>のこ</sup> 残ります。体に必要な  
にさんかたんそ いき は  
二酸化炭素は、あなたが息を吐くときに  
からだ だ  
体から出されます。

**お医者さんである「運動」**は、べつのお  
お医者さんである「空気」がむだなく働  
けるように、お手伝い <sup>てつだ</sup> をします。庭の土  
を耕すときや、走る <sup>はし</sup> とき、サイクリングを  
するときには、呼吸が <sup>こきゅう</sup> 深くなりますね。そ  
うすることであなたは、より多くの酸素を  
はい  
肺にとり入れることになりま  
す。すると、より多くの酸素  
があなたの細胞 <sup>さいぼう</sup> に届けられ、  
さいぼう はや はたら  
細胞はより速く、よりよく働く  
ことができるのです。



**新鮮な空気**は、あなたの体におどろくよ  
うな効果 <sup>こうか</sup> をもたらします。そのいくつかを  
しょうかい  
紹介 <sup>しょうかい</sup> しましょう。

- 脳の働きを良くします。
- 考える力が増します。
- より速く、学習 <sup>がくしゅう</sup> することができます。
- よく眠れるようになります。
- 幸せな気分 <sup>きぶん</sup> になります。

**新鮮な空気**は酸素 <sup>さんそ</sup> を含んでい  
るので、わたしたちにとってた  
いへん重要な <sup>じゅうよう</sup> のです。人間の  
からだ  
体には、なんと百兆もの細胞 <sup>さいぼう</sup> が  
あります。そして一つひとつの  
さいぼう  
細胞は、それぞれの働き <sup>はたら</sup> をするため、つ

なが じかん  
長い時間、**閉め切った部屋に閉じこも**  
**ていると**、部屋の空気は何度も呼吸 <sup>こきゅう</sup> に使  
われるので、細胞が働くための酸素 <sup>さんそ</sup> が足  
りなくなってしまいます。  
こもってよごれた <sup>くうき</sup> 空気を  
す 吸うこと <sup>す</sup> によって、<sup>ずつう</sup> 頭痛、  
ゆううつ 不安  
憂うつ、不機嫌、不安、  
また疲れ <sup>つか</sup> などを引き起 <sup>お</sup>





こすこともあります。ですから、毎日外へ  
出て「新鮮な空気」を吸うのは、とても  
大切なことです。特に夜は、窓をあけて  
眠ることが大切です。

**あなたが、お医者さんである「空気」  
に協力できることがあります。**それは、よ  
い姿勢を保つことです。すわっているとき  
も立っているときも背筋をまっすぐにして  
いると、肺が伸びたり縮んだ  
りするためのスペースがで  
きます。そうすると深く呼吸  
ができて、細胞にはたくさ  
んの酸素が行きわたるとい  
うわけです。



健康は宝です。また子どもたちに、  
自分の体を大事にすることを教えること  
は、永遠に重要な課題です。モーニング  
タイム・ミニストリーは「8つのお医者さん」  
という、子どものための健康科目をつくり  
ました。

( )内の文字をならべかえ、正しい言葉にして空欄を埋めましょう。

また数字が必要な所には、数字を書きいれましょう。

- あなたの細胞は、それぞれの働きをするために、一定の \_\_\_\_\_ (そんな) を与えられる  
必要があります。
- あなたが \_\_\_\_\_ (うどうん) をすると呼吸は深くなり、それによってたくさんの酸素  
を含んだ空気をより多くあなたの \_\_\_\_\_ (いは) に取り入れることができ、細胞は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ (よよりく) 働くことができるようになります。
- あなたがよい \_\_\_\_\_ (せしい) を保つことによって、さらに多くの酸素を細胞に与えるこ  
とができます。
- 神様は、お医者さんである「空気」を、創造週の第 \_\_\_\_\_ 日にお造りになりました。
- 毎日外へ出て、 \_\_\_\_\_ (んせしん) な \_\_\_\_\_ (うきく) を吸いましょう。

# だい しょう 第 12 章 し いのち 死から命へ



子供のための日々の  
聖書研究ガイド

## あんしょうせいく 暗唱聖句

「キリストは必ず苦難を受け、そして死人の中からよみがえる。」  
使徒行伝 17:3



にちようび  
日曜日

イエス様は、世界中のすべての人の罪を背負い、わたしたちのために死んで下さいました。

イエス様がこの地上で生活しておられたあいだ、サタンはどうにかして、彼を十戒に違反させようと、あらゆる手段をつ

くしました。しかしイエス様は、ただのい子ども誘惑に負けませんでした。十字架の上でさえ、サタンはイエス様が父なる神様をうたがうように誘惑しました。しかし、神様から見捨てられたと感じておられたにもかかわらず、イエス様は亡くなられるその瞬間まで、神様に信頼しつづけました。こうしてイエス様は、神様の助けに頼るならば、何が起ころうと、どんな気持ちになっても、人間が神様に信頼したが従うことができることを証明なさったのでした。

イエス様が息を引きとられたとき、神殿ではちょうど、祭司が夕方の犠牲である小羊を殺そうとナイフをふり上げたところでした。するととつぜん、何かが引きさかれたような大きな音が聞こえ、地面が大きくゆれました。ナイフは祭司の手から落ち、小羊は走って逃げます。いったい、何が起こったのでしょうか？ **マタイ 27:50,51**。

神様は、わたしたちのために命をささげる真の小羊を思い起こさせるための犠牲の小羊は、もうこれ以上ささげられる必要がないことを、お示しになったのでした。

真しんのこひつじ小羊は、もうすでに来たきのです。その小羊が、十字架こひつじの上うえでわたしたちのために死しなれたのでした。わたしたちの罪つみが、彼かれを殺ころしたのです。



神殿しんでんの幕まくの後ろうしにある至聖所しせいじよは、神様かみさまがご臨在りんざいなさる場所ばしょで、そこには大祭司だいさいししか入はいることが許ゆるされませんでした。ところが、その金曜日きんようびの午後ごごに幕まくが引き裂ひかれ、部屋へやはまる見えみになりました。なぜでしょう？

わたしたちの本ほん当とうの大祭司だいさいしは、イエス様さまです。イエス様さまに頼たよる信仰しんこうによって、わたしたちはおどろくべき愛あいにみちた天てんの父ちちなる神様かみさまと、祈いのりをとおしてお話はなしすることができます。地上ちじょうの神殿しんでんと祭司さいしは、もはや必要ひつようありません。イエス様さまは今いま、天てんにある神殿しんでんの至聖所しせいじよで大祭司だいさいしとして、私わたしたちの救すくいのために働はたらいておられるのです。なんてすばらしいことでしょう！

**かんが**  
**考えてみよう：**イエス様さまがわたしたちの大祭司だいさいしであられることを、あなたはうれしく思おもいますか？彼かれのおかげで、わたしたちは救すくわれて、永遠えいえんに生きることができるようになるのです。わたしたちはどうやって、イエス様さまとの親したしい関係かんけいをたもつことができますか？

## げつようび 月曜日

イエス様さまが亡なくなられる3時間前じかんまえ、暗闇くらやみがあたりをおおいました。いなずまいなずま稲妻いなずまがひらめくと、おびえた人々ひとびとの目めに十字架じゅうじか上のイエス様さまがうつりました。太陽たいよう

がふたたび輝かがやき始はじめても、イエス様さまの十字架じゅうじかはまだ暗闇くらやみに包つつまれていました。それはまるで、イエス様さまの受うけておられる恐おそろしい苦くるしみかくを、隠かくしているかのようでした。その暗闇くらやみ

が去さったとき、イエス様さまは大声おおごえで「終おわった！」と叫さけんでから、息いきをひきとられました。十字架じゅうじかのすぐそばに立たっていた兵士へいしは、何なんと言いいましたか？マルコ 15:39。

その瞬間しゆんかん、大きな地震おおが起こおこりました。すると、義ぎの生涯しやうがいのをおくって死しんだ人々ひとたちの墓はかが多く開ひらかれました。マタイ 27:51-53。

心こころを痛いためていたイエス様さまの母ははや弟子でしたち、また友人ゆうじんたちは、イエス様さまが息いきを引ひきとられるのを見ていました。たった数時間すうじかんのうちに、彼らかれの希望きぼうは消きえてなくなっなってしまいました。彼らかれの夢見ゆめみていた強きやうりよく力ちからな王おうと王国おうこくも、はかなく消きえ去さりました。自分じぶんたちも死しんでしまおもいたほどでした。

祭司さいしや民たみの指導しどう者しゃたちは、安息日あんそくにちに、遺体いたいを十字架じゅうじか上じやうに残のこしておきたくありませんでした。そこで、兵士へいしたちはどうするよめいうに命いのちじられましたか？ヨハネ 19:31-34。

弟子でしたちは、イエス様さまの敵てきたちが彼かれの遺体いたいをどうするのか、またどこに埋葬まいそうするのか、かんがえただけでも耐たえられませんでした。また、たとえ自分じぶんたちがイエス様さまを埋葬まいそうする許可きよかを得えたとしても、貧まずしすぎて、傷きずついたイエス様さまのお体からだをきれいにし、りっぱなお墓はかに入れることはできないでしょう。いったい、どうすればよいのでしょ



う？

**かんが**  
**考えてみよう**：イエス様のおっしゃった  
「終わった！」とは、何を意味していまし  
たか？何が終わったのですか？

## かようび 火曜日

その日、ふたりの裕福な男がイエ  
ス様の最期を見ていたことに、  
弟子たちは気づきませんでした。このふた  
りも、イエス様を愛していました。弟子た  
ちがイエス様の遺体をどうすべきか考えて  
いたとき、彼らが助けてくれました。だれ  
でしたか？また、彼らは何をしましたか？  
**ヨハネ 19:38-40。**

イエス様の遺体を  
十字架からおろした弟子た  
ちの目から、涙が流れまし  
た。彼らは、大切な遺体を  
どうしましたか？また、イエ  
ス様はどこに葬られました  
か？ **41,42 節。**

その墓は、自分が死んだ  
時のためにヨセフがつくら  
せたものでした。イエス様  
のためにそれを使うことができ、彼はど  
れほどうれしく思ったことでしょう！イエス  
様がヨセフの墓に葬られあと、墓の入口  
はどのように閉じられましたか？だれがそ  
こを見張っていましたか？ **マタイ 27:59-  
61。**

わたしたちを創造なさったあと、最初の

安息日をお休みになったように、イエス  
様はわたしたちのために死なれたすぐあとの  
安息日に、墓の中でお休みになりました  
。ほかの人たちは、その安息日に何を  
していましたか？

安息日の間、まる一日、イエス様は墓  
の中で休んでおられました。しかしほかの  
人たちは、どんな気持ちでその日をすごし  
ていたでしょうか？ピラトは自分がイエス  
様の死刑をみとめたことがまちがっていた  
と気づいてはいましたが、あまり深くは考  
えませんでした。

祭司と民の指導者たちは、憎くてたまら  
なかった敵を死に追いやって満足するは  
ずでしたが、かえって怖くなってしまいま  
した。墓の入口はかたく閉じられ、百人

もの兵士たちが見張りを  
していたにもかかわらず、  
祭司と民の指導者たちは、  
イエス様が3日のうちによ  
みがえると言われたことを、  
くり返し思いだしていまし  
た。それに加えて、多くの  
人が、祭司たちのことを  
怒っていました。過越しの  
祭りの機会に、イエス様に  
お会いしようとして来た

病人や貧しい人たちは、ひどくがっかりし  
ていました。だれもが、金曜日に起こった  
ことについて話したり考えたりしていまし  
た。 **マタイ 27:62-66。**

これまでヨセフとニコデモは、イエス様  
を信じていることをだれにも話していませ  
んでした。それでも、議会がイエス様に



害を加えるようなことを決めようとしたときには、反対してそれをとめようとしていました。そして今は、自分たちがイエス様の味方であることをかくしませんでした。

イエス様の弟子たちは、あまりにもがっかりしてしまい、体の具合が悪くなるほどでした。祭司や民の指導者たちですら、死んでもよみがえると言われたイエス様の言葉をおぼえていたのに、弟子たちはそのことを忘れていたのです。

**考えてみよう:** あなただったら、その日をどんな気持ちで過ごしていたでしょうか？

### すいようび 水曜日

3 日目によみがえると約束なされたイエス様の言葉を、弟子たちはすっかり忘れていました。彼らは、イエス様がヨナのしるしについてお話なさったことを忘れていました。マタイ 12:39,40。聖書の時代には、どの時間から始めたとしても、その日を1日目と数えました。イエス様は金曜日に亡くなられたので、その日が1日目ということになります。彼がヨセフの墓の中で休まれた安息日は、2日目です。そして、安息日が終わる日が沈む時間から、3日目が始まりました。イエス様はまだ墓の中におられます。そのお約束は果たされるのでしょうか？

ローマの兵士たちは、墓を見張っていました。またそれ以外に、目には見えないふたつの軍隊が同じ場所を見張っていました。

死んでもよみがえると言われたイエス様

の言葉を、弟子たちは忘れていましたが、サタンはそれを覚えていました。もしも本当に復活したら、サタンも彼の悪天使たちにも、もう望みはありません。サタンの王国は終わりをむかえ、彼にしたがうことを選んだすべての者たちは、永遠の死が決定します。逆に、イエス様とその王国を選んだすべての人たちは、たとえ死んでもいつの日かよみがえらされ、永遠に生きることになります。ですからサタンは、自分の一番強い軍隊を墓のまわりにおいて、イエス様が墓から出てこれないようにしていたのです。

しかしそこには、サタンの軍隊よりももっと強い、義の天使たちの軍隊もいました。彼らはイエス様が墓から出てこれるのを知っていて、彼をお迎えしようと待ちました。

とつぜん、真夜中の一番暗いときに、何が起こりましたか？マタイ 28:2-4。

サタンの軍勢はあまりの恐ろしさに、サタンを残して逃げ出したのでした。

**考えてみよう:** わたしたちはまだ、神様について分からないことがたくさんあります。また、イエス様が神様でありながら人間であられたことも、よくわかっていません。しかし、多くの苦しみを受けることがあったとしても、人間であられるイエス様は、わたしたちの思いを分かってくださいます。

### もくようび 木曜日

日曜日 曜日の朝、ひとりの天使が、巨大な石をイエス様の墓からとりの

けるためにやってきました。サタンの軍勢は逃げ出し、怖くなったローマ兵たちは何もできずに地面に倒れました。彼らは、天使が墓の入口にあった巨大な石を、まるで小石でもころがすかのように動かすのを見ました。そして、天使がこう言うのを聞きました。「神のみ子よ、出てきて下さい。父があなたを呼んでおられます。」

別の天使は、イエス様が起き上がるように、死者をくるんでいる布を、そのお体からとりのぞきました。すると、イエス様が起きあがられました。彼はご自分をくるんでいた布をきれいにたたみ、それから歩いて墓の外へと出て行かれました。光輝く天使たちはまだ墓の外にいて、うやうやしくイエス様におじぎをして迎えながら、喜びの歌をうたいました。

ローマ兵たちは、天使たちの声を聞き、彼らの姿を目の当たりにしました。そして、イエス様が墓から出てこられて、はっきりと力づよい声でこう言われるのを聞きました。「わたしはよみがえりであり、命である。」

この堂々としたおかたが本当に、自分たちが金曜日の午後にあざわらい、ばかにしたあの男なのだろうか？そのとおりです。彼らは一目見て、このおかたが神のみ子であることがわかりました。

天使たちが去って、その輝きが次第に消えて行くと、ローマ兵らはやっとのこと

で立ち上がりました。彼らの顔は青ざめ、ふるえています。また、まるで酔っているかのように、よろめいています。それからこの出来事をピラトに伝えるために、大急ぎでエルサレムへ向かいました。道の途中で会ったすべての人にも、このことを語って聞かせました。

**考えてみよう：**イエス様を愛し信頼していた多くの人たちは、すでに亡くなっています。イエス様が来られるとき、彼らはどうなりますか？

## きんようび 金曜日

ピラトのもとへ向かう途中、ローマ兵たちは会う人みんなに、イエス様の墓での出来事を話して聞かせました。その話は、すぐに祭司たちにも伝わりました。そして彼らは、ピラトのところではなく、まず自分たちのところへ来るようにと、ローマ兵につかいを送ったのでした。

ローマ兵から話を聞いた祭司たちの顔は、恐ろしさで真っ青になりました。大祭司のカヤパですら、言葉が出てきません。しかし兵士たちが帰ろうとすると、カヤパの口がようやく開きました。「待ってくれ！このことは、だれにも話さないように。金をやるから、こう言い広めてくれ。見張りの自分たちが眠っている間に、イエスの弟子たちがやってきて、遺体を盗み出し





たと。万が一総督に知られても、そなたたちが罰を受けなくても済むように、われわれがとりはからうから。」 **マタイ 28:11-14。**

ローマ兵たちは、見張りをしているはずの時に居眠りをしたとなれば、死罪になるのを知っていました。彼らがあえて、そんな嘘をつくでしょうか？しかも、彼らはすでに大勢の人に話してしまっています。聞いた人たちは、彼らの話しぶりから、それが嘘ではないことがわかったはずで

ところが、祭司たちが自分たちを守ってくれると約束し、おまけに口止め料までくれたので、兵士らは祭司たちから言われた作り話を広めて、たくさんのお金をもらうことに決めたのでした。 **15 節。**

祭司たちは、ピラトがすでに、この出来事についての真実を聞いていたことを知りませんでした。

**考えてみよう：**あなたやあなたの友人が明らかにまちがったことをしているとき、ついだれにも「言わない」約束をしたり、ほかの友だちにも、人に言わないようにお願いしたりすることがないでしょうか？友だちから、「もし秘密にしていってくれたら、何かいい物をあげるから」と言われたことはありますか？このような約束をするのは、よいことですか？なぜ、それはいけないことなのでしょう？

## まな もっと学ぼう！

★ **マタイ 27:50-66;28:1-4;11-15;**

★ **マルコ 15:37-47**

★ **ルカ 23:45-56**

★ **ヨハネ 19:30-42**

★ **各時代の希望 78 章 (下巻 p. 278) -81 章**



## きゅうそく いしゃ 休息はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

**神**様は、創造週そうぞうしゅうのどの日ひにも、お医者さんである休息きゅうそくをお造りにつくなりました。創造の働きを終えた1日の最後には、翌日あしたまで休むための夜がありました。神様は、わたしたちの体が休息するように設計せつけいなさいました。睡眠は、体を休めることができるひとつの方法です。わたしたちの体は、眠っている時に成長せいちょうします。体は傷ついたところを修理して、次の日の学びや仕事や遊びに備えさせるのです。



**お**医者さんである休息は、あなたの健康と幸福にとってとても重要です。もしあなたが5歳から12歳なら、毎晩少なくとも10時間は眠るべきです。あなたは何時間眠っていますか？



**十分な睡眠をとらないと、次のようになります。**

- ・不機嫌になります。
- ・なかなか集中できなくなります。
- ・よい判断ができなくなります。
- ・病気にかかりやすくなります。

### 夜の間によく眠るためには、荷をしたらよいでしょう？

- ✓ 眠る時間と起きる時間を規則正しくしましょう。眠るのに一番よい時間帯は、夜中の12時より前です。
  - ✓ 毎日、外で日光に当たる時間をもちましょう。日光は、よく眠るための物質を体を作るのを助けます。
  - ✓ 夕食を食べ過ぎないようにしましょう。胃がまだ働いているうちは、よく眠れません。
  - ✓ 眠る前に温かいお風呂に入り、礼拝をすると、リラックスしやすくなります。
  - ✓ 眠るためのお部屋をいつもきれいにし、新鮮な空気をとり入れるために窓を開けましょう。
  - ✓ ベッドに入ったら、イエス様がわたしたちをあらゆる方法で守って下さることを考えましょう。また、暗唱聖句を言いましょう。
- 空欄を埋めましょう。
1. 神様は、お医者さんである \_\_\_\_\_ をお造りになりました。
  2. 外に出て、\_\_\_\_\_ を浴びる時間を持つことで、夜の間によく眠れるようになります。
  3. 眠るときには、窓をあけて \_\_\_\_\_ な空気をとり入れましょう。

4. 眠る時間ねむ じかんと起きる時間お じかんを\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_しましょう。

5. 体は、眠っている間からだ ねむ あいだに\_\_\_\_\_します。

6. 5歳さいから12歳さいの子供こどもは、毎晩まいばん少なくとも\_\_\_\_\_時間じかんは眠るねむべきです。

健康けんこうは宝たからです。また子こどもたちに、  
自分じぶんの体からだを大事だいじにすることを教おしえること  
は、永遠えいえんに重要じゅうような課題かだいです。モーニング  
タイム・ミニストリーは「8つのお医者いしやさん」  
という、子こどものための健康科目けんこうかもくをつくり  
ました。





しゅ  
主はよみがえられた！

あんしょうせいく  
暗唱聖句

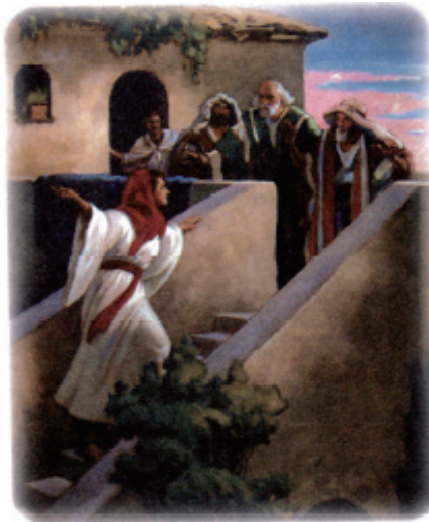
しゅ  
「主は『わたしは決してあなたを離れず、あなたを捨て  
ない』と言われた。』ヘブル 13:5

にちようび  
日曜日

イエス様は、金曜日にわたしたちの  
身代わりとなって死なれ、日曜日  
の朝早くに、墓から出てこ  
られました。本当に、よみ  
がえられたのです！

墓の見張りをしていた  
兵士たちはイエス様を見た  
ので、彼が生きておられる  
ことを知っていました。し  
かし彼らは、自分たちが  
眠っている間にイエス様の  
弟子たちが来て遺体を盗  
みだした、という嘘を広め  
る約束で、祭司たちからお金を受けとっ  
ていました。仕事中に居眠りをするのが  
死罪にあたるため、祭司たちはピラトにと  
りはからって、兵士たちが死刑にされない  
ように守る約束をしました。

実はすでに、だれかがピラトのところへ



行って、出来事の一部始終を伝え、それ  
を聞いたピラトが恐れおののいていたこと  
を、兵士たちも祭司たちも知りませんでした。  
祭司たちがピラトのところへ行って話  
すと、ピラトはその話が嘘だとわかってい  
たので、自ら兵士らと話  
をするまでは、彼らを罰  
しないという約束はしませ  
んでした。

兵士たちはピラトに嘘  
を言うことを恐れたので、  
すべて起こったとおりのこ  
とを話しました。彼らが  
真実を語っているのが、  
ピラトにはわかりました。  
そして、その時から死ぬ  
までの間、ピラトには平安がありませんで  
した。神のみ子を殺す許可を与えてしまっ  
たことが、はっきりわかったからです。

イエス様が亡くなられたとき、十字架の  
そばにいた女たちは、彼の遺体を納める  
お墓までついていきました。日曜日の朝、

よる あ まえ かのじょ  
夜が明ける前に彼女たち  
は、イエスさまの遺体(いたい)にぬ  
るための香料(こうりょう)をもつてき  
ました。マグダラのマリ  
ヤも、金曜(きんよう)の午後(ごご)、最後(さいご)  
まで墓(はか)に残(のこ)っていた女(おんな)  
たちのひとり(ひとり)で、日曜(にちよう)  
朝(あさ)一番(いちばん)に墓(はか)へともどつて  
きていました。



マリヤが墓(はか)への道(みち)を急(いそ)いでいたころ、太陽(たいよう)はまだ昇(のぼ)っていませんでした。とつぜん、空(そら)に輝(かが)く光(ひかり)があらわれ、地面(じめん)がゆれました。何が起(お)こったのかと、マリヤはおどろいたこと(こと)でしょう。また、いったいだれ(だれ)が、入口(いりぐち)をふさいでいたこの巨大(きょだい)な石(いし)を動(うご)かしたのかとふしぎに思(おも)いました。

墓(はか)へやってきたとき(とき)の、マリヤのおどろいている姿(すがた)を想(そうぞう)してみてください! だれもないのに、墓(はか)の石(いし)が転(ころ)がされています。彼女(かのじょ)は走(はし)ってペテロとヨセフのところ(ところ)へ行き、墓(はか)からイエスさまのお体(からだ)がなくなっていることを伝(つた)えました。マリヤには、何(なに)が起(お)きたのか(か)まるでわかりません。ヨハネ 20:1,2。

**かんが**  
**考えてみよう: あなたがマリヤだったら、どんな気持ちだったでしょう?**

## げつようび 月曜日

マリヤはイエスさまの墓(はか)から大急(おおいそ)ぎでペテロとヨハネのところ(ところ)へ行き、墓(はか)で見た(み)たことを伝(つた)えました。マリヤがいない間(あいだ)に、何人(なんにん)か



おんな こうりょう  
の女(おんな)たちが香料(こうりょう)をたずさえてやってきました。彼女(かのじょ)たちもまた、墓(はか)の石(いし)が動(うご)かされているのを見ておどろき、わけがわからなくなりました。しかも、イエスさまのお体(からだ)がなくなっているではありませんか。ルカ 24:1-3。

とつぜん、自分(じぶん)たち以外(いがい)のだれか(だれ)がいることに気づ(き)きました。ルカ 24:2-8。

この天使(てんし)は、イエスさまが生き(い)ておられることを告(つ)げました。すると女(おんな)たちは、弟子(でし)たちに伝(つた)えるため急(いそ)いでエルサレムにもどりました。途中(とちゆう)で、だれと会(あ)いましたか? マタイ 28:8-10。

からっぽの墓(はか)のことを聞(き)いたペテロとヨハネは、自分(じぶん)の目(め)で確(たし)かめようとすぐ(すぐ)に走(はし)って行(い)きました。たしかに、マリヤの言(い)ったとお(お)りでした。ヨハネ 20:2-10。

しかしマリヤは、まだイエスさまが生き(い)ておられることを知(し)りません。ほかの女(おんな)たちはイエスさまにお会(あ)いしましたが、マリヤが墓(はか)へもど(もど)って来(き)たとき(とき)には、もうその

場(ば)を去(さ)っておられました。祭司(さいし)と民(たみ)の指(し)導(どう)者(しゃ)たちはそのことを知(し)っていました。が、嘘(うそ)をついて、弟子(でし)たちがイエスさまの遺(い)体(たい)を盗(ぬす)んだのだ(のだ)と言(い)っていました。そ



のことを耳にした弟子たちは、自分たちの身に危険がおよぶのではないかとこわくなりました。

**かんが**  
**考えてみよう：ヨハネ 20:6,7**をもういちど、読んで下さい。イエス様は、ご自分をくるんでいた布を、墓の床に投げ捨てたりしませんでした。それらをご自分の手で、きちんとたたんでおかれたのでした。このことは、身のまわりの物をきちんと整理することがどれほど大切かについて、わたしたちに教えているのでしょうか？あなたの服や部屋は、きちんと整理されていますか？

## かようび 火曜日

**か**らっぽの墓へ向かったペテロとヨハネについて行ったマリヤは、ふたりの弟子がエルサレムへもどったあとも、墓に残っていました。

いろいろなことを考えているあいだに、マリヤはどうとう泣き出してしまいました。イエス様のお体はどこへもって行かれたのだろうか？いたい、何があったのだろうか？彼女は、喜んでイエス様のお体をひきとるつもりでした。ラザロの墓がいていたので、そこにイエス様を葬ることもできました。墓の中をのぞいてみる



と、人間の姿をしたふたりの天使がいました。彼らが「なぜ泣いているのですか？」とたずねたので、マリヤは答えました。ふり返ると、別のだれかが同じことをたずねました。ヨハネ 20:11-15。

マリヤの目には涙があふれていたもので、それがイエス様であることに気がつきませんでした。しかし、イエス様が彼女の名前を呼ばれると、急にそのお声を思い出します。16,17 節。

その時は、イエス様とあまり話をする時間がありませんでしたが、それでも、弟子たちのところへ走って行くマリヤの、喜びにあふれたようすが想像できますか？

イエス様が生きておられ、ガリラヤで弟子たちに会おうとしておられるということ、彼らは二度も聞かされました。とくに、ペテロにははっきりこのことを伝えるようにと、イエス様は言われました。ペテロが、2日前にしまったことをひどく

後悔していたからです。それでも弟子たちはまだ、イエス様が生きておられるということが信じられません。彼らは、女たちが夢を見たのにちがいないと思いました。

**かんが**  
**考えてみよう：弟子**たちが恐れ、悲しんでいた一方で、イエス様は天のお父様と会っておられました。



イエス様は、お約束を果たされたのです。人間となられて、ただのいぢども罪を犯すことなく生き、わたしたちの身代わりとなつて死んで下さいました。イエス様は、今も生きておられます。ご自分がなされたすべての働きによって、わたしたちも彼と同じように生きることができるよう、力を与えることがおできになるのです。

## すいようび 水曜日

人間は死んだら天国に行く、多くの人が考えています。イエス様はどうでしたか？いいえ。イエス様はマリヤに、まだ天国に行っていないと言われました。しかしその後、父なる神様とお会いし、ご計画が果たされたことをお聞きになったのでした。この世界は、もはやサタンのものではなくなりました。そして、イエス様の助けに頼るなら、わたしたちもサタンにしたがわなくていいのです。神様とイエス様のこの会議が、どんなにうれしい再会の時になったか、あなたには想像ができますか？ヨハネ 20:17。

しかしイエス様は、ご自分が天の聖所で大祭司となられる前に、彼が生きておられることを弟子たちに分からせなくてははいけません。また、イエス様が与えようとなさっている特別な贈り物を、弟子たちが受けられるよう、備えさせてあげなくてははいけません。イエス様はこれからも、神であられると同時に人間でもあられます。それゆえに、これまでと同じように、弟子たち一人ひとりのそばにいることはで

きなくなります。しかし、これから彼らに与えようとしておられる素晴らしい贈り物は、イエス様に代わって、いつでも彼らと共にいることができるのです。

イエス様は、その日の午後にはもう地上にもどつて来られました。弟子たちがどれほどおどろき、とまどっているかをぞんじで、彼らをなぐさめたいと思つておられました。同じ日の夕方ごろ、ふたりの弟子が、悲しそうに話しながら、家へ帰る途中のでこぼこ道を歩いていました。そこへイエス様がやって来て、彼らが何を話しているのか、またなぜ悲しんでいるのかをたずねました。ルカ 24:13-17。

このふたりの弟子は、イエス様の質問におどろいてしまいました。まさかこの人は、この週末に起きた事件について何も知らないのだろうか？ 18 節。

**考えてみよう：**イエス様はこのふたりの弟子に、多くのことを語る必要がありました。もしも、旅の途中で出会ったこの人がイエス様だと気づいたら、あまりにも興奮して、注意深くお話を聞くことはできなかったでしょう。

## もくようび 木曜日

イエス様は、エマオにある家へ向かうふたりの弟子と共に歩いておられましたが、彼らは、イエス様に気づいていませんでした。

彼らに、なぜ悲しそうにしているのかをたずねると、イエスという人が十字架にかけられ、新しい王国への希望がつぶれて

しまったのだと答えました。彼らはまた、女たちから聞いたからっぽの墓のことも話しました。ルカ 24:19-24。

その時イエス様は、何百年も前に預言者がメシヤについて書いたことを、彼らに思い出させました。イエス様は、モーセの書き物にまでさかのぼり、犠牲の小羊をささげることと、聖所でのすばらしい儀式の意味を彼らに思い起こさせたのです。25-27 節。

預言者らは、メシヤについて多くのことを預言していました。彼が生まれる場所、人々をいやし助けること、また、人々が彼をどのように扱うかなどについてです。さらに預言者らは、メシヤが亡くなる年や、彼の親しい者による裏切り、またどのような最期をとげるのかについてまで書いてありました。

ふたりの弟子は熱心に聞くうちに、希望がわいてくるのを感じました。それはまるで、今まで見えなかった目が、急にひらけて見えるようになったかのようなようでした。

イエス様が聖書について語り終えるまでに、あたりはもう暗くなりかけていました。彼らの家があるエマオの町へ到着すると、イエス様はそのまま旅をつづけるようなようすでした。しかし彼らは、自分たちの家に泊まってほしいとたのみました。28,29 節。



彼らの用意したそまつな食事を食べようと席についたとき、何が起こりましたか？ 30,31 節。

### かんがえてみよう:

旧約聖書にイエス様のこととはあまり書かれていないと、多くの方は思っています。しかし聖書全体は、イエス様について語られているものです。

旧約聖書には、特にイエス様の初臨〔最初に地上に来られるとき〕のことと、受難〔人のために悩み苦しみを受けられるとき〕のことと、またわたしたちのために死なれることが書かれています。そして旧約聖書、新約聖書のどちらにも、イエス様のご再臨、つまり、いつかわたしたちを迎えにおいでになり、天国へつれて行って下さることについて書かれています。

## きんようび 金曜日

復活なされた日の夕方、イエス様は、エマオの家へ向かうふたりの弟子といっしょに歩きながら話しておられました。夕食を食べ始めるときまで、いっしょに歩いていた人がイエス様だとは気づきませんでした。食べようとしてとつぜん、どなたであるかが分かったのです。ところがその瞬間、イエス様のお姿は見えなくなってしまいました。ルカ 24:31,32。

もう、夕食どころではありません。今す

ぐエルサレムにもどつて、ほかの弟子たちにも知らせたくて仕方ありません。すでに暗くなっていたのですが、みんなまだ起きています。外は真っ暗で、道は険しくでこぼこで、危険でした。とても疲れていましたが、そんなことは全く気になりません。



急いでエルサレムへ向かう途中、時にはつまずいたり道が分からなくなったりすることもありました。そんなときにも、イエス様がすぐそばにおられたことに、彼らは気づきませんでした。

エルサレムの2階にある部屋について、扉には鍵がかかっていました。ふたりは扉をたたきましたが、中は静まりかえっています。返事はありません。

弟子たちは、この2階の部屋に隠れていました。ユダヤ人から何をされるかわからないと思い、びくびくしていたからです。ふたりが名乗ると、だれかが扉を開けて彼らを部屋に入ると、またすばやく扉に鍵をかけました。目には見えませんでした。すがすがしい知らせを持ってきたふたりのそばには、イエス様が共におられました。**33-35節。**

すると、部屋の中で何が起こりましたか？ **36,37節。**

いとしいイエス様が、目の前にあらわれました！そして、手と足にあいた釘の跡

を見せて下さいました。それでも彼らがまだうたがっていたので、イエス様は何か食べる物を求め、ご自分が幽霊ではなく人間であることをお示しになりました。

**考えてみよう：** どうか、**イエス様は、ご自分**が、**彼らと3年以上とも**

にすごしたおかたであることを、弟子たちに納得させました。それから、ご自身についての預言を説明なさいました。**44-46節。** その結果、彼らは初めて預言について本当に理解したのでした。

## まなむっと学ぼう！

★マタイ 28:1-10

★マルコ 16:1-13

★ルカ 24:1-43

★ヨハネ 20:1-3

★各時代の希望 82-84章（下巻 p. 344）





## しんらい いしゃ 信頼はお医者さん

「あなたの健康と幸せを守る、神様からの8つのお医者さん」ジャナ・スミス著

わたしたちの体を良い状態で働かせるために、神様が与えて下さった7つの自然のお医者さんについて、これまでお話してきました。それらは栄養、運動、水、日光、節制、空気、休養でしたね。さて、最後にご紹介するお医者さんは「神様への信頼」です。実は、一番大切なお医者さんを、最後までとっておいたのです。本当に幸福になるために、わたしたちは神様に信頼しなくてはなりません。神様は、わたしたちの愛する創造主で、わたしたちの一番の友だちになりたいと願っておられます。ここに、神様とお友だちになるいくつかの方法をご紹介します。

**聖書は神様からわたしたちへのラブレターです。**

聖書には、わたしたち一人ひとりへのたくさんの約束が書かれています。また、神様が守って下さった人たちについての、心をうばわれるようなすばらしい物語も数多く書かれています。神様がイスラエルの民を救うために紅海の水を分かれさせたお話や、ダニエルを救うためにライオンの口を閉ざされたお話、またパウロとシラスを牢獄から救い出されたお話などを読むときには、神様がわたしたちのこともお守り下さることをはっきりと理解できます。

**神様はわたしたちとお話したいと願っておられます。**

神様は、わたしたちが神様に感謝していることや必要なことを、話してほしいと願っておられます。「主の目は義人たちに注がれ、主の耳は彼らの祈りにかたむく」第1ペテロ 3:12。神様はわたしたちのお友だちで、いつでもお話することができます。



**自然は、神様の第2の聖書です。**

わたしたちのまわりにある、すべてのすばらしいものは、神様が創造なさいました。1羽の鳥がどうして飛べるのか、考えたことがありますか？神様は鳥たちのために、体を軽くするための特殊な骨や羽、また、軽くて丈夫な空気のポケットまでお造りになりました。昔、人々は飛行機を作ろうと考えて、鳥の研究を始めました。しかしいまだに、鳥と同じような機能を備えた飛行機を作ることには成功していません。鳥が必要とするものを神様がお与えになっているのを見るとき、わたしたちにも同じように、何でも必要なものを備えて下さることがわかります。聖書にはこのように書かれています。「2羽のす



ずめは1アサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがないければ、その1羽も地に落ちることはない。またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。それだから恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である」マタイ 10:29-31。

タイム・ミニストリーは「8つのお医者さん」という、子どものための健康科目をつくりました。

## 空欄を埋めましょう。



- 神様は、創造週の第 \_\_\_\_\_ 日目に人間をお造りになりました。
- もしあなたが本当に健康で、幸福になりたいのなら、神様に \_\_\_\_\_ しなくてはなりません。
- なぜなら、神様はあなたの \_\_\_\_\_ からです。
- 神様からの \_\_\_\_\_ を読みましょう。そして \_\_\_\_\_ を通して神様とお話するのは、神様とお友だちになる一つの方法です。
- マタイ 10: \_\_\_\_\_ ~ \_\_\_\_\_ には、神様のゆるしがないければ \_\_\_\_\_ が地に落ちることもなく、神様はわたしたちの頭の \_\_\_\_\_ が何本あるかまでも知っておられる、と書かれています。

健康は宝です。また子どもたちに、自分の体を大事にすることを教えることは、永遠に重要な課題です。モーニング